

双葉町 住民意向調査 報告書

平成27年3月

復興庁
福島県
双葉町

双葉町 住民意向調査

報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 現在の避難先自治体	13
3-1-2 世帯構成・人数	15
3-1-3 職業	19
3-1-4 震災発生当時の住居形態	22
3-1-5 現在の住居形態	23
3-1-6 現在のペットの飼育状況	27
3-1-7 避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めること	28
3-2 復興公営住宅の入居意向	30
3-2-1 復興公営住宅への入居意向	30
3-2-2 復興公営住宅への入居を希望する自治体と世帯構成	34
3-2-3 復興公営住宅に入居する場合に必要なと考えるサービス	38
3-2-4 復興公営住宅へ入居しない場合の居住地の希望	40
3-2-5 現在の住居で継続して暮らしたい理由	42
3-2-6 避難期間中に転居を希望する自治体	44
3-2-7 避難期間中、転居する場合の住居形態	47

3-3	将来の意向	48
3-3-1	双葉町への帰還意向	48
3-3-2	双葉町との“つながり”を保ちたいか	53
3-3-3	双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報	55
3-3-4	帰還まで待てる年数	60
3-3-5	双葉町へ戻る場合の家族	61
3-3-6	双葉町へ帰還する場合の住居形態	63
3-3-7	双葉町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由	65
3-3-8	双葉町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援	67
3-3-9	現時点で戻らないと決めている理由	71
3-3-10	帰還しない場合に今後の生活において必要な支援	74
3-3-11	双葉町内の農地の所有および営農状況	76
3-3-12	双葉町の避難指示が解除された場合の営農の再開意向	77
3-3-13	双葉町に所有している農地の権利（所有権）	78
3-4	意見・要望	79
IV	参考資料	99
4-1	使用調査票	101

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、双葉町住民の復興公営住宅の入居意向など避難期間中の生活環境の整備や、帰還に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	双葉町
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 3,371 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成26年9月19日（金）～平成26年10月3日（金）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、双葉町
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 1,738 世帯（有効回収率 51.6%）

1-5 報告書の見方

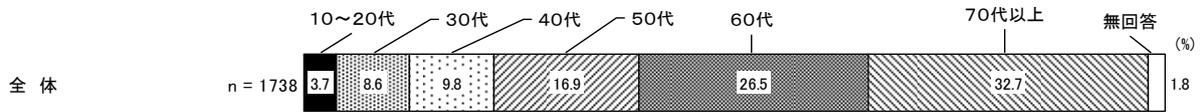
- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね30を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。ただし、震災発生当時の行政区分の分析は n 値が30を下回る場合も言及する場合がある。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

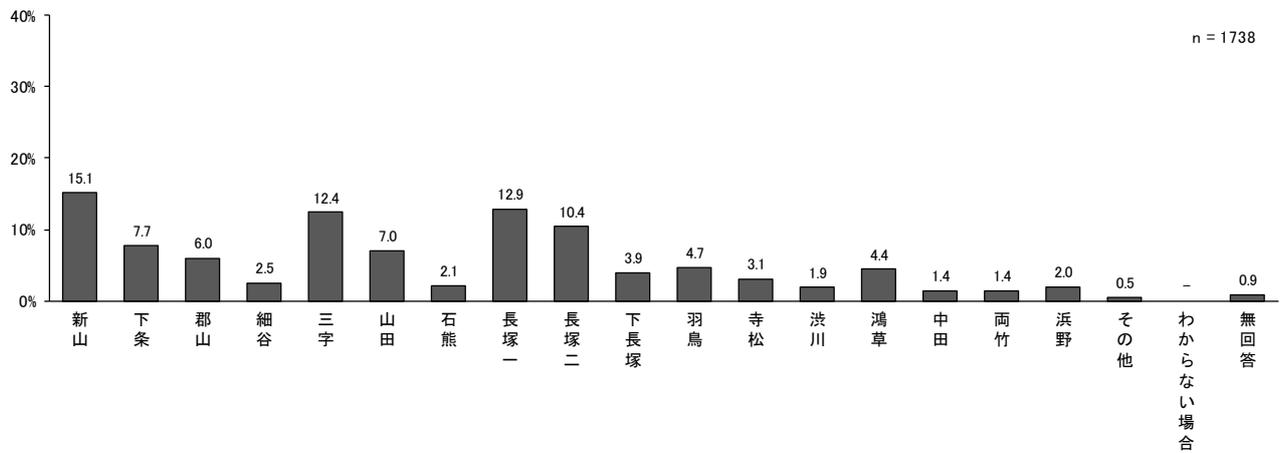
(1) 年齢

<図表2-1-1>



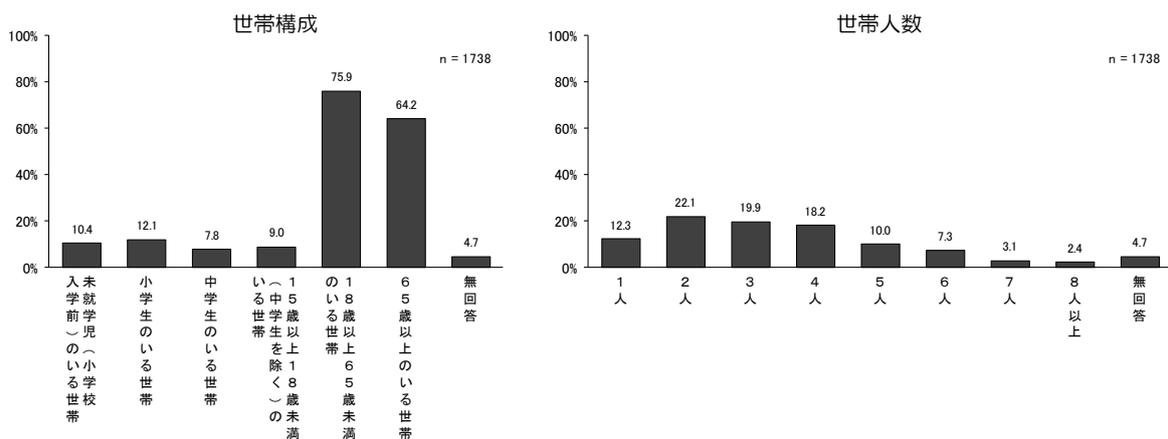
(2) 震災発生当時の行政区

<図表2-1-2>



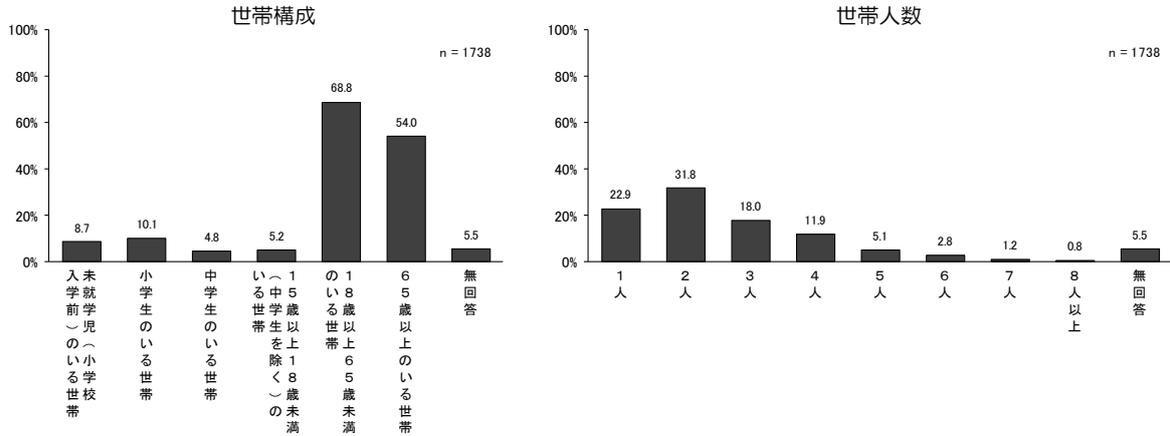
(3) 震災発生当時の世帯構成・人数

<図表2-1-3>



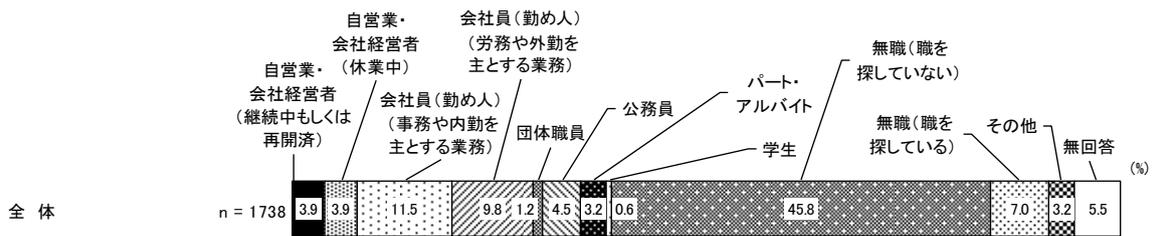
(4) 現在の世帯構成・人数

<図表2-1-4>



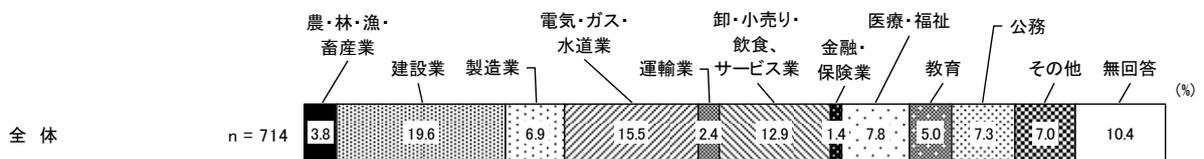
(5) 現在の職業（就業形態）

<図表2-1-5>



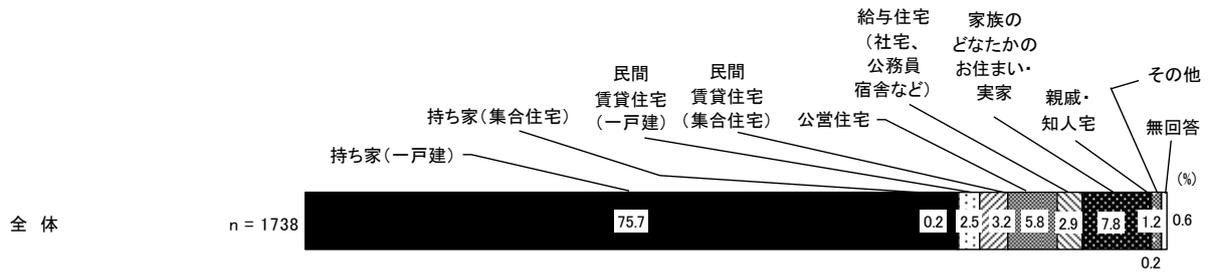
(6) 現在の職業（業種）

<図表2-1-6>



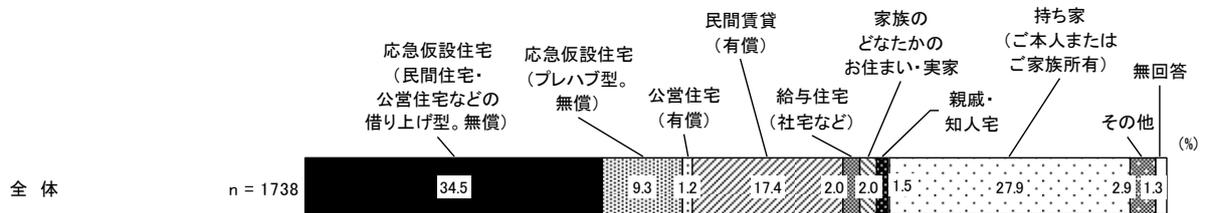
(7) 震災発生当時の住居形態

<図表2-1-7>



(8) 現在の住居形態

<図表2-1-8>



III 調査結果

3-1 現在の状況

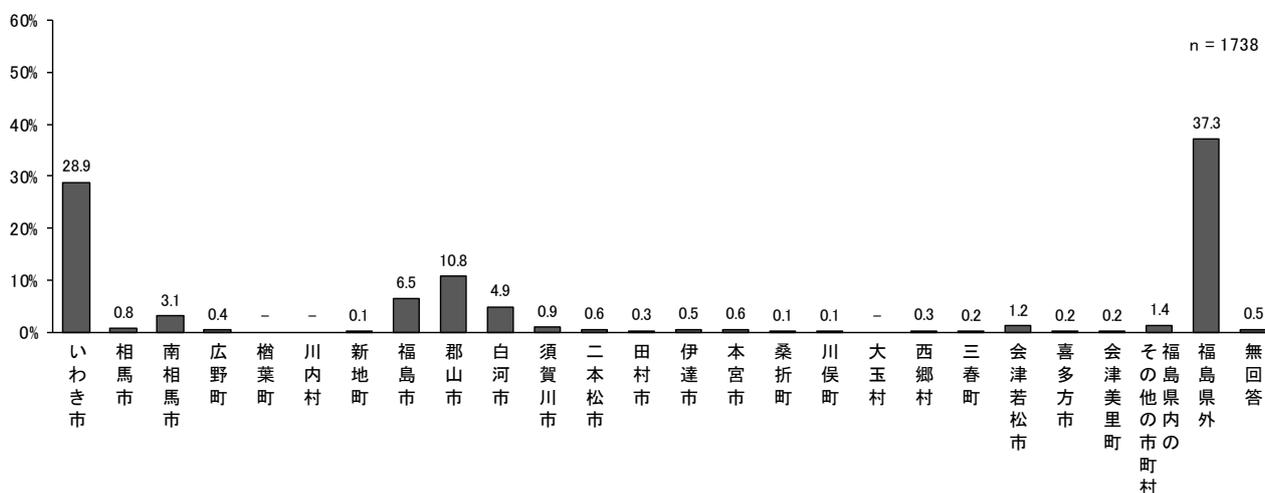
3-1-1 現在の避難先自治体

問5 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(〇は1つ)

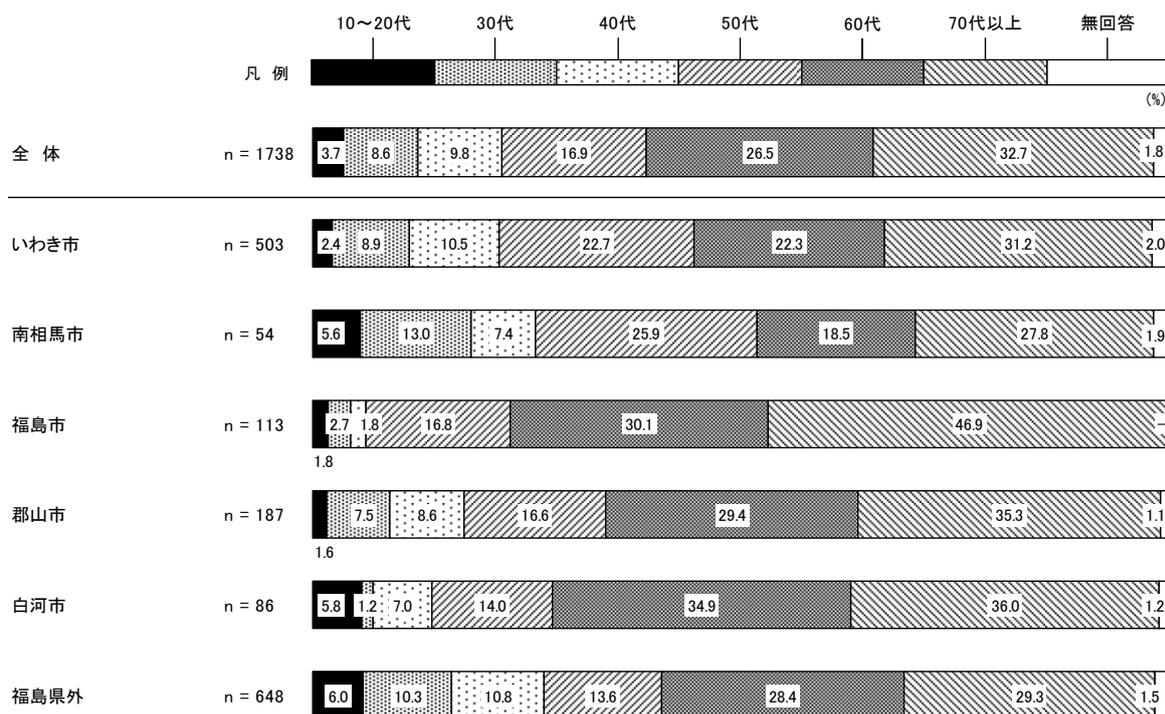
現在の避難先自治体については、「福島県内」が62.1%、「福島県外」が37.3%となっている。自治体で見ると「いわき市」が28.9%と最も高く、「郡山市」が10.8%となっている。

避難先の主な自治体について回答者の年齢別にみると、60代以上は「福島市」で77.0%、「白河市」で70.9%と7割以上を占める。一方、「南相馬市」では60代以上は46.3%と半数を下回る。

<図表3-1-1-1 避難先自治体>



<図表3-1-1-2 主な避難先自治体の年齢構成>



Ⅲ 調査結果

震災発生当時の行政区別にみると、新山、下条、三字、石熊、羽鳥、浜野では「いわき市」が3割以上となっている。また、渋川では「白河市」が3割以上となっている。

<図表3-1-1-3 主な避難先自治体（震災発生当時の行政区別）>

	n	(%)					
		いわき市	南相馬市	福島市	郡山市	白河市	福島県外
全体	1738	28.9	3.1	6.5	10.8	4.9	37.3
新山	262	34.4	1.5	4.6	10.3	8.0	35.1
下条	133	31.6	0.8	7.5	15.0	2.3	34.6
郡山	104	27.9	3.8	6.7	11.5	1.9	40.4
細谷	43	27.9	-	7.0	14.0	4.7	37.2
三字	215	34.9	2.3	5.1	11.2	2.3	39.1
山田	121	24.0	4.1	8.3	12.4	5.0	35.5
石熊	36	38.9	2.8	11.1	16.7	-	25.0
長塚一	224	24.1	4.9	4.9	9.8	6.7	39.3
長塚二	181	23.8	1.7	6.6	8.8	4.4	43.1
下長塚	67	22.4	7.5	19.4	10.4	4.5	28.4
羽鳥	82	31.7	7.3	3.7	6.1	4.9	30.5
寺松	54	27.8	5.6	5.6	18.5	5.6	35.2
渋川	33	27.3	-	6.1	3.0	30.3	27.3
鴻草	76	25.0	6.6	9.2	7.9	1.3	43.4
中田	24	25.0	-	-	12.5	-	41.7
両竹	25	24.0	-	8.0	12.0	4.0	52.0
浜野	34	47.1	-	5.9	8.8	-	35.3
その他	9	-	-	-	-	11.1	66.7
わからない場合	-	-	-	-	-	-	-

3-1-2 世帯構成・人数

(1) 震災発生当時の世帯構成・人数

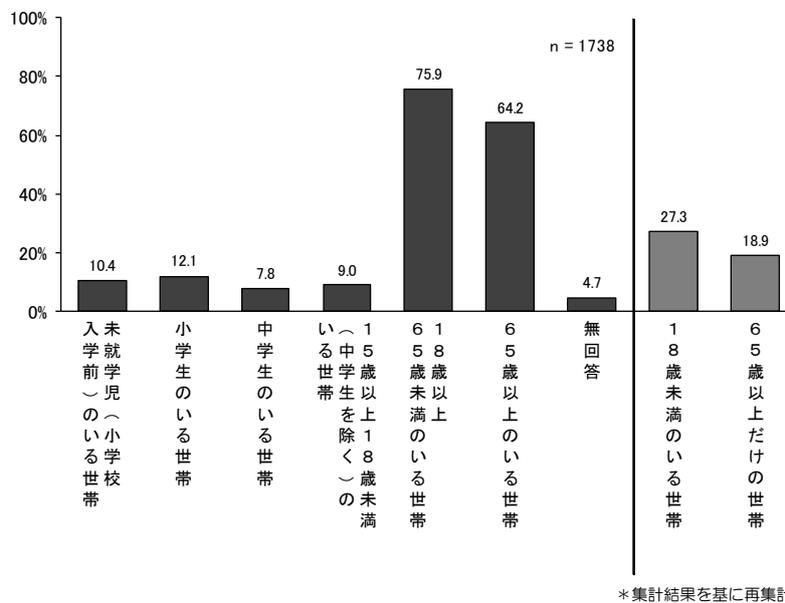
問6 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

(2) 震災発生ときに、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

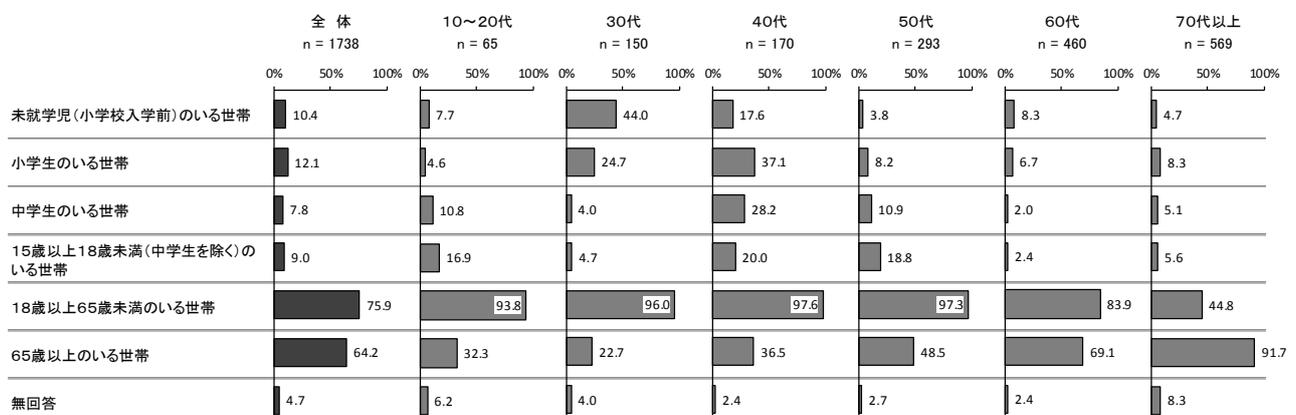
① 震災発生当時の世帯構成

震災発生当時の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が75.9%、「65歳以上のいる世帯」が64.2%となっている。一方、「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」(10.4%)、「小学生のいる世帯」(12.1%)、「中学生のいる世帯」(7.8%)、「15歳以上18歳未満(中学生を除く)のいる世帯」(9.0%)はいずれも概ね1割前後となっている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯構成>



<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯構成(年齢別)>

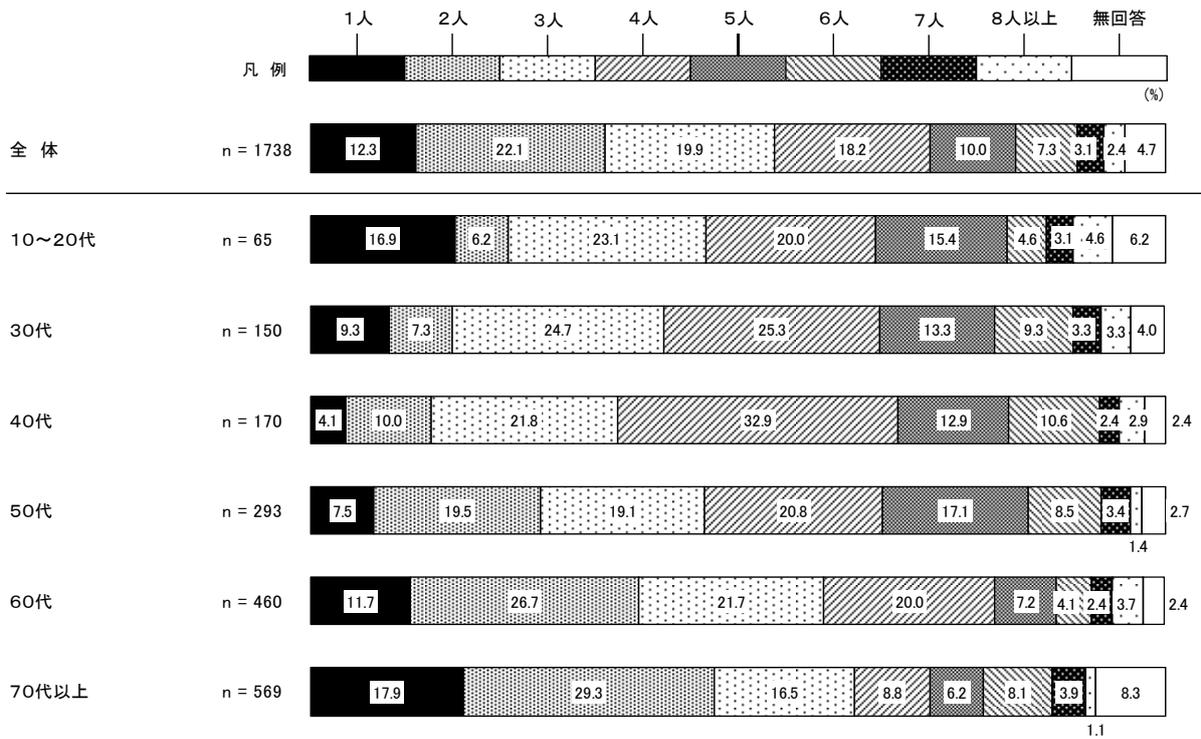


② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数は、「2人」が22.1%と最も高く、次いで「3人」が19.9%、「4人」が18.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は年齢が高くなるにつれ占める割合が高くなり、70代で29.3%と最も高くなっている。「3人」は30代で24.7%、「4人」は40代で32.9%と最も高くなっている。

<図表3-1-2-3 震災発生当時の世帯人数（年齢別）>



(2) 現在の世帯構成・人数

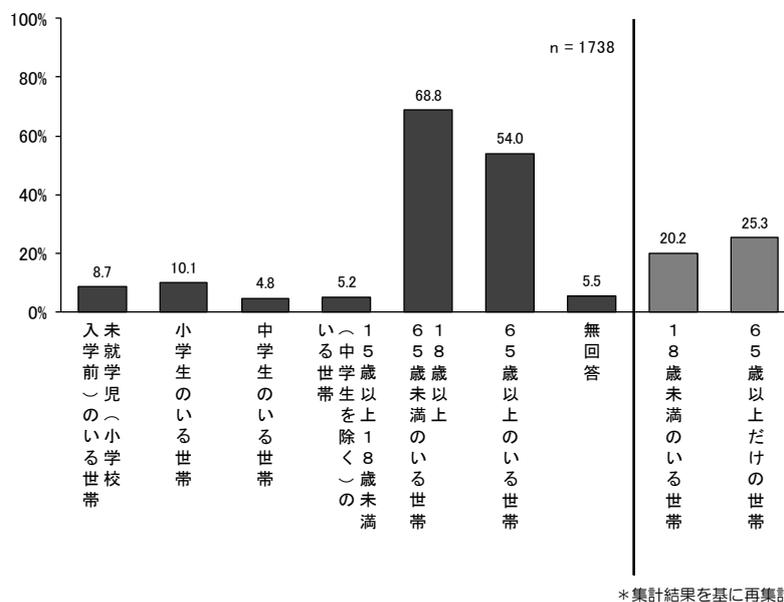
問6 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

(1) 現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

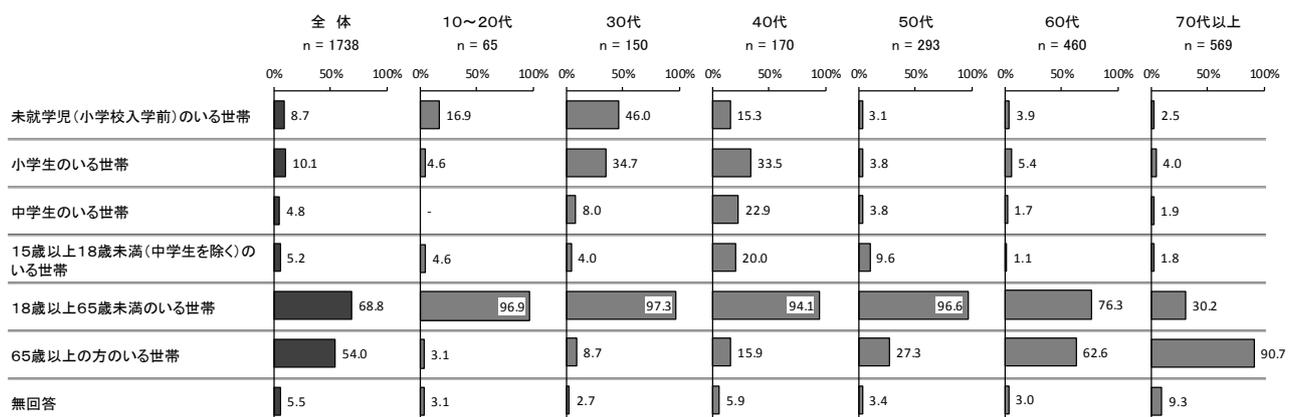
① 現在の世帯構成

現在の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が68.8%、「65歳以上のいる世帯」が54.0%となっている。

<図表3-1-2-4 現在の世帯構成>



<図表3-1-2-5 現在の世帯構成(年齢別)>

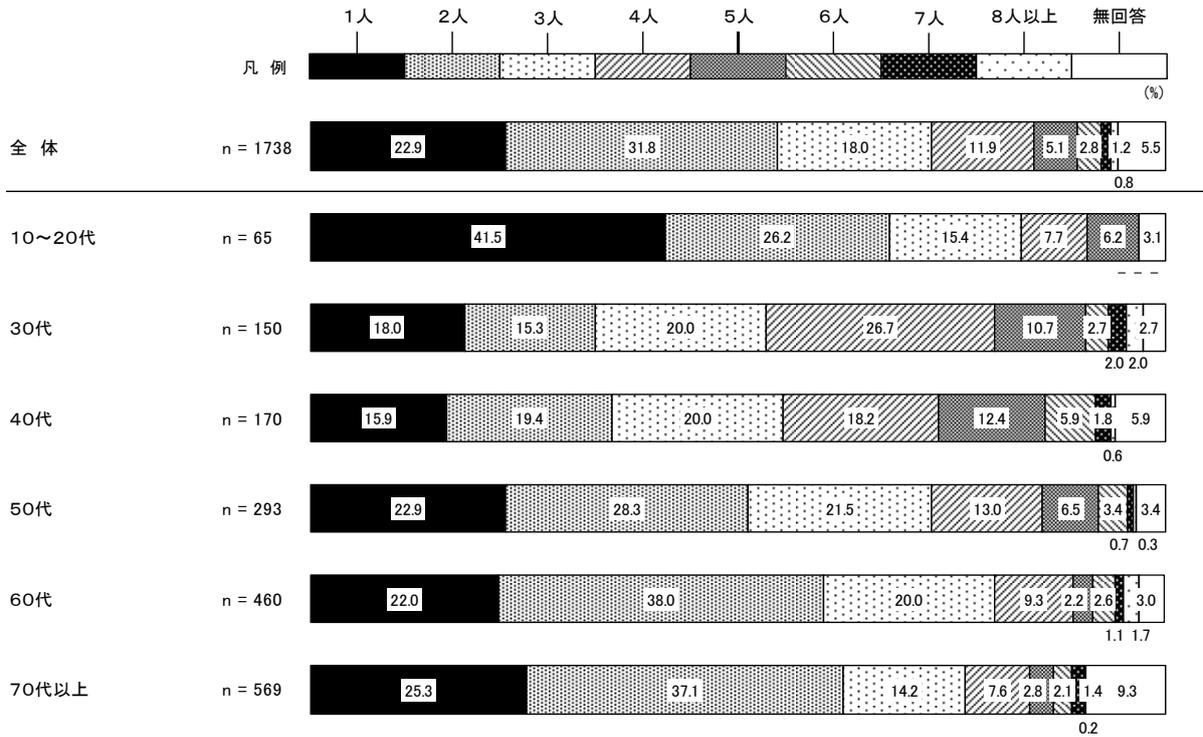


② 現在の世帯人数

現在の世帯人数は、「2人」が31.8%と最も高く、次いで「1人」が22.9%、「3人」が18.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は30代以降、年齢が高くなるにつれ占める割合が高くなり、60代で38.0%と最も高くなっている。「1人」は10~20代で41.5%と4割以上を占める。

<図表3-1-2-6 現在の世帯人数（年齢別）>



3-1-3 職業

(1) 現在の職業（就業形態）

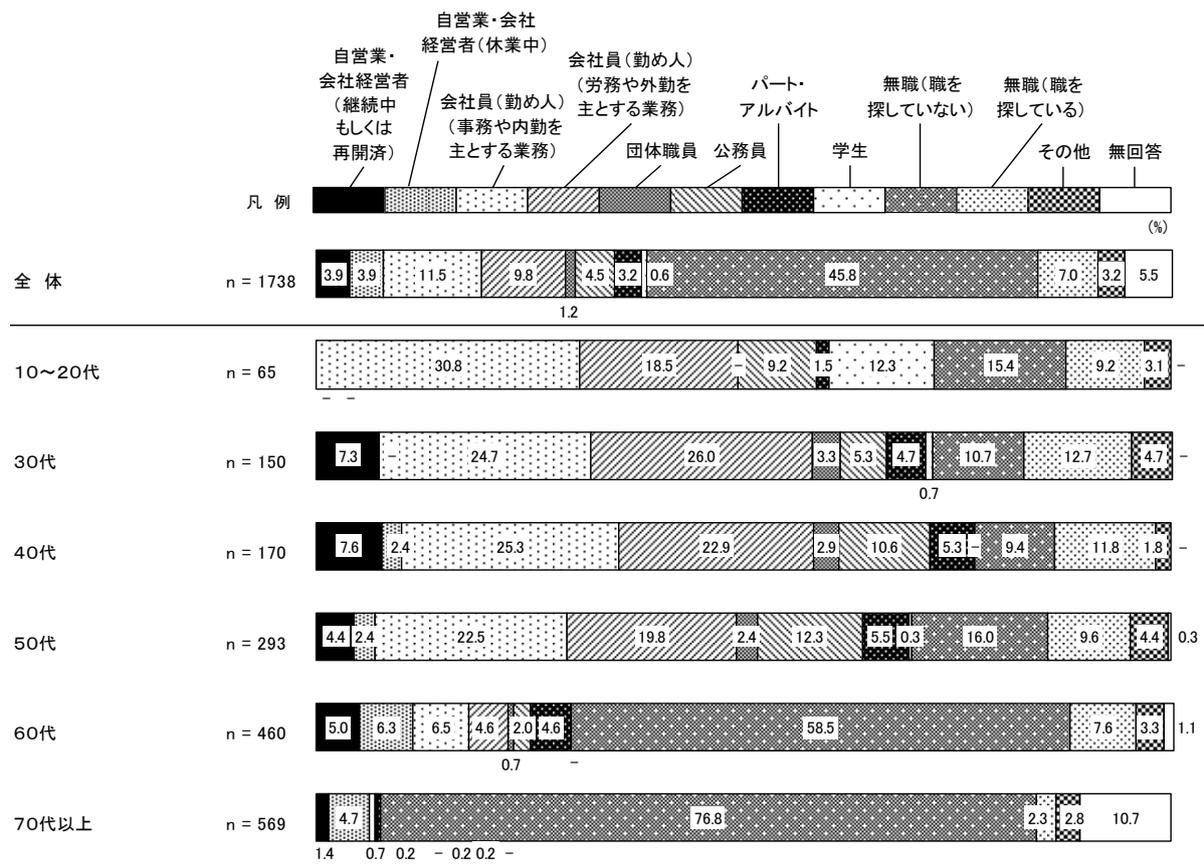
問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(○は1つ)

現在の職業（就業形態）については、「無職（職を探していない・職を探している）」以外では、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が11.5%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が9.8%、「公務員」が4.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、10～20代で「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が30.8%、30代で「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が26.0%、40代で「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が25.3%、50代で「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が22.5%、60代で「無職（職を探していない）」が58.5%、70代で「無職（職を探していない）」が76.8%とそれぞれの年代で最も割合が高くなっている。

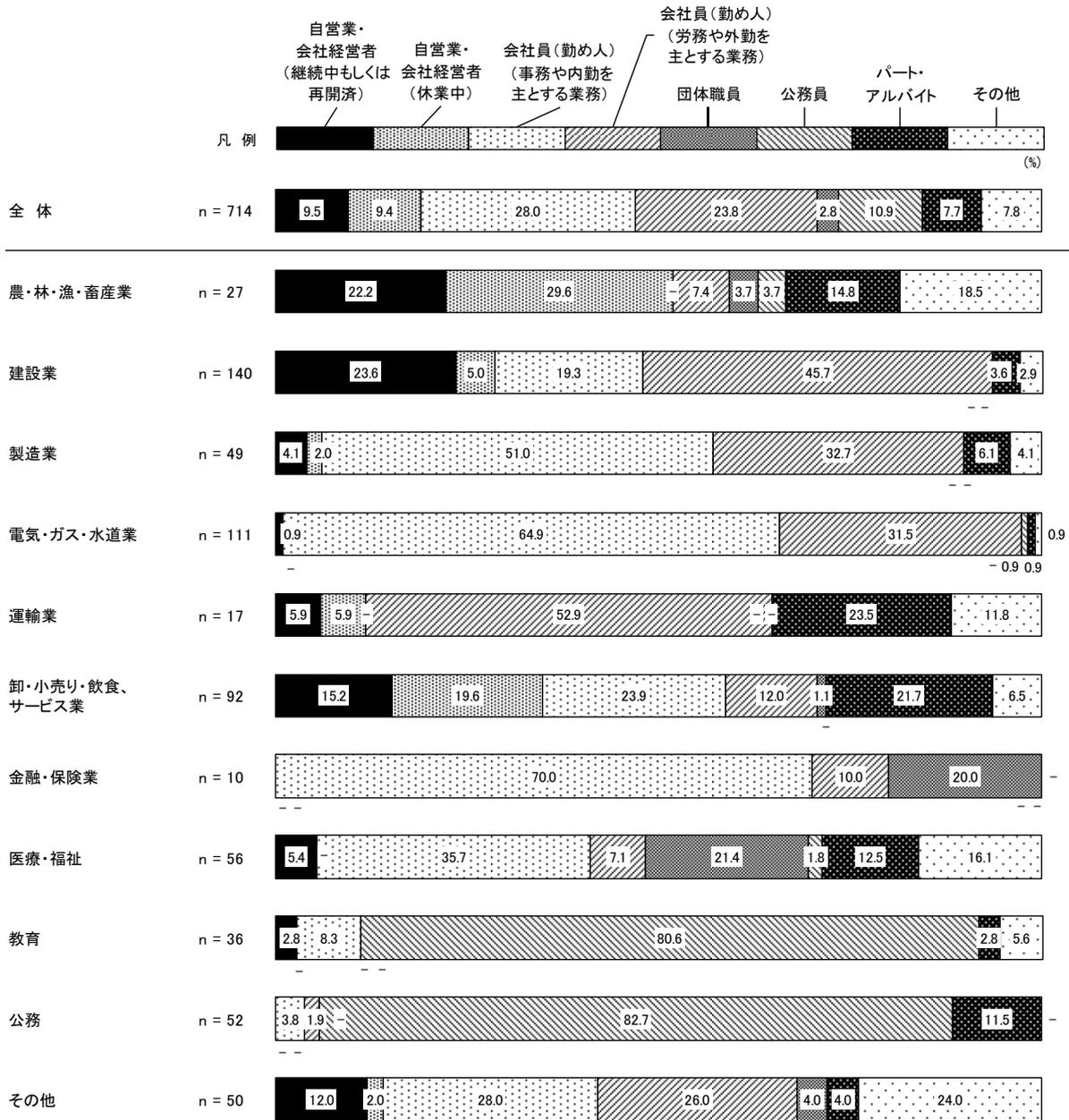
<図表3-1-3-1 現在の職業（年齢別）>



III 調査結果

世帯主が就業しているとした世帯について業種別にみると、建設業では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」(45.7%)、電気・ガス・水道業では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」(64.9%)、製造業では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」(51.0%) が他の業種と比べ高くなっている。

＜図表3-1-3-2 現在の職業（業種別）＞



(2) 現在の業種

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

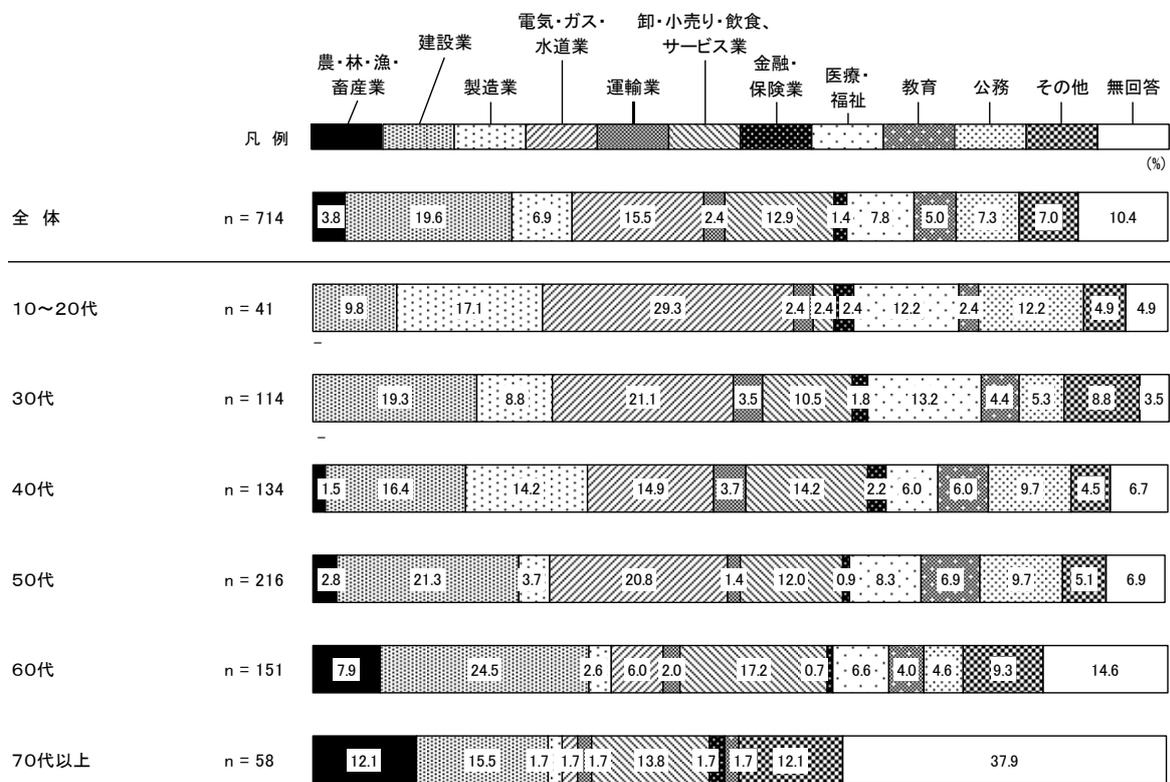
【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

世帯主が就業しているとした世帯の業種については、「建設業」が19.6%と最も高く、次いで「電気・ガス・水道業」が15.5%、「卸・小売り・飲食、サービス業」が12.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「建設業」は、60代が24.5%、50代が21.3%、「電気・ガス・水道業」は10~20代が29.3%、30代が21.1%、「卸・小売り・飲食、サービス業」は60代が17.2%となっており、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-1-3-3 業種(年齢別)>



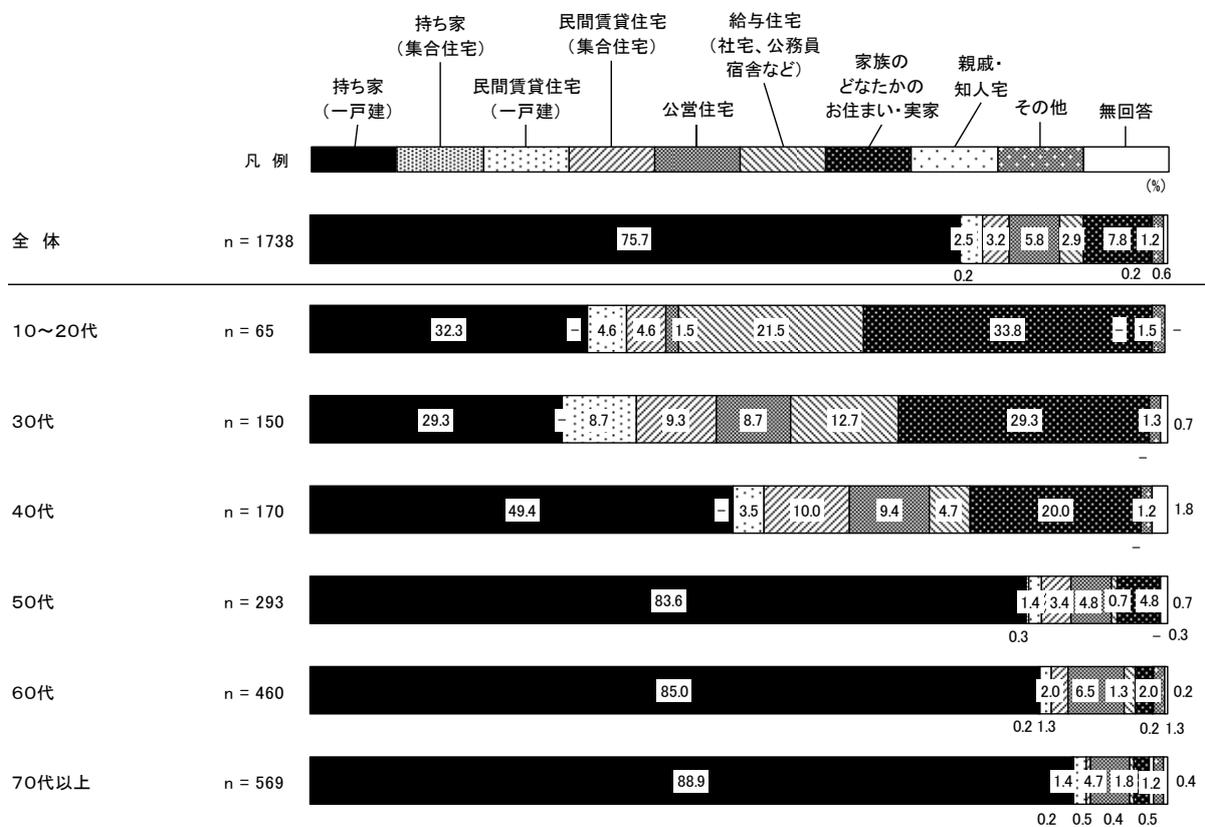
3-1-4 震災発生当時の住居形態

問4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家(一戸建)」が75.7%と最も高く、「持ち家(集合住宅)」(0.2%)を合わせた<持ち家>は75.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家(一戸建)」は、30代以降、年齢が高くなるにつれ占める割合が高くなり、70代では88.9%と9割近くを占める。一方、「家族のどなたかのお住まい・実家」は若年層で高く、10~20代では33.8%、30代では29.3%となっている。

<図表3-1-4-1 震災発生当時の住居形態(年齢別)>



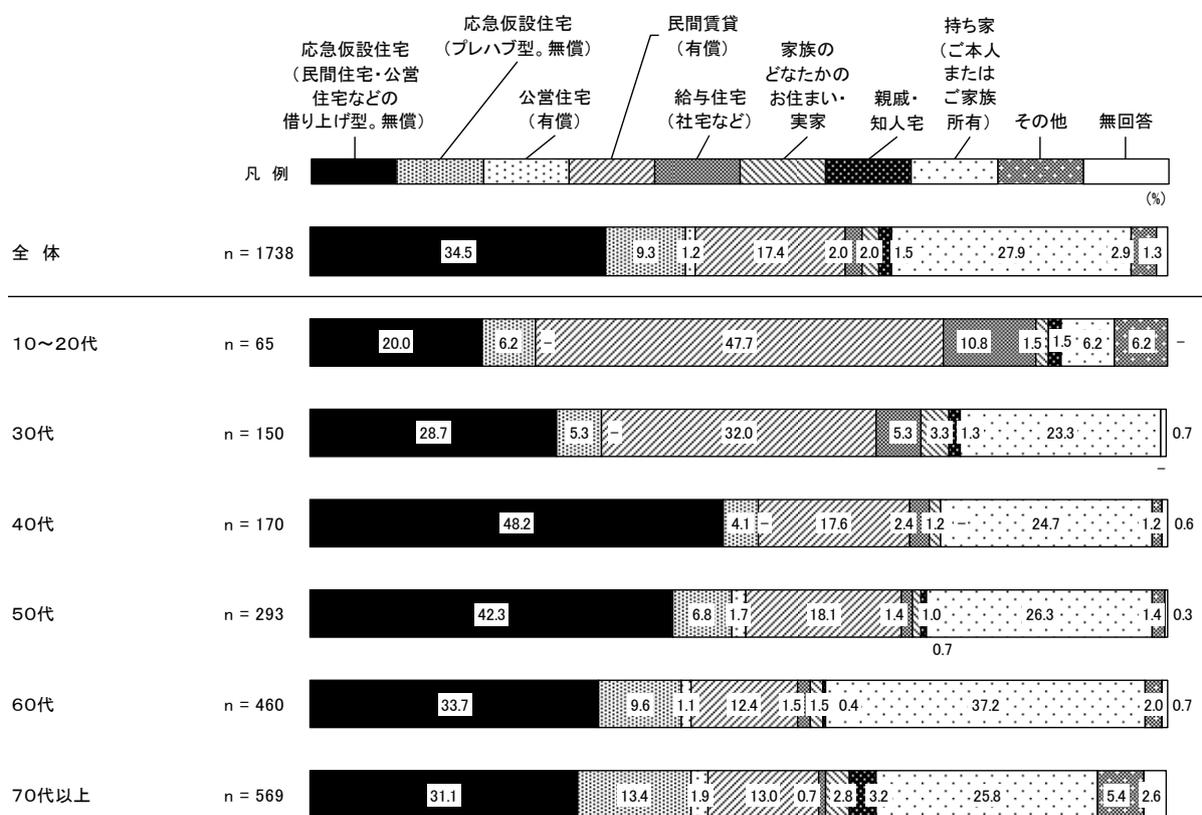
3-1-5 現在の住居形態

問7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態については、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が34.5%と最も高く、次いで「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が27.9%、「民間賃貸（有償）」が17.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は、40～50代、70代で高くなっているが、10～20代では「民間賃貸（有償）」（47.7%）、60代では「持ち家（ご本人またはご家族所有）」（37.2%）が高くなっている。

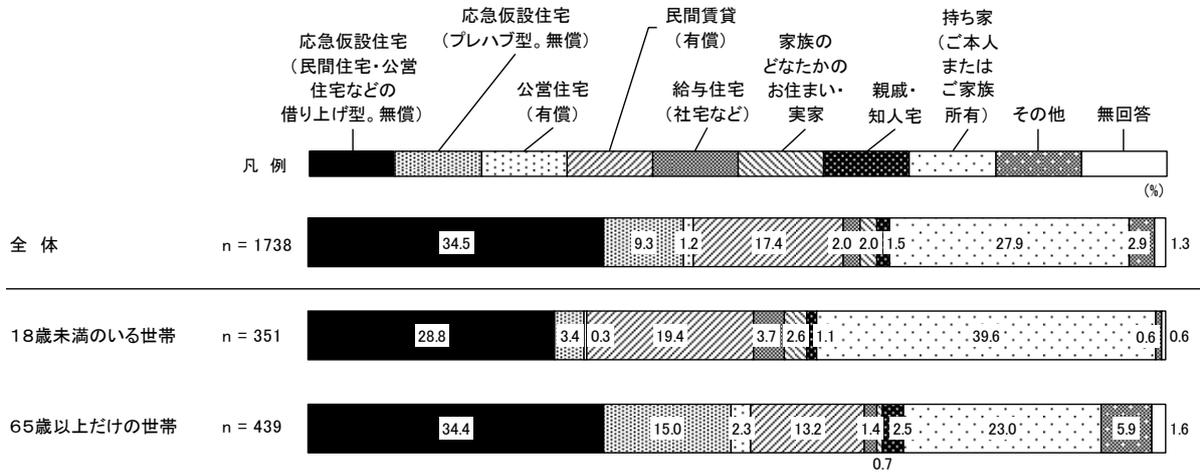
<図表3-1-5-1 現在の住居形態（年齢別）>



III 調査結果

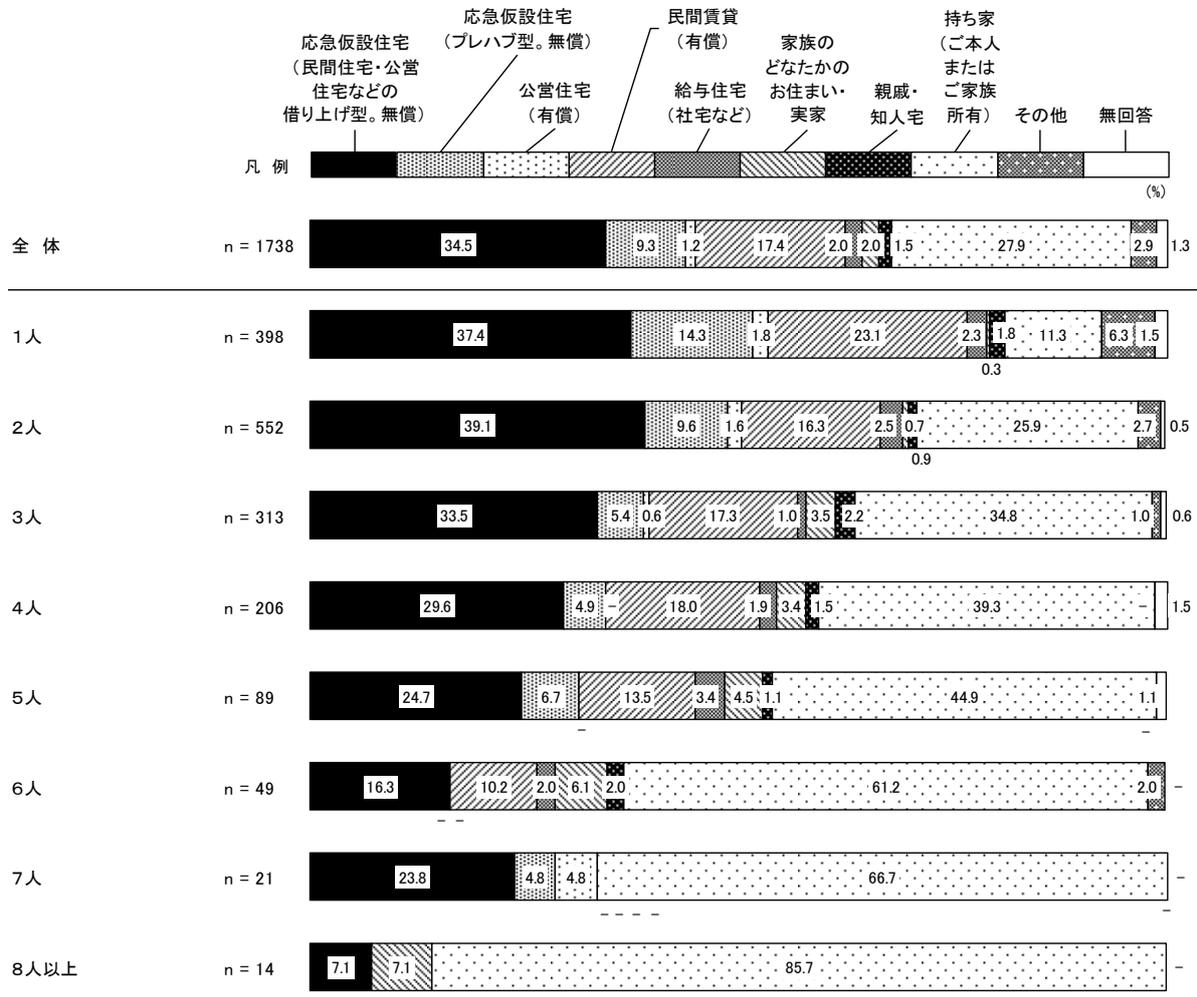
世帯構成別にみると、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は、65歳以上の世帯が34.4%、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は、18歳未満のいる世帯が39.6%と最も高くなっている。

<図表3-1-5-2 現在の住居形態（世帯構成別）>



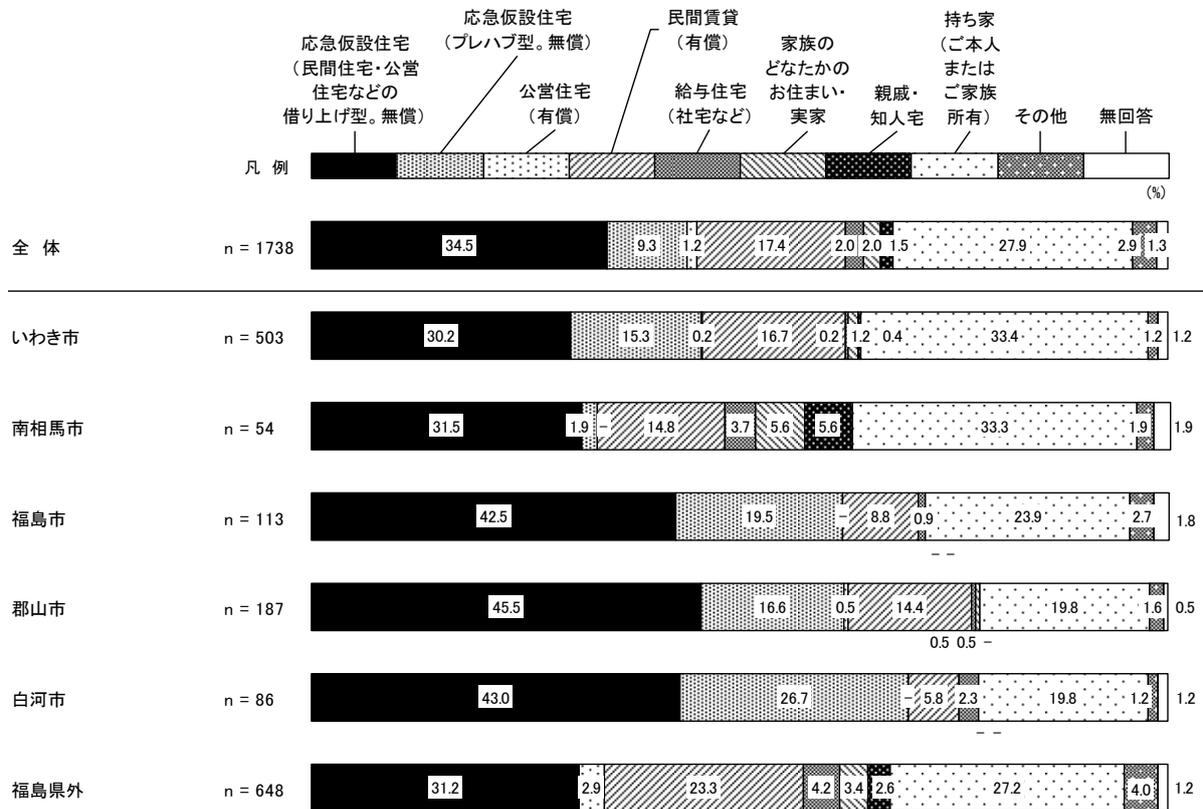
世帯人数別にみると、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は、概ね人数が多くなるにつれ占める割合が低くなり、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が高くなる。

<図表3-1-5-3 現在の住居形態（世帯人数別）>



主な避難先自治体別にみると、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は、郡山市（45.5%）、白河市（43.0%）、福島市（42.5%）となっている。「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は、いわき市（33.4%）、南相馬市（33.3%）が他の自治体と比べ高くなっている。

<図表3-1-5-4 現在の住居形態（主な避難先自治体別）>



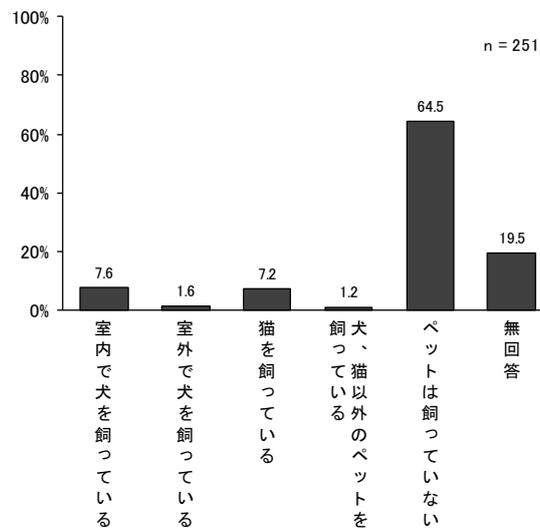
3-1-6 現在のペットの飼育状況

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居の申し込みをしたい方（問9で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

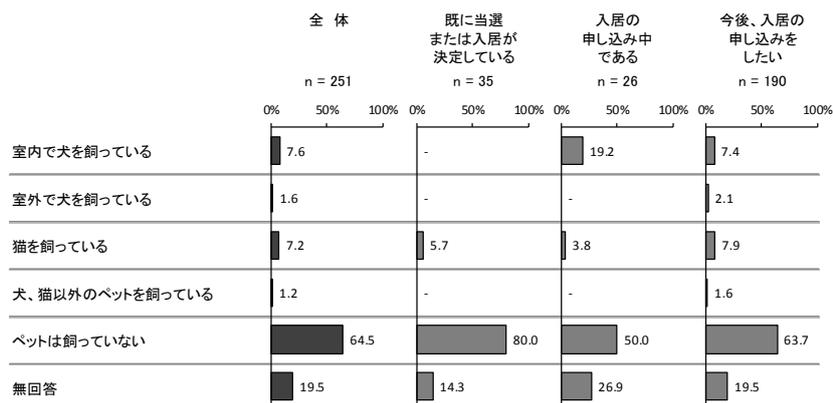
問9-3 現在、ペットを飼っていますか。（〇はいくつでも）

現在のペットの飼育状況については、「ペットは飼っていない」が64.5%と最も高く、次いで「犬を飼っている」世帯が9.2%（室内・室外）、「猫を飼っている」世帯が7.2%となっている。

<図表3-1-6-1 ペットの飼育状況>



<図表3-1-6-2 ペットの飼育状況（復興公営住宅への入居意向別）>

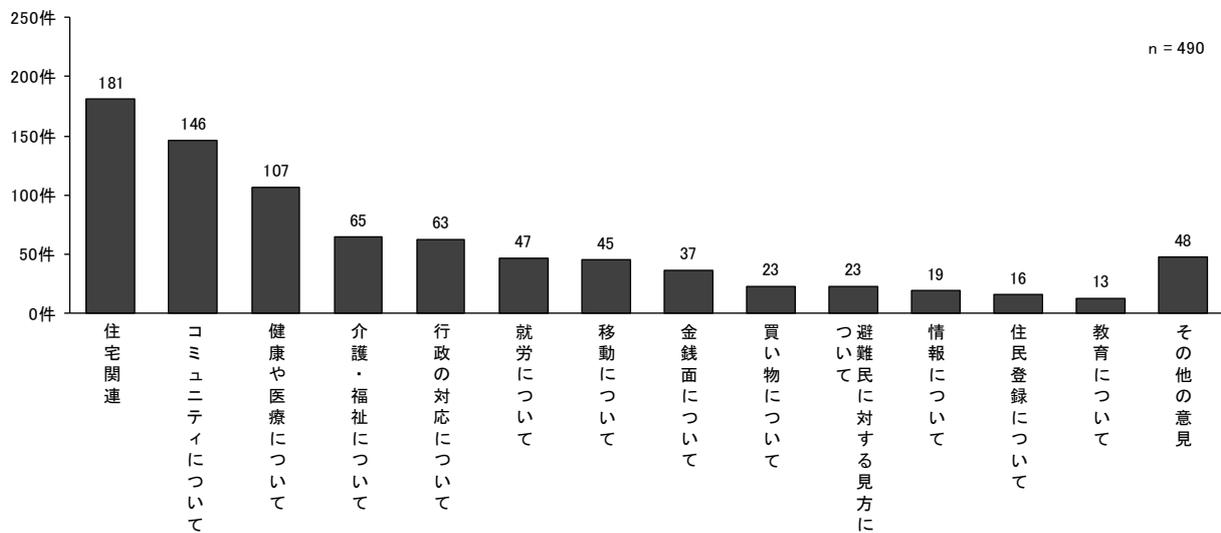


3-1-7 避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めること

問8 避難期間中の住宅や居住環境や、生活において困っていること、改善を求めること等があればお書きください。(医療、教育、介護・福祉、就労、コミュニティなど)

避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めることについて、490件の回答があった。意見を内容により分類したところ、「住宅関連」が181件と最も多く、次いで「コミュニティについて」が146件、「健康や医療について」が107件となっている。

<図表3-1-7-1 避難期間中の生活において、困っていることや改善を求めること>



主な意見は以下の通りのとおり。

【住宅関連】

- 都内に家族と避難していた時は良かったが、仕事先の近くに越してからは、無償の引っ越し期間を過ぎてしまったので、有償となり、家賃負担などが大変です。(10~20代)
- 現在2人で2DKに居住しており、11月には子供が産まれる。3人で2DKだと狭いので最低2LDKに居住したい。しかし、夜泣き等を考慮すると簡単に引越出来ない。(30代)
- プレハブ型応急仮設住宅に住んでいますが、すごく回りに気を使う毎日です。薄いベニヤ板で仕切っているので、隣の話し声、トイレ浴室などの話、音が聞こえて大変気を使う事だらけです。時には、友達見たいな人々が集まって(たまり場)、夜中まで騒いでいる時があり、迷惑すること大です。こんな生活が、いつまで続くのかと思うと先が思いやられます。(60代)

【コミュニティについて】

- コミュニティがほぼなく孤独である。土地感がなく病院など通う事が不便！サービスや色々な手続き等行うのに不便。(30代)
- 家族と別々に生活(二重生活)をしています。こんな生活をこれからも続けて行くのは、肉体的、精神的に限界です。仕事も1F復興の為、片道1時間以上掛けて通勤し、休みは、家族の元へ4時間掛けて運転して帰ります。生活して行く上で仕事を辞めたくても辞められないし、家族と別々の生活にも限界を感じています。二重生活の費用は、自腹で節約生活。こんな生活いつまで続くんでしょう。双葉町だけ復興すれば良いのでしょうか？(40代)
- 両親が高齢のためケアハウス、老人ホーム等の施設を考えてほしい。昔からの知り合い友人等が生活できるようにしてほしい(50代)

【健康や医療について】

- 内部被ばく検査を受けられる病院が点々としすぎているし、予約やいろいろ面倒なことが多い。(10~20代)
- 子どものかかりつけ医がなくなってしまい、小児科を探すのに苦労した。(30代)
- 今後の健康状態の変化に感じられるよう医療費の無料化を国として対応してほしい。(60代)

3-2 復興公営住宅の入居意向

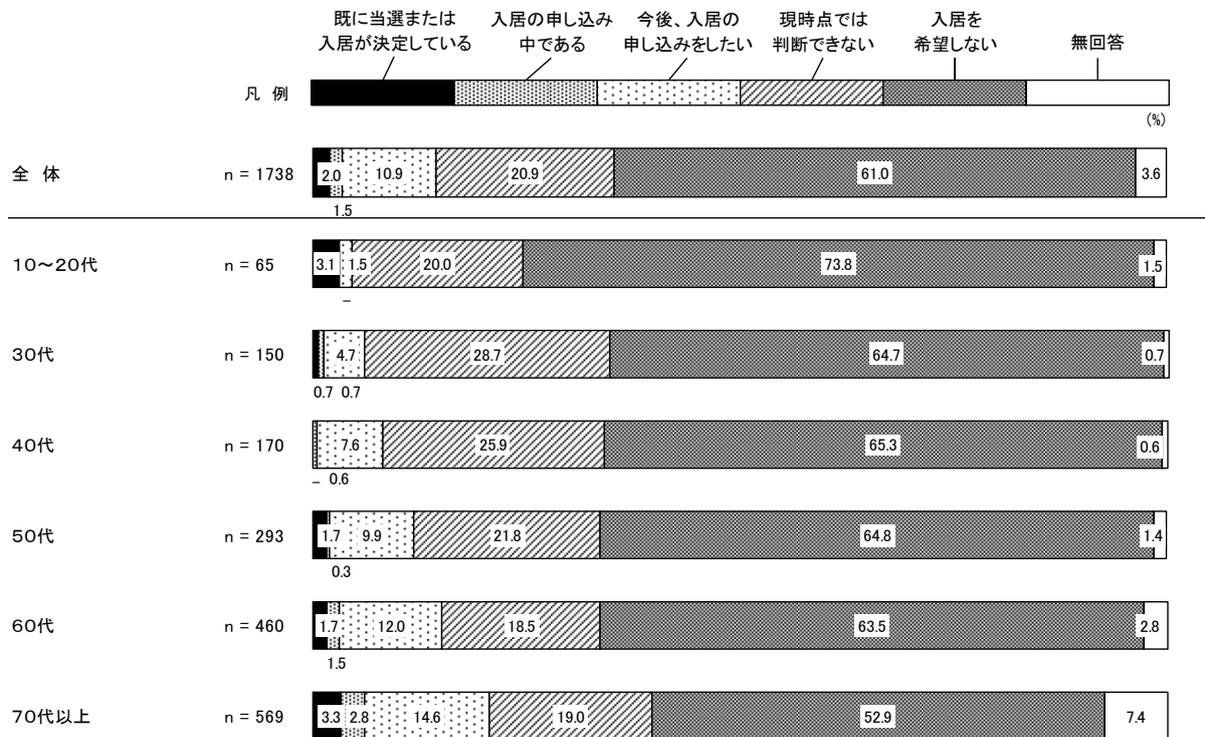
3-2-1 復興公営住宅への入居意向

問9 現在、福島県は別紙に記載の通り、復興公営住宅の整備を進めています。あなたのご家族は、復興公営住宅への入居を希望しますか。(〇は1つ)

復興公営住宅への入居意向については、「入居を希望しない」が61.0%と最も高く、次いで、「現時点では判断できない」が20.9%、入居意向のある世帯（「既に当選または入居が決定している」・「入居の申し込み中である」・「今後、入居の申し込みをしたい」）が14.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「入居を希望しない」は、いずれの年齢でも最も高いが、入居意向のある世帯は、年齢が高くなるにつれ占める割合が高くなっている。

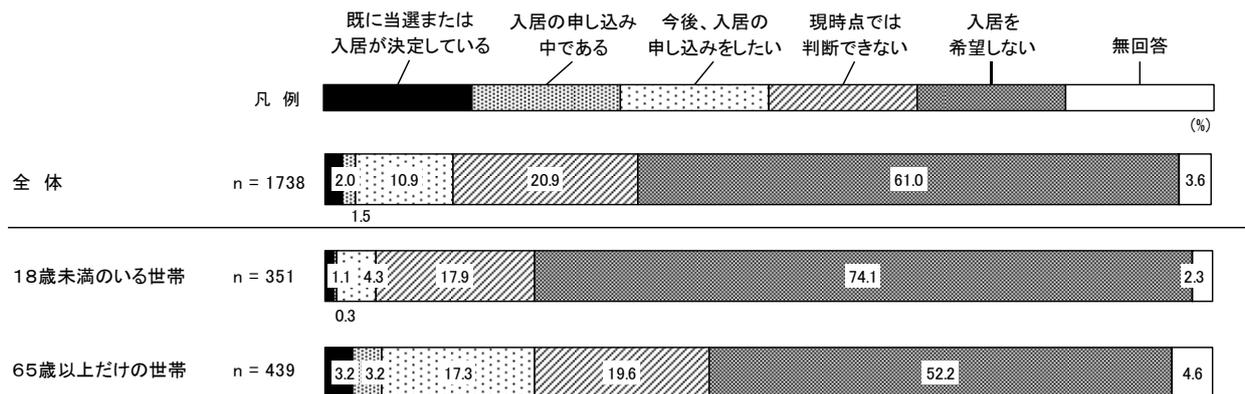
<図表3-2-1-1 復興公営住宅への入居意向（年齢別）>



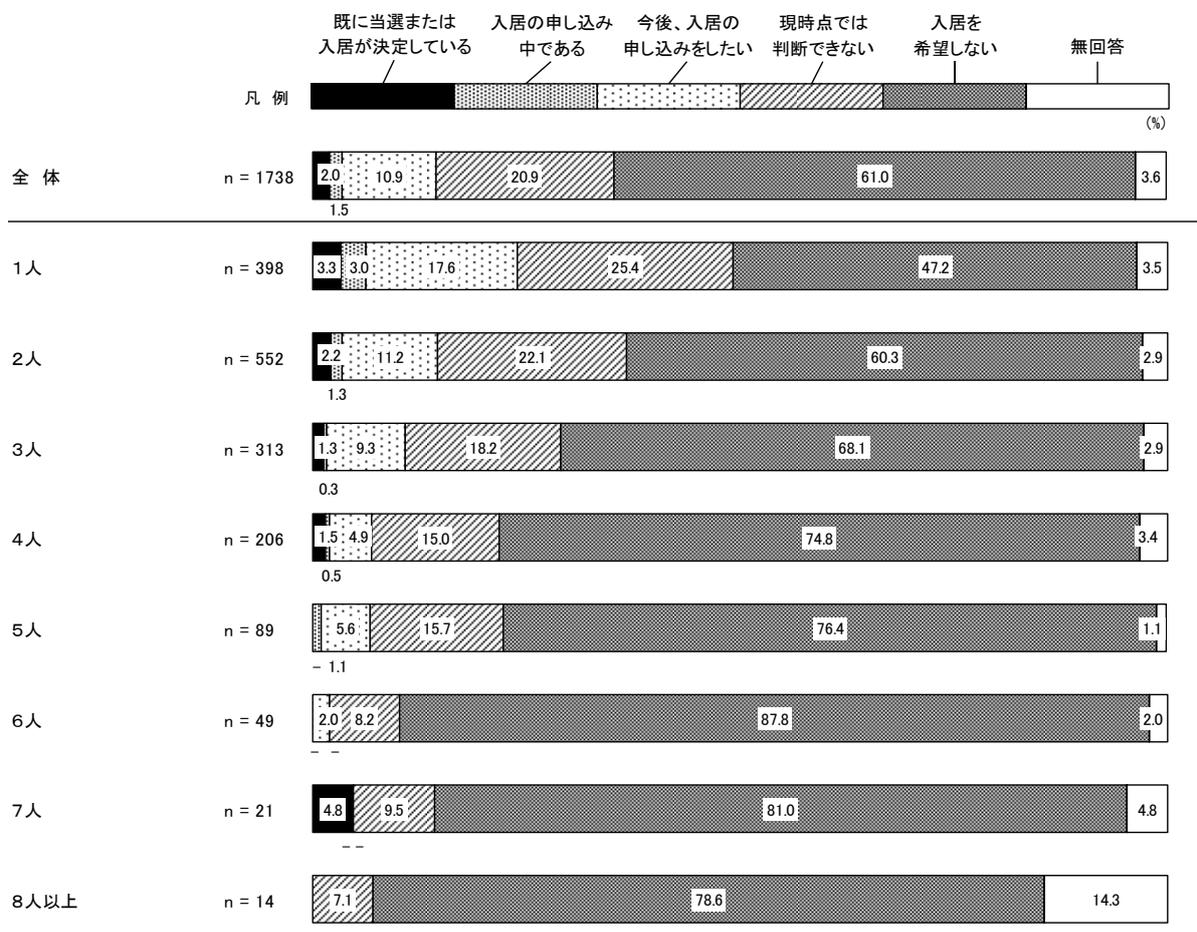
現在の世帯構成別にみると、「入居を希望しない」は18歳未満のいる世帯が74.1%となっている。一方、65歳以上だけの世帯では入居意向のある世帯（「既に当選または入居が決定している」・「入居の申し込み中である」・「今後、入居の申し込みをしたい」）の割合が23.7%となっている。

現在の世帯人数別にみると、「入居を希望しない」は2人以上で過半数となっており、6人にいたっては87.8%と9割近くを占める。入居意向のある世帯は、1人が23.9%と最も高く、世帯人数が多くなるにつれ占める割合が低くなる。

<図表3-2-1-2 復興公営住宅への入居意向（世帯構成別）>

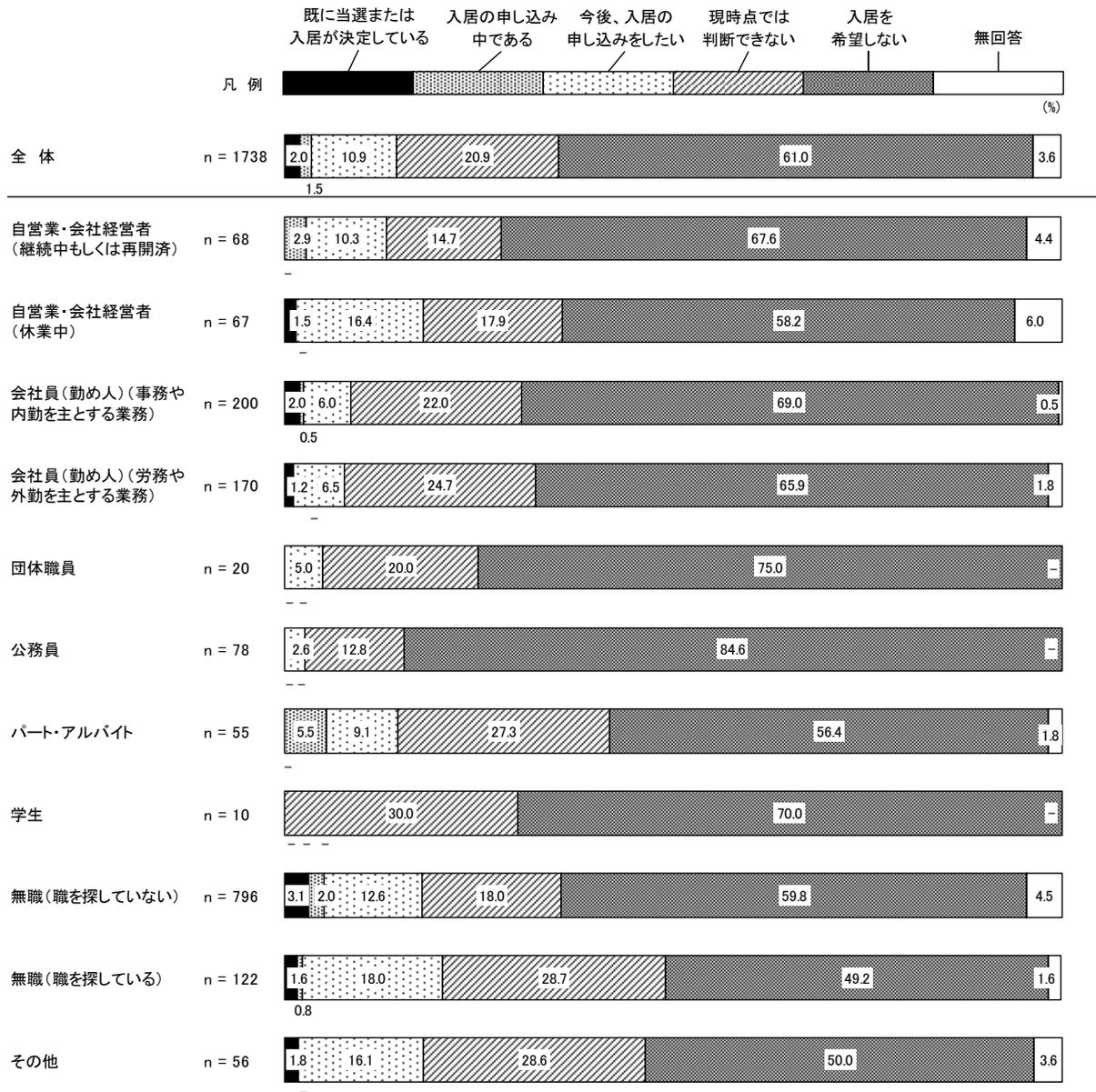


<図表3-2-1-3 復興公営住宅への入居意向（世帯人数別）>



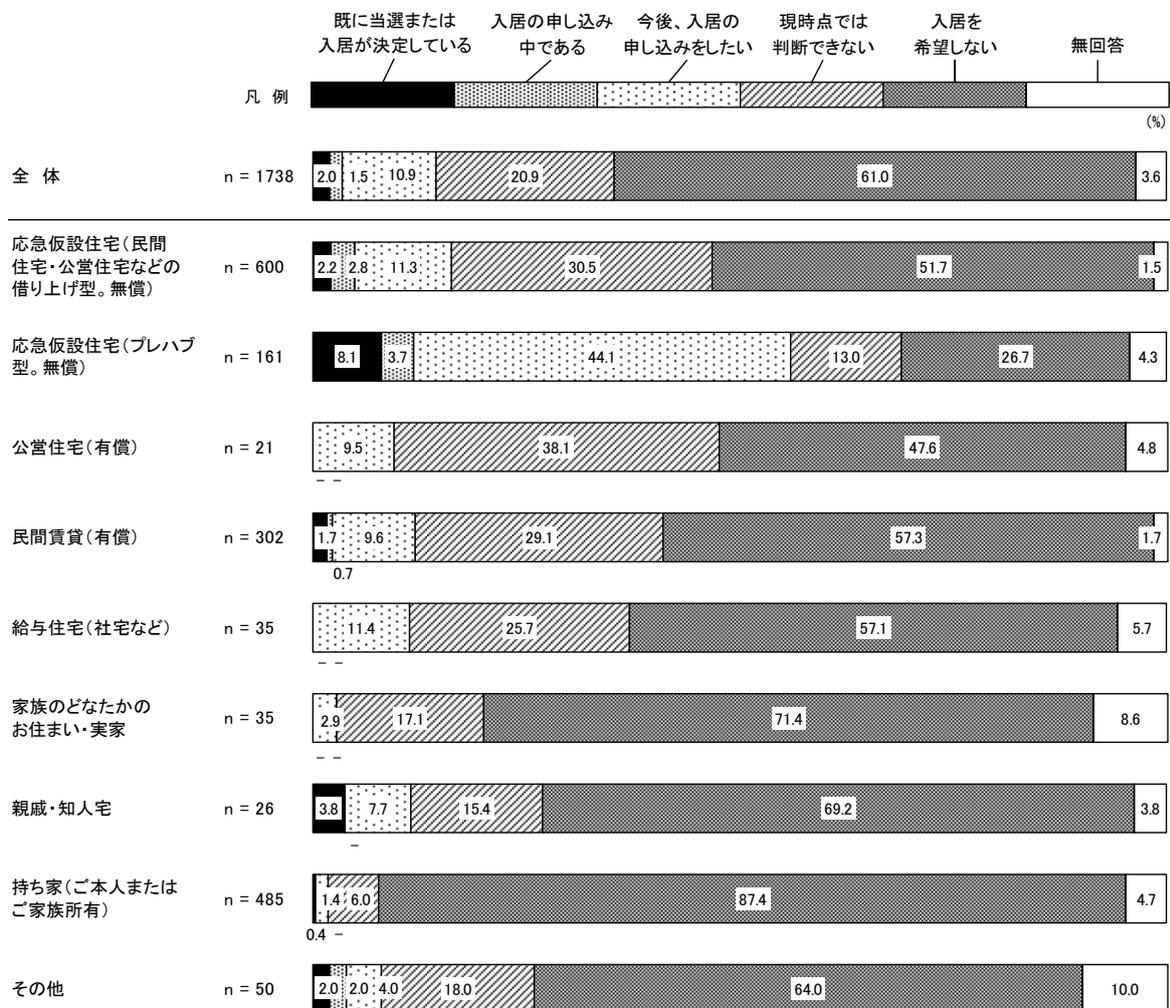
職業別にみると、入居意向のある世帯は、無職（職を探している）（20.4%）、自営業・会社経営者（休業中）（17.9%）、その他（17.9%）、無職（職を探していない）（17.7%）で他の職業と比べ高くなっている。

<図表3-2-1-4 復興公営住宅への入居意向（職業別）>



現在の住居形態別にみると、「入居を希望しない」は、持ち家（ご本人またはご家族所有）（87.4%）、家族のどなたかのお住まい・実家（71.4%）が他の住居形態別に比べ高くなっている。入居意向のある世帯は、応急仮設住宅（プレハブ型。無償）で55.9%となっており、他の住居形態と比べ高くなっている。

<図表3-2-1-5 復興公営住宅への入居意向（現在の住居形態別）>



3-2-2 復興公営住宅への入居を希望する自治体と世帯構成

(1) 復興公営住宅への入居を希望する自治体

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居の申し込みをしたい方（問9で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問9-1 入居を希望する、または申し込みを行っている復興公営住宅の地域、入居する際の家族構成についてお聞かせください。

※家族が多い等の理由により、分散して入居される方（希望を含む）は、下表の<1世帯目>、<2世帯目>の列にそれぞれお答えください。

※現在ご一緒にお住まいの家族について、ご記入ください。

<1世帯目>

(1) 自治体名を教えてください。(〇はひとつ)

(2) 入居する際の家族構成をご記入ください。(人数で回答)

<2世帯目>

(1) 自治体名を教えてください。(〇はひとつ)

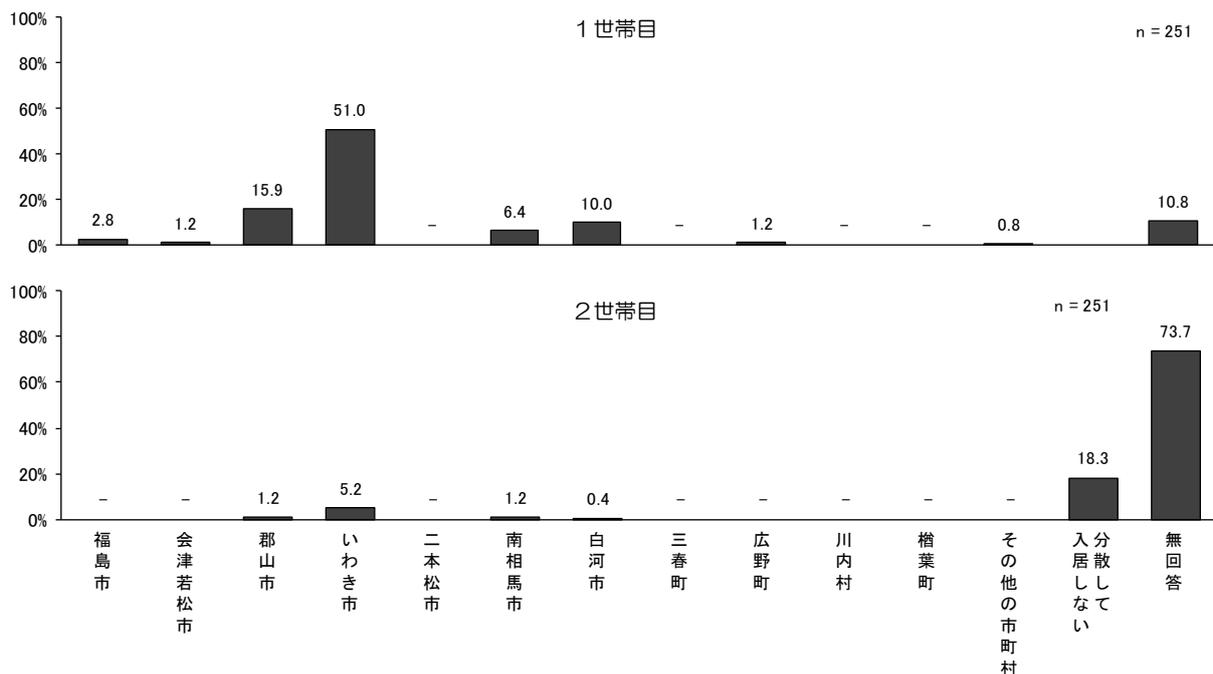
(2) 入居する際の家族構成をご記入ください。(人数で回答)

<1世帯目>の復興公営入居への入居を希望する自治体については、「いわき市」が51.0%と最も高く、次いで、「郡山市」が15.9%、「白河市」が10.0%となっている。

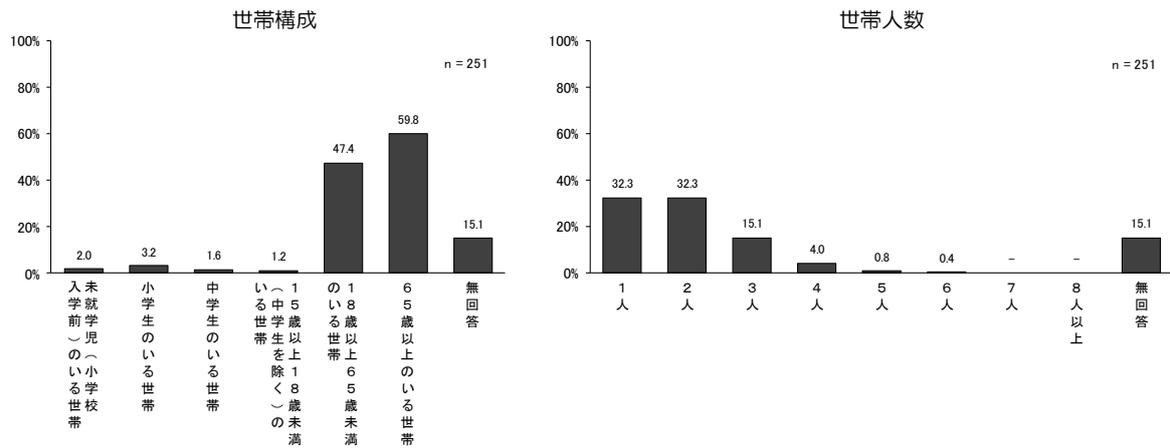
入居を希望する世帯人数（1世帯目）については、「1人」、「2人」がともに32.3%で最も高く、次いで「3人」が15.1%となっている。世帯構成（1世帯目）については、「65歳以上のいる世帯」が59.8%と最も高く、次いで「18歳以上65歳未満のいる世帯」が47.4%、一方で18歳未満のいる世帯は全体的に低くなっている。

<2世帯目>の復興公営住宅への入居を希望する自治体については、「いわき市」が5.2%と最も高くなっている。

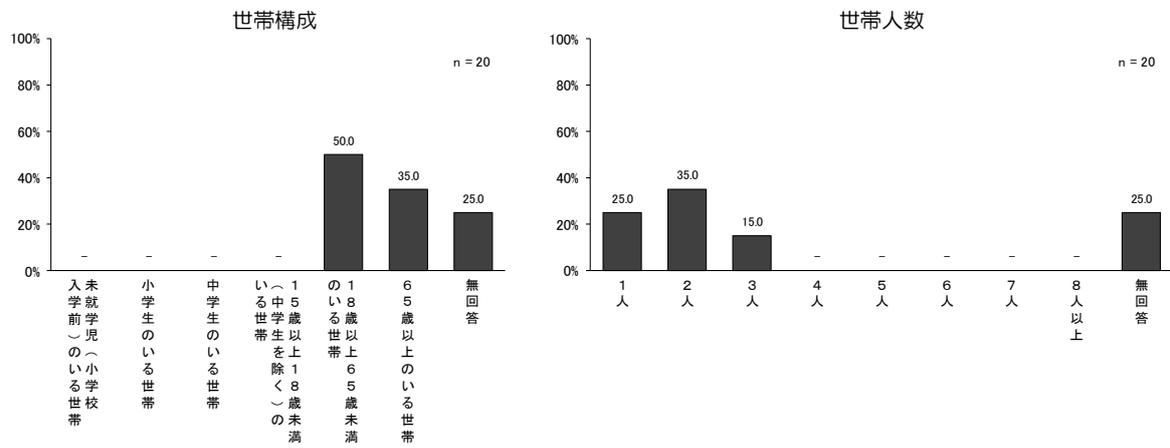
<図表3-2-2-1 復興公営住宅への入居を希望する自治体>



<図表3-2-2-2 復興公営住宅への入居を希望する世帯構成・人数（1世帯目）>



<図表3-2-2-3 復興公営住宅への入居を希望する世帯構成・人数（2世帯目）>

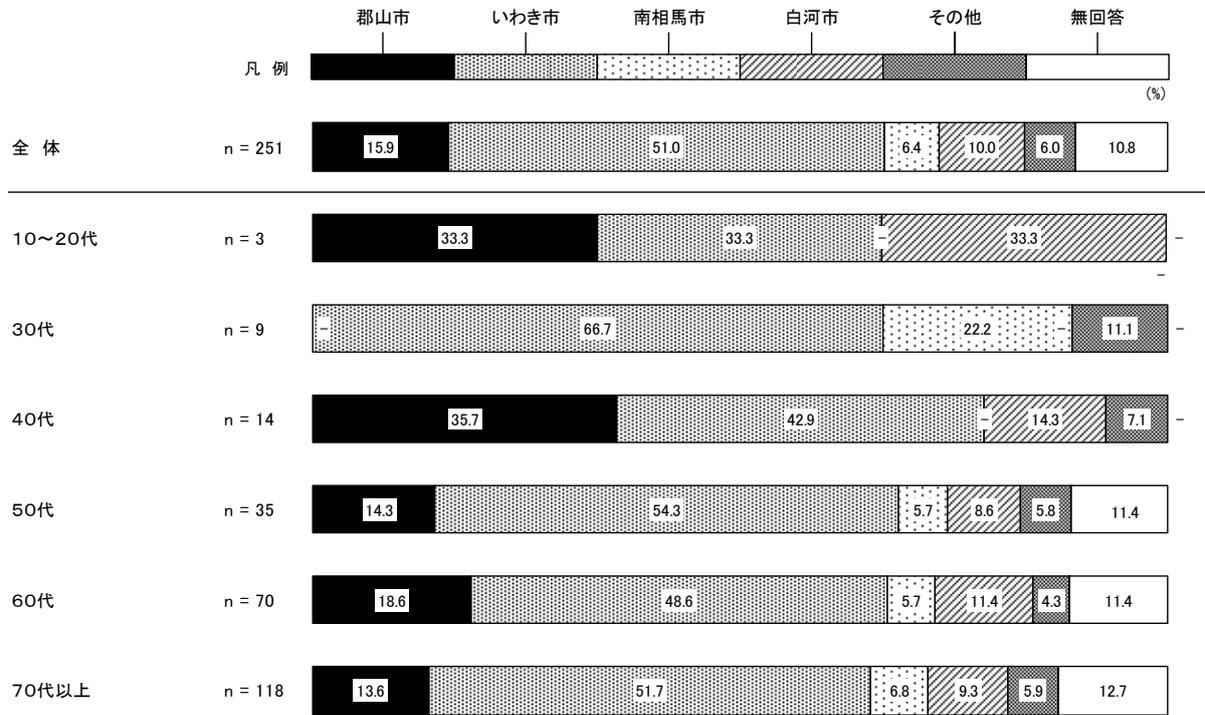


III 調査結果

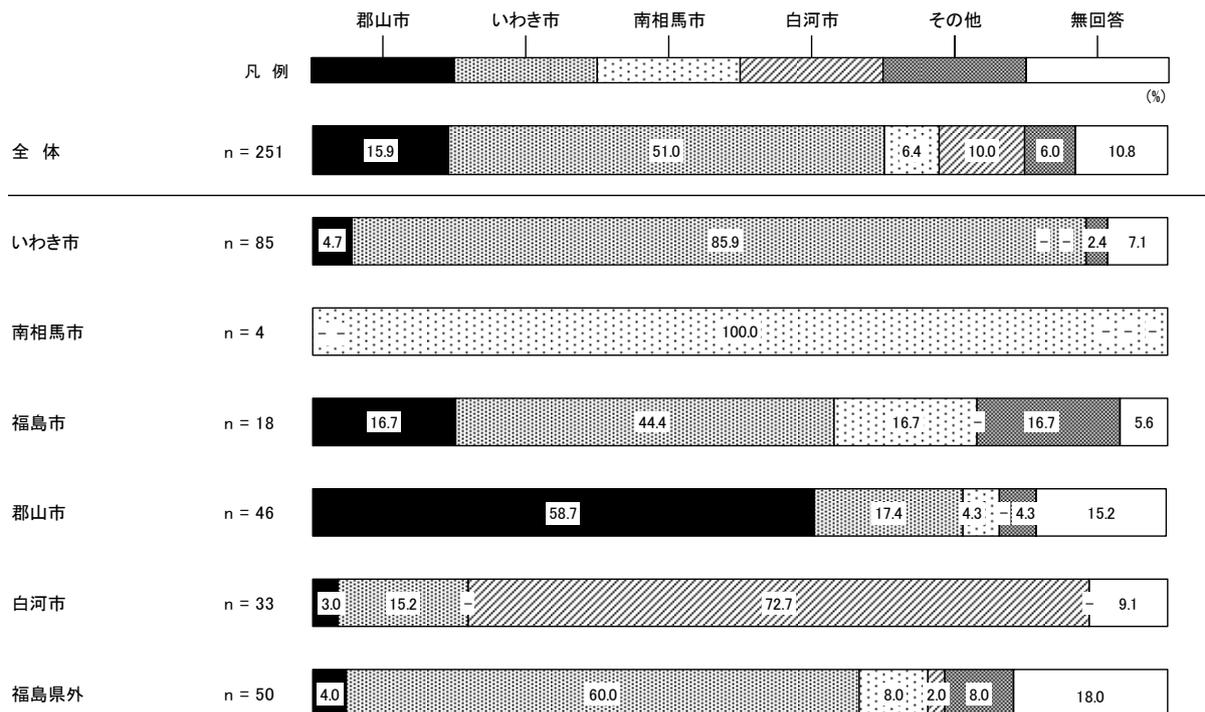
復興公営住宅への入居を希望する主な自治体<1世帯目>について、回答者の年齢別にみると、「いわき市」がいずれの年齢でも最も高くなっている。

復興公営住宅への入居を希望する主な自治体<1世帯目>について、主な避難先自治体別にみると、福島市を除き、いずれの自治体でも避難先の自治体に入居を希望する割合が高いが、福島県外に避難している世帯では、「いわき市」が6割を占める。

<図表3-2-2-4 復興公営住宅への入居を希望する主な自治体（1世帯目）（年齢別）>



<図表3-2-2-5 復興公営住宅への入居を希望する主な自治体（1世帯目）（主な避難先自治体別）>



(2) いわき市勿来酒井地区への申し込み意向

【入居の申し込み中である方、今後、入居の申し込みをしたい方（問9で「2」、「3」と回答した方）で、問9-1（1）＜1世帯目＞あるいは＜2世帯目＞で「4. いわき市」と回答した方】

※「2. 入居の申し込み中である」方は、現在申し込み中の応募に当選せず、再度申し込みを行う場合を想定してお答えください。

＜1世帯目＞

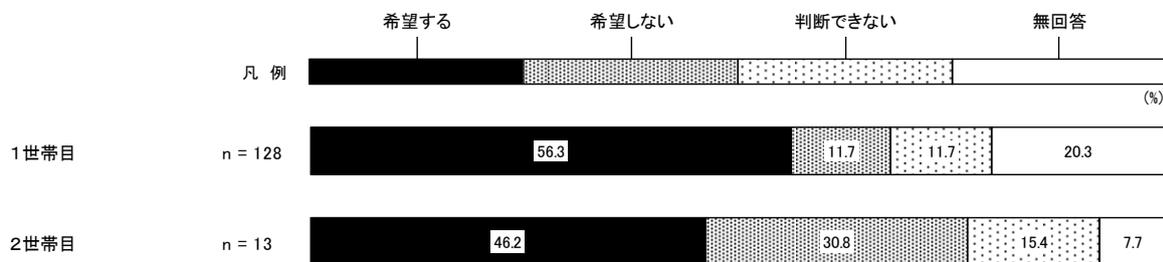
（3）いわき市勿来酒井地区を希望しますか。

＜2世帯目＞

（3）いわき市勿来酒井地区を希望しますか。

＜1世帯目＞いわき市勿来酒井地区への申し込み意向については、「希望する」が56.3%（72世帯）で、「判断できない」が11.7%（15世帯）となっている。

＜図表3-2-2-6 いわき市勿来酒井地区への再度の申し込み意向＞



3-2-3 復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービス

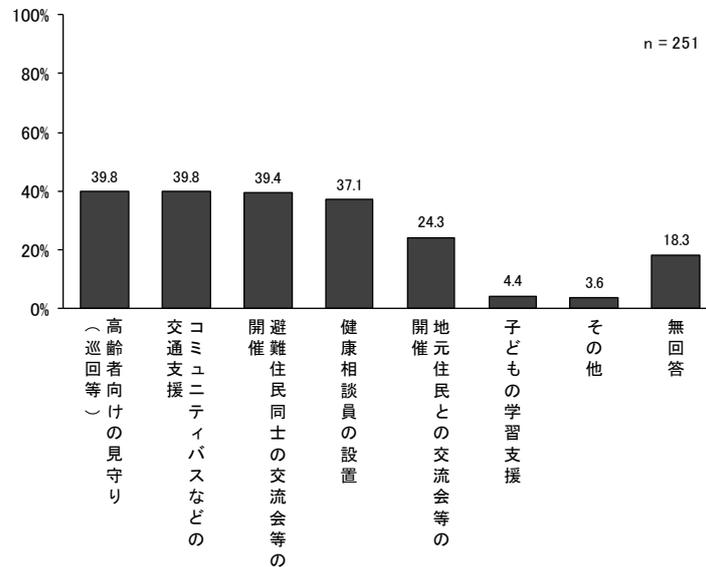
【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居の申し込みをしたい方（問9で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問9-2 復興公営住宅に入居する場合に、サービスとして必要だと思うものは何ですか。（〇は3つまで）

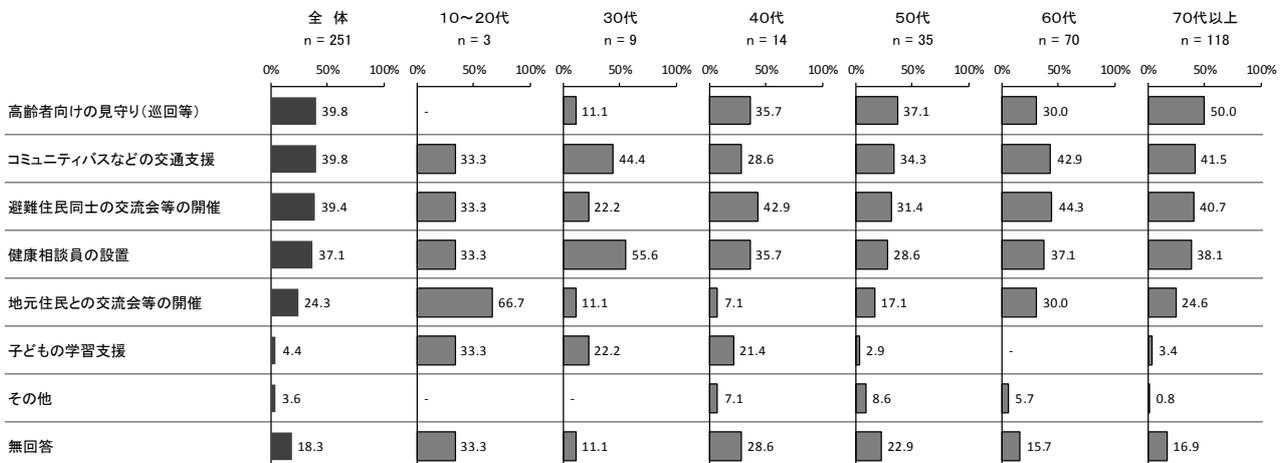
復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービスについては、「高齢者向けの見守り（巡回等）」、「コミュニティバスなどの交通支援」がともに39.8%と最も高く、次いで、「避難住民同士の交流会等の開催」が39.4%、「健康相談員の設置」が37.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、「高齢者向けの見守り（巡回等）」は70代が50.0%と、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-3-1 復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービス>



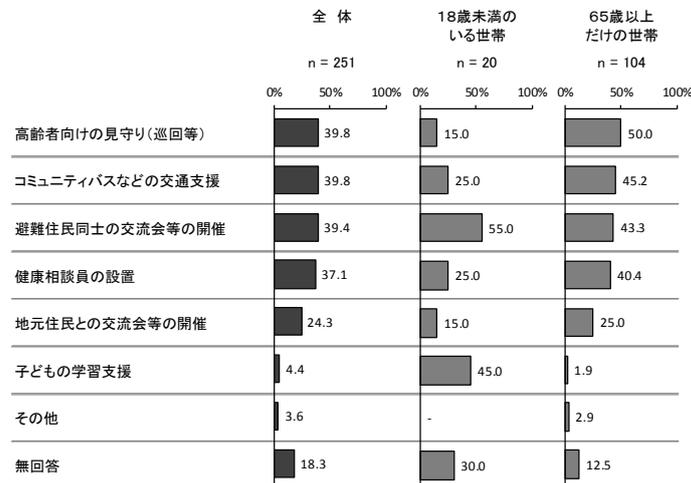
<図表3-2-3-2 復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービス（年齢別）>



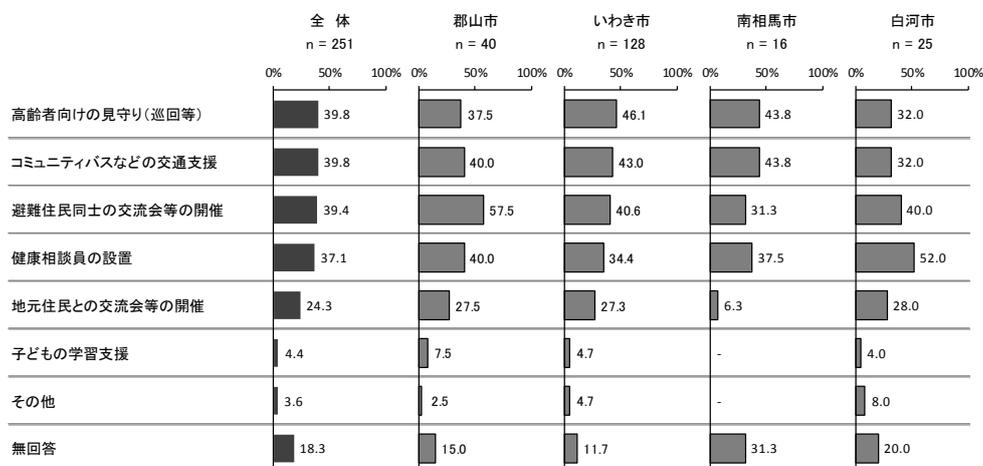
世帯構成別にみると、「高齢者向けの見守り（巡回等）」は65歳以上の世帯が50.0%と、他の年齢と比べ高くなっている。

入居を希望する主な自治体別にみると、いわき市では「高齢者向けの見守り（巡回等）」（46.1%）、郡山市では「避難住民同士の交流会等の開催」（57.5%）が最も高くなっている。

＜図表3-2-3-3 復興公営住宅に入居する場合に必要なと考えるサービス（世帯構成別）＞



＜図表3-2-3-4 復興公営住宅に入居する場合に必要なと考えるサービス（入居を希望する主な自治体別）＞



3-2-4 復興公営住宅へ入居しない場合の居住地の希望

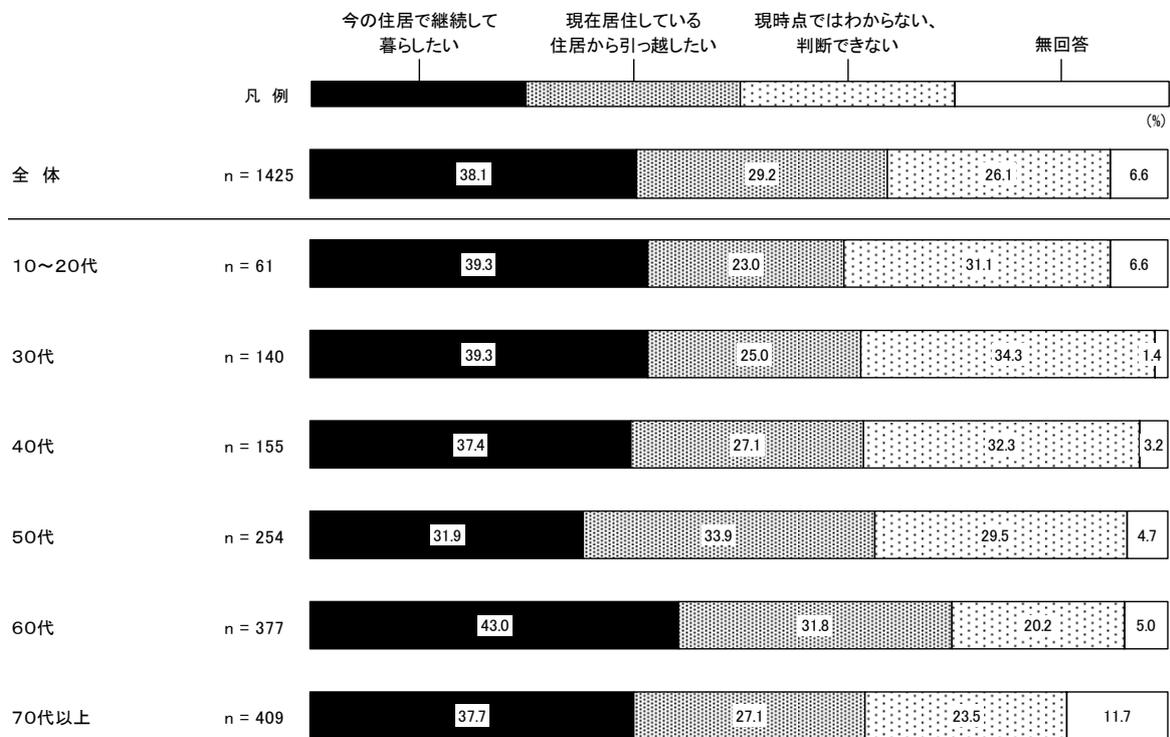
【問9で「4. 現時点では判断できない」「5. 入居を希望しない」と回答した方にかがいます。】「4. 現時点では判断できない」と回答した方は、入居しないとすればという仮定でお答えください。

問9-4 あなたは今後の住居をどのようにお考えですか。(〇は1つまで)

復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態については、「今の住居で継続して暮らしたい」が38.1%と最も高く、次いで、「現在居住している住居から引っ越したい」が29.2%、「現時点ではわからない、判断できない」が26.1%となっている。

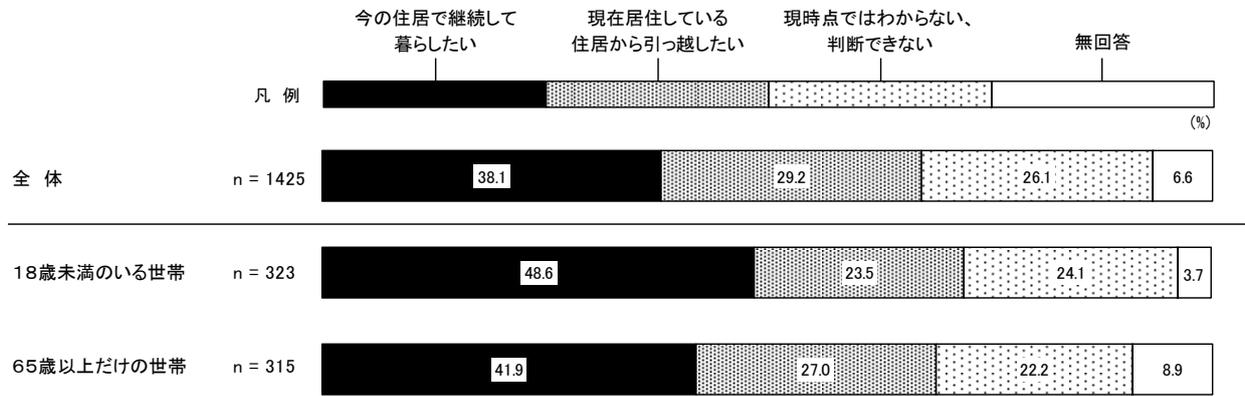
回答者の年齢別にみると、「今の住居で継続して暮らしたい」は50代を除き、いずれの年齢でも最も高くなっている。

＜図表3-2-4-1 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態（年齢別）＞

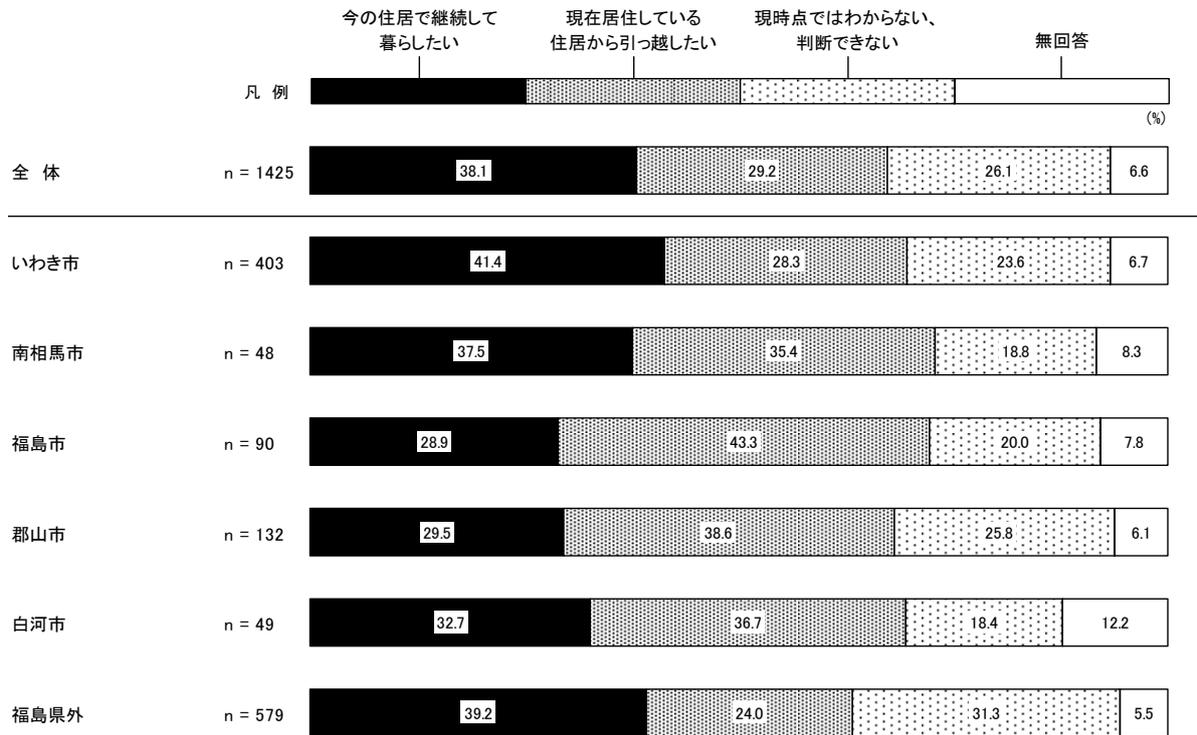


世帯構成別でみると、「今の住居で継続して暮らしたい」はいずれの世帯構成でも最も高くなっている。
 主な避難先自治体別にみると、いわき市、南相馬市、福島県外では「今の住居で継続して暮らしたい」が最も高いが、福島市、郡山市、白河市では「現在居住している住居から引っ越したい」が最も高くなっている。

<図表3-2-4-2 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態（世帯構成別）>



<図表3-2-4-3 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態（主な避難先自治体別）>



3-2-5 現在の住居で継続して暮らしたい理由

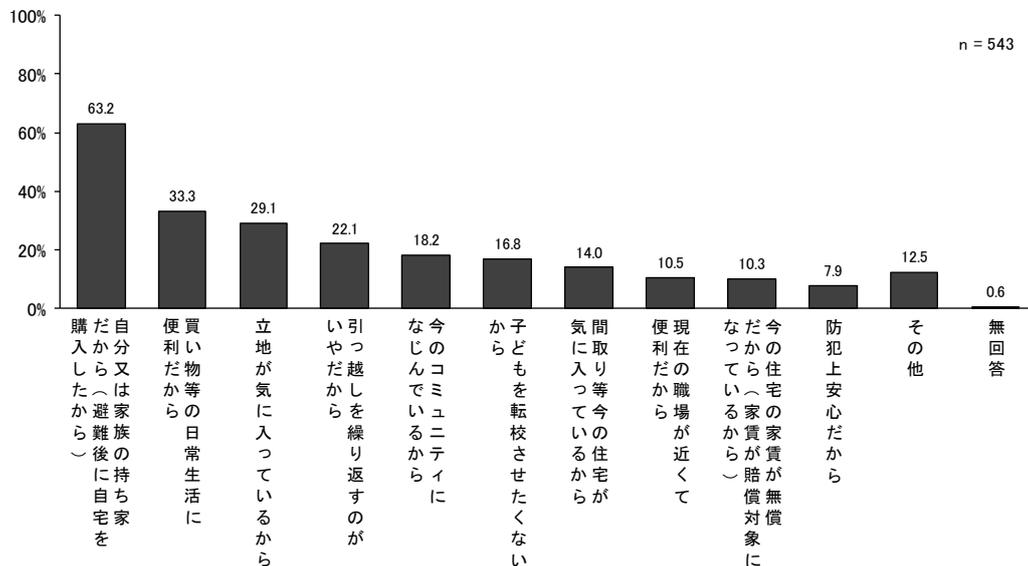
【問9-4で「1. 今の住居で継続して暮らしたい」と回答した方にうかがいます。】

問9-5 今の住居で継続して暮らしたい理由は何ですか。(〇はいくつでも)

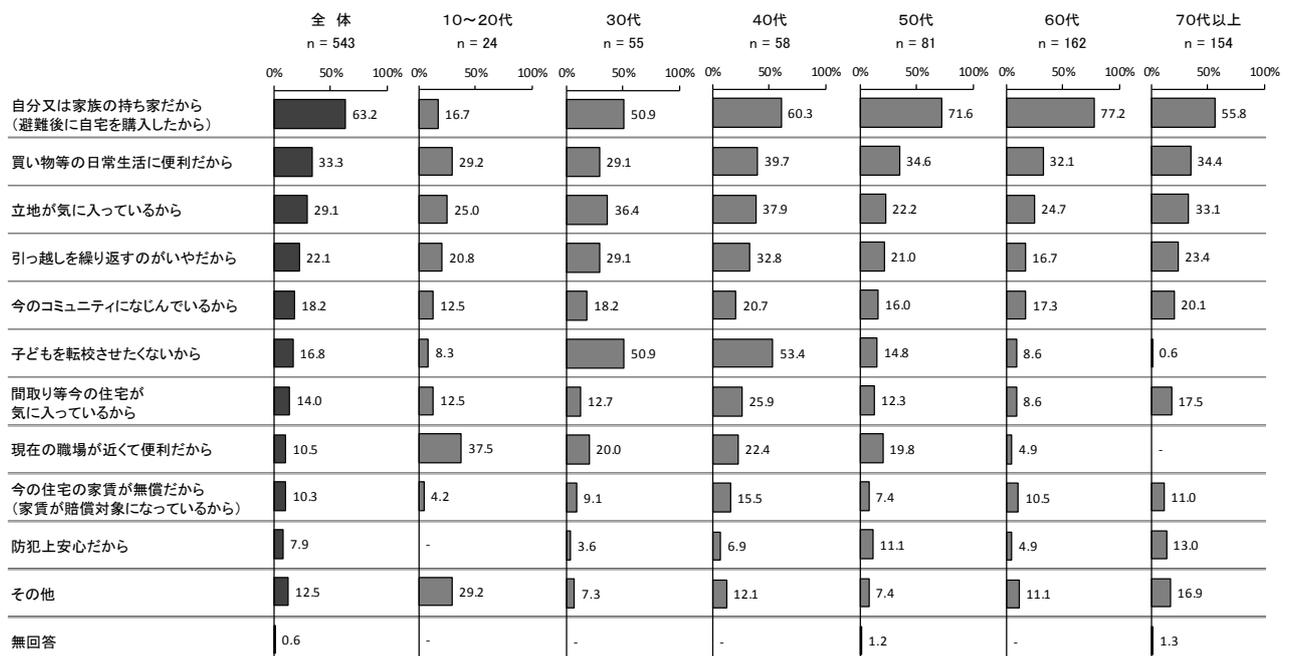
現在の住居で継続して暮らしたい理由については、「自分又は家族の持ち家だから(避難後に自宅を購入したから)」が63.2%で最も高く、次いで、「買い物等の日常生活に便利だから」が33.3%、「立地が気に入っているから」が29.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、「自分又は家族の持ち家だから(避難後に自宅を購入したから)」は50代(71.6%)、60代(77.2%)が他の年齢に比べ高くなっている。「子どもを転校させたくないから」は、30代(50.9%)、40代(53.4%)が他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-2-5-1 現在の住居で継続して暮らしたい理由>



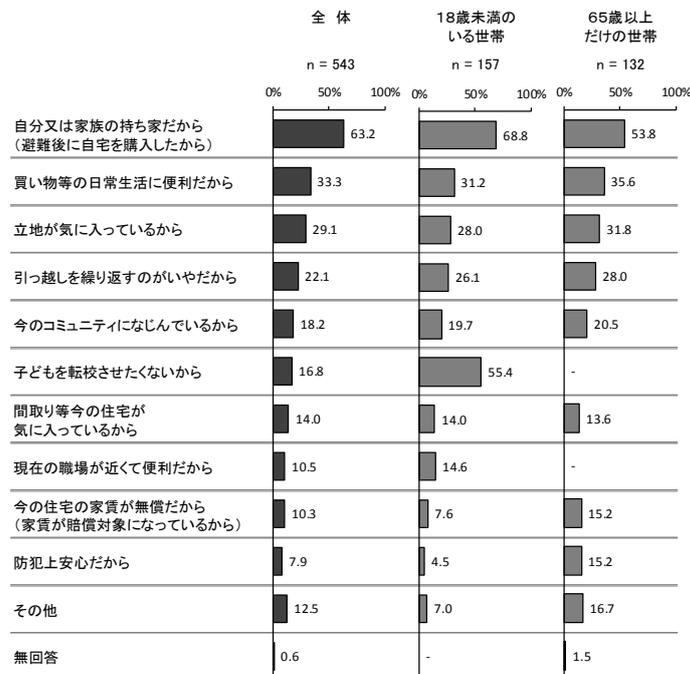
<図表3-2-5-2 現在の住居で継続して暮らしたい理由(年齢別)>



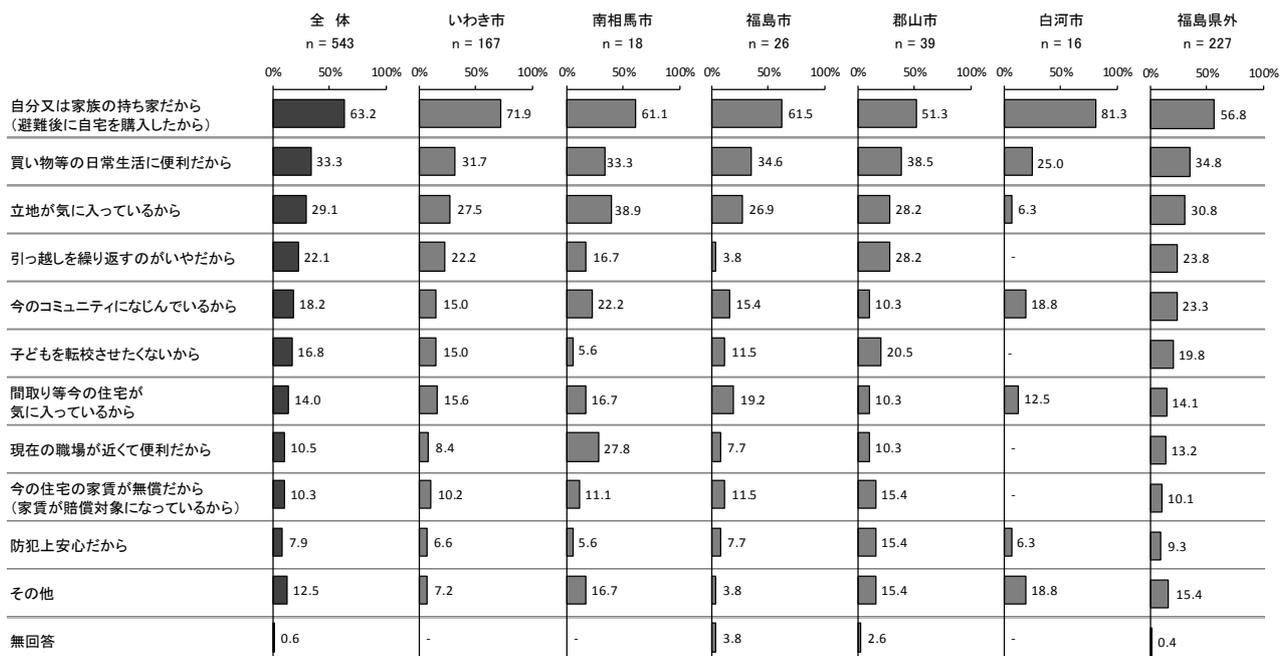
世帯構成別にみても、「自分又は家族の持ち家だから（避難後に自宅を購入したから）」はいずれの世帯でも最も高くなっているが、「子どもを転校させたくないから」は18歳未満のいる世帯が55.4%と高くなっている。

主な避難先自治体別にみると、「自分又は家族の持ち家だから（避難後に自宅を購入したから）」はいずれの避難先自治体でも最も高くなっている。

<図表3-2-5-3 現在の住居で継続して暮らしたい理由（世帯構成別）>



<図表3-2-5-4 現在の住居で継続して暮らしたい理由（主な避難先自治体別）>



3-2-6 避難期間中に転居を希望する自治体

(1) 避難期間中に転居を希望する自治体

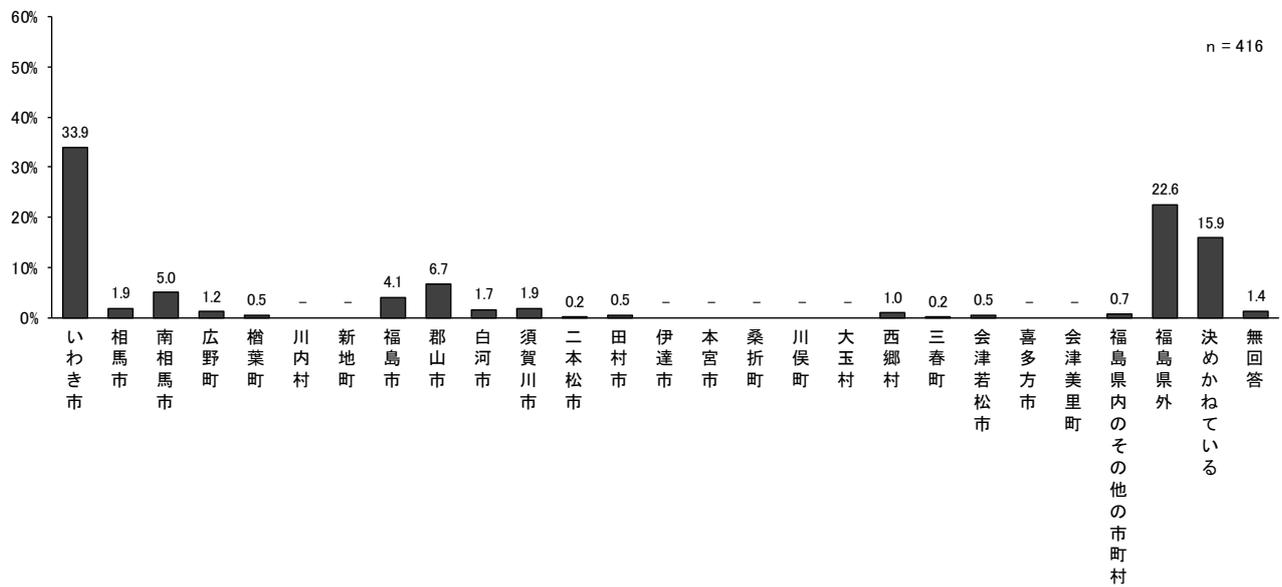
【問9-4で「2. 現在居住している住居から引っ越したい」と回答した方にかがいます。】

問9-6 転居について教えてください。

(1) 避難期間中に、転居を希望される自治体を教えてください。(〇は1つ)

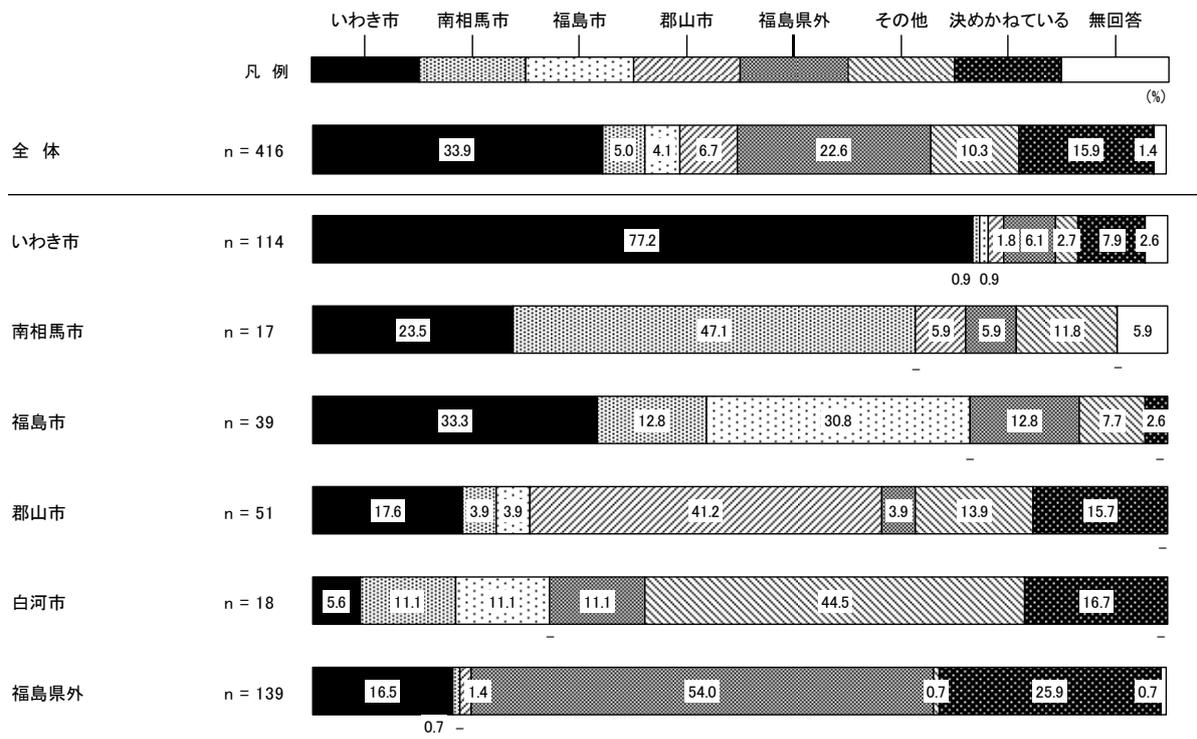
避難期間中に転居を希望する自治体については、「いわき市」が33.9%と最も高く、次いで、「福島県外」が22.6%、「決めかねている」が15.9%となっている。

<図表3-2-6-1 避難期間中に転居を希望する自治体>



主な避難先自治体別に転居を希望する主な自治体別にみると、現在いわき市に避難している世帯の77.2%が同じ「いわき市」への転居を希望しており、福島市（30.8%）、郡山市（41.2%）と比べ、「いわき市」は同じ自治体への転居を希望する割合が高くなっている。一方、福島県外に避難している世帯の54.0%が「福島県外」への転居を希望しているが、「決めかねている」世帯も25.9%となっており、他の避難先自治体と比べ高くなっている。

<図表3-2-6-2 避難期間中に転居を希望する主な自治体（主な避難先自治体別）>



(2) 避難期間中に転居を希望するいわき市の地区名

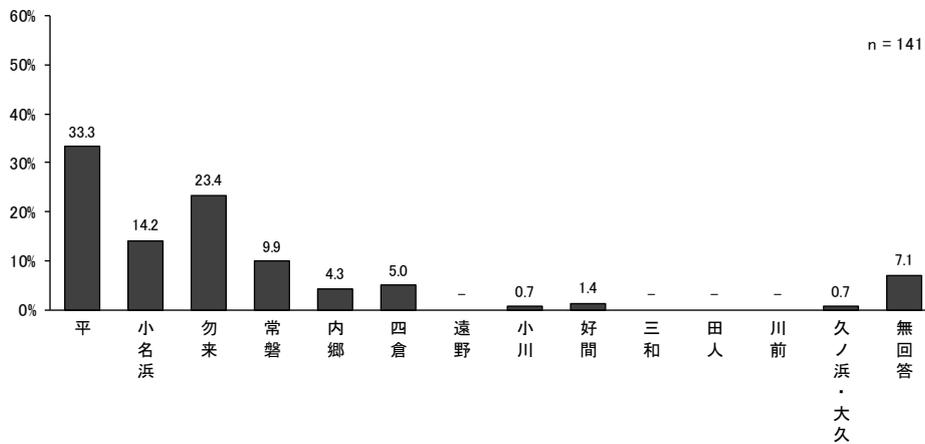
【問9-4で「2. 現在居住している住居から引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問9-6 転居について教えてください。

※いわき市については地区名を教えてください。(〇は1つ)

転居を希望するいわき市の地区名については、「平」が33.3%と最も高く、次いで、「勿来」が23.4%、「小名浜」が14.2%となっている。
 主な避難先自治体別に転居を希望する主ないわき市の地区名別にみると、いわき市は「平」が34.1%と最も高く、次いで「勿来」が22.7%、「小名浜」が13.6%となっている。

<図表3-2-6-3 避難期間中に転居を希望するいわき市の地区名>



<図表3-2-6-4 避難期間中に転居を希望する主ないわき市の地区名（主な避難先自治体別）>

	n	平	小名浜	勿来	常磐	内郷	四倉	小川	好間	久ノ浜・大久	無回答
全体	141	33.3	14.2	23.4	9.9	4.3	5.0	0.7	1.4	0.7	7.1
いわき市	88	34.1	13.6	22.7	9.1	5.7	3.4	-	2.3	1.1	8.0
南相馬市	4	-	25.0	25.0	-	-	50.0	-	-	-	-
福島市	13	46.2	7.7	7.7	30.8	-	-	7.7	-	-	-
郡山市	9	44.4	22.2	22.2	11.1	-	-	-	-	-	-
白河市	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
福島県外	23	30.4	17.4	26.1	4.3	4.3	8.7	-	-	-	8.7

3-2-7 避難期間中、転居する場合の住居形態

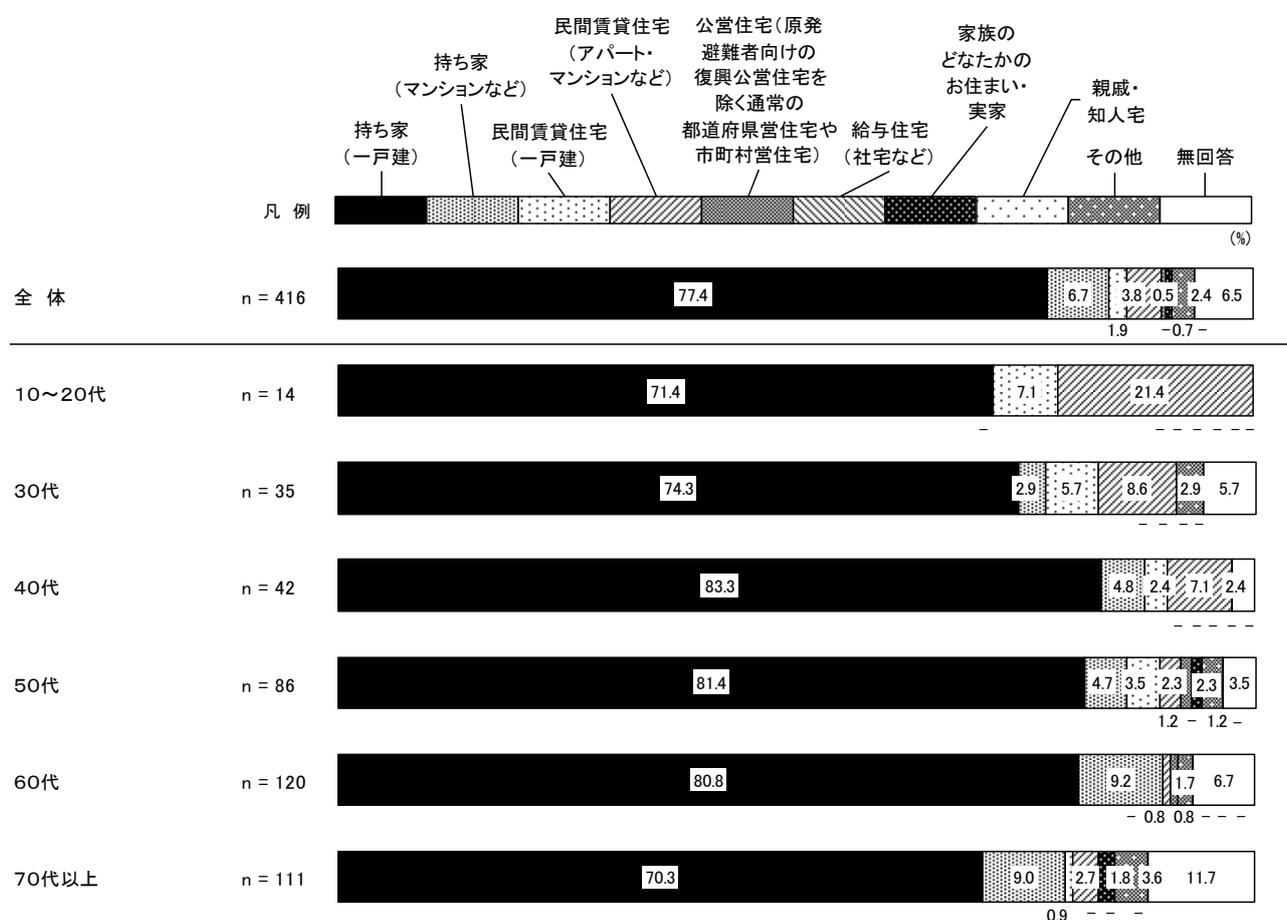
【問9-4で「2. 現在居住している住居から引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問9-6 転居について教えてください。

(2) 現在の居住地から他の避難先への移動を希望する場合、希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

避難期間中、転居する場合の住居形態については、「持ち家（一戸建）」が77.4%と最も高く、次いで、「持ち家（マンションなど）」が6.7%、「民間賃貸住宅（アパート・マンションなど）」が3.8%となっている。回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」がいずれの年齢でも最も高くなっている。

<図表3-2-7-1 住まいとして希望する住居形態（年齢別）>



3-3 将来の意向

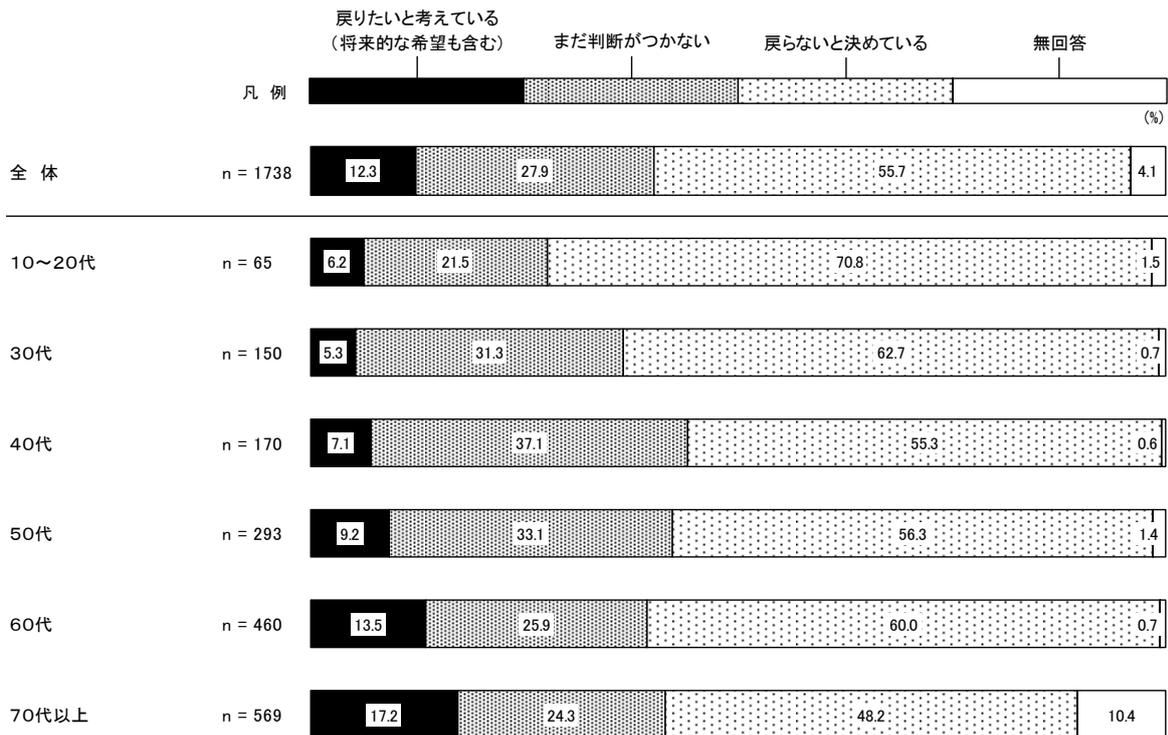
3-3-1 双葉町への帰還意向

問 10 将来、双葉町の避難指示が解除された後の双葉町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。「1」から「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。(〇は1つ)

将来、双葉町の避難指示が解除された後の帰還意向については、「戻らないと決めている」が55.7%と最も高く、次いで、「まだ判断がつかない」が27.9%、「戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」が12.3%となっている。

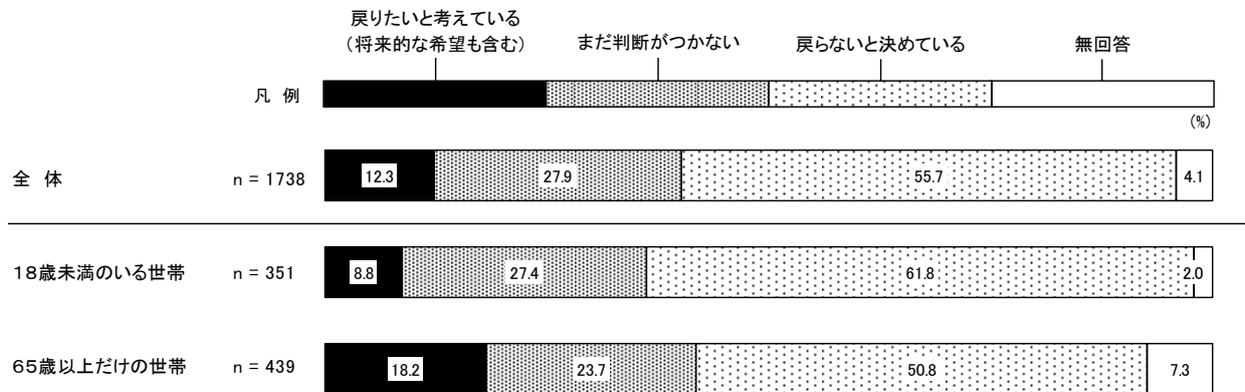
回答者の年齢別にみると、「戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」は、30代以降、年齢が高くなるにつれ占める割合が高くなっており、70代では17.2%となっている。一方、「戻らないと決めている」は、10~20代では70.8%となっており、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-3-1-1 双葉町への帰還意向(年齢別)>



世帯構成別にみると、「戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」は、65歳以上だけの世帯では18.2%となっており、18歳未満のいる世帯と比べ高くなっている。

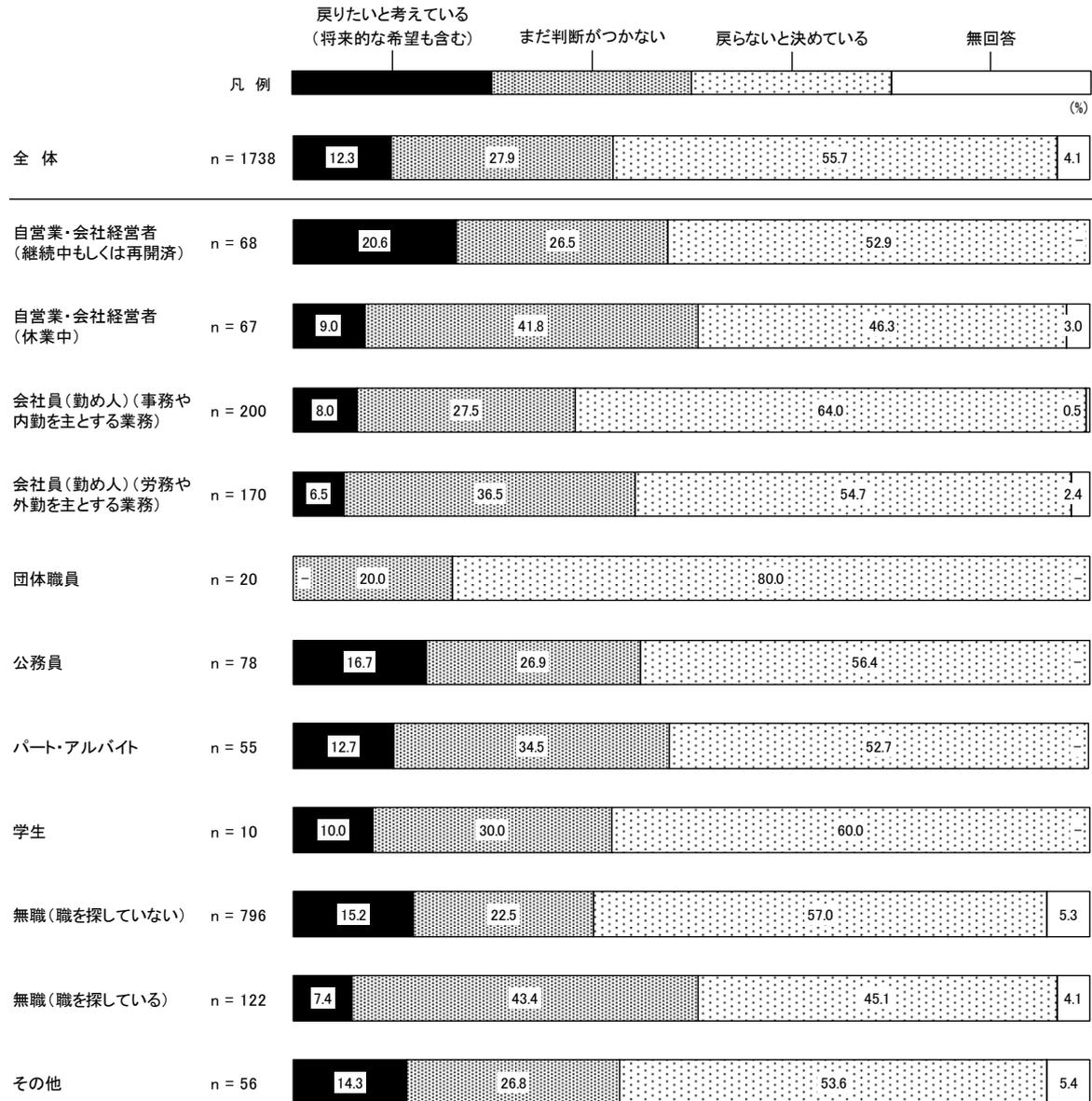
<図表3-3-1-2 双葉町への帰還意向(世帯構成別)>



III 調査結果

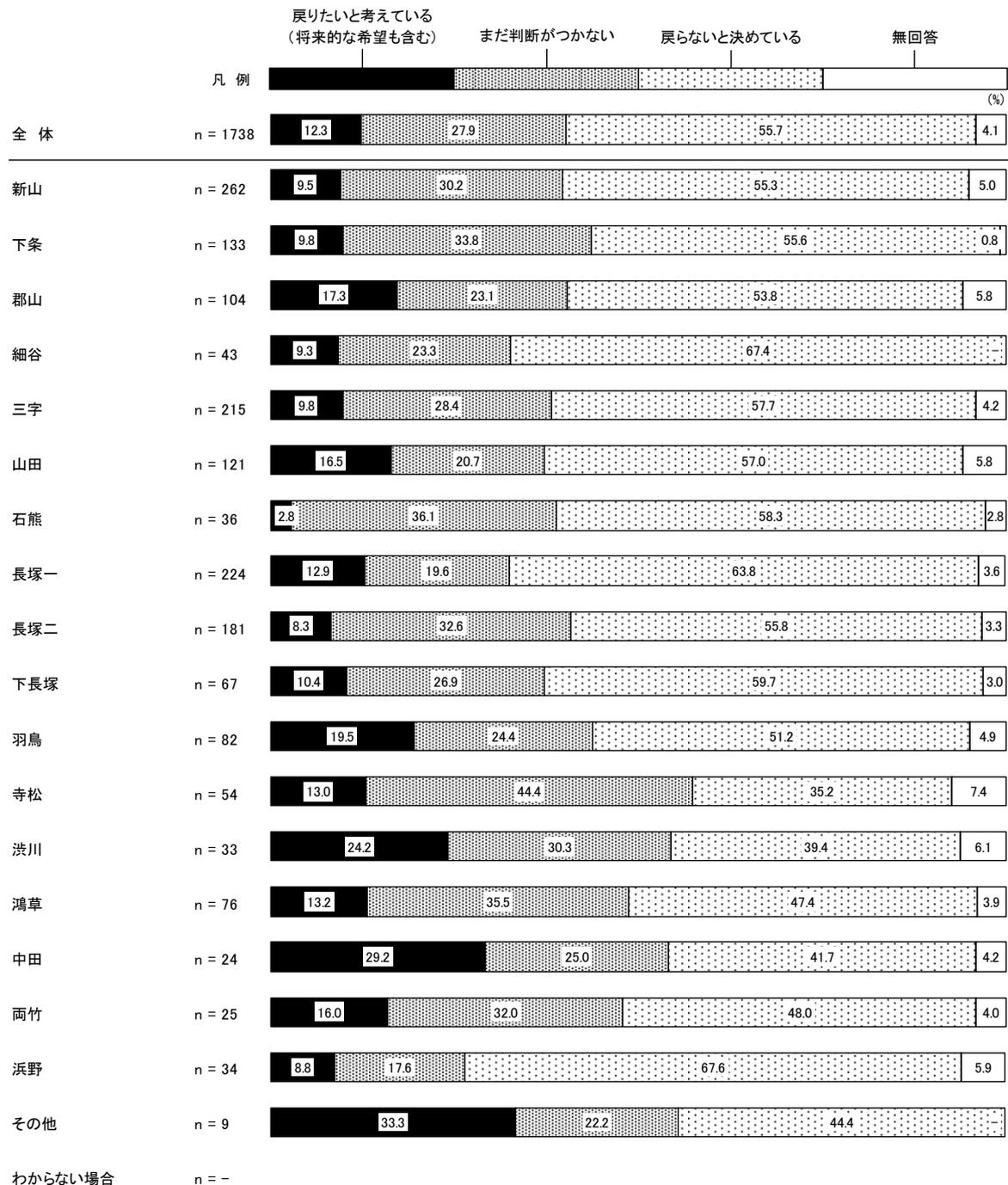
職業別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）が20.6%、公務員が16.7%、無職（職を探していない）が15.2%、その他が14.3%となっており、他の職業に比べ高くなっている。一方、「戻らないと決めている」は「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が64.0%で、他の職業と比べ高くなっている。

＜図表3-3-1-3 双葉町への帰還意向（職業別）＞



震災発生当時の行政区別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は、中田（29.2%）、
 渋川（24.2%）、羽鳥（19.5%）、郡山（17.3%）、山田（16.5%）、両竹（16.0%）が、他の行政区と比
 べ高くなっている。

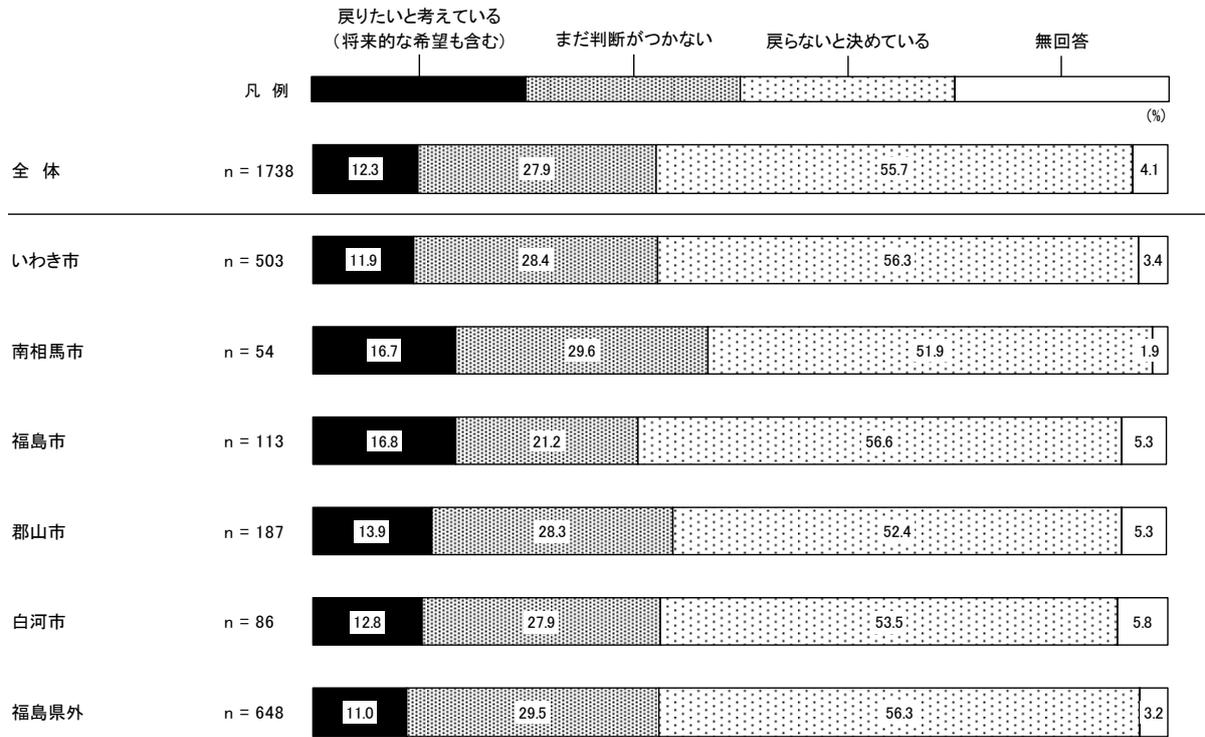
<図表3-3-1-4 双葉町への帰還意向（震災発生当時の行政区別）>



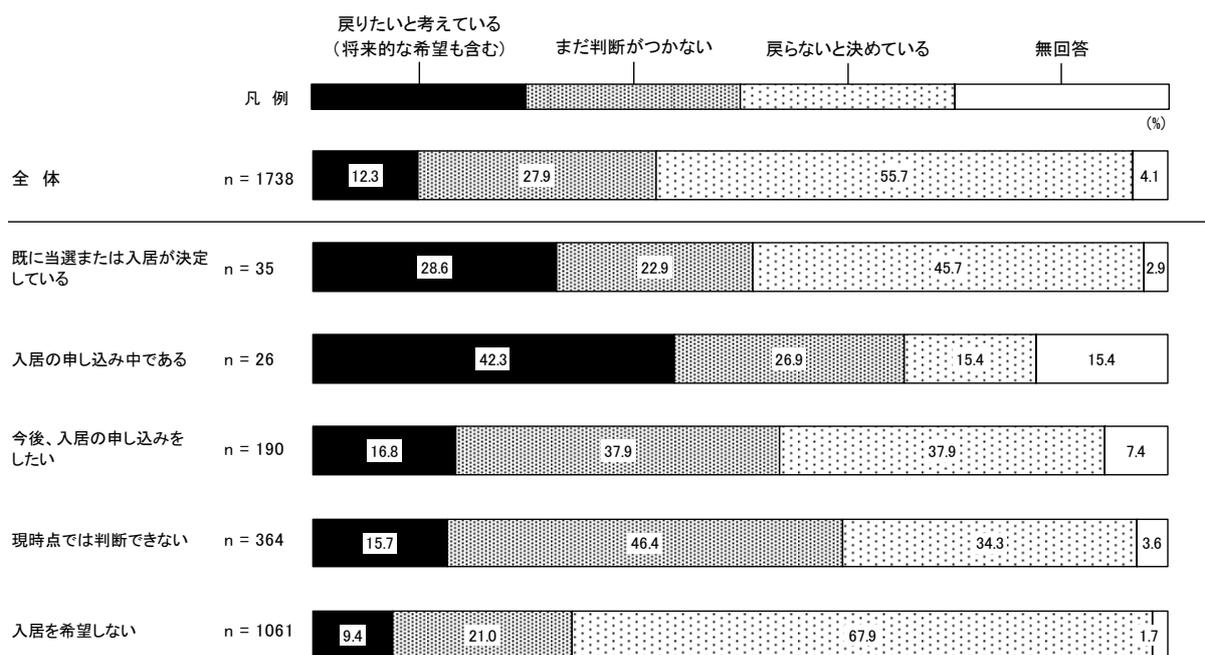
主な避難先自治体別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は、福島市では 16.8%、南相馬市では 16.7%となっており、他の避難先自治体に比べやや高くなっているが、いずれの避難先自治体も 1 割強となっている。

復興公営住宅への入居意向別にみると、「戻らないと決めている」は、入居を希望しない世帯が 67.9%となっており、他の入居意向と比べ高くなっている。

<図表3-3-1-5 双葉町への帰還意向（主な避難先自治体別）>



<図表3-3-1-6 双葉町への帰還意向（復興公営住宅への入居意向別）>



3-3-2 双葉町との“つながり”を保ちたいか

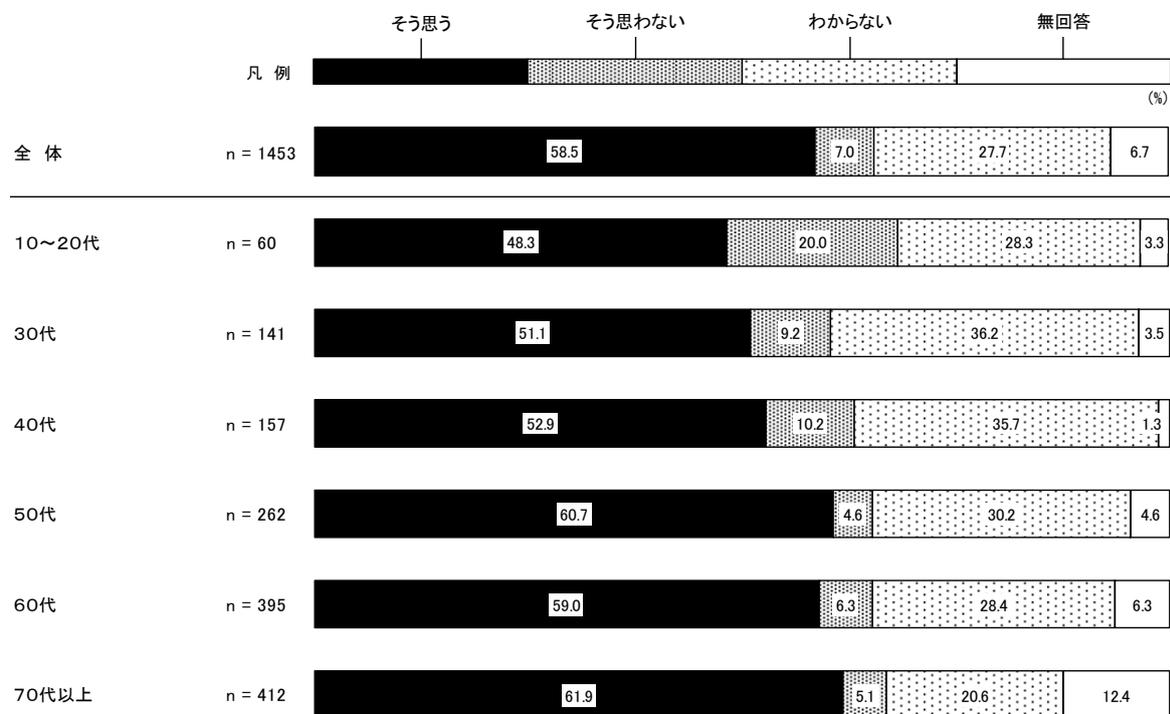
【双葉町への帰還について、現時点ではまだ判断できない方、現時点で戻らないと決めている方（問10で「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問10-3 双葉町との“つながり”を保ちたいと思いますか。（〇は1つ）

双葉町との”つながり”を保ちたいかについては、「そう思う」が58.5%と最も高く、次いで、「わからない」が27.7%、「そう思わない」が7.0%となっている。

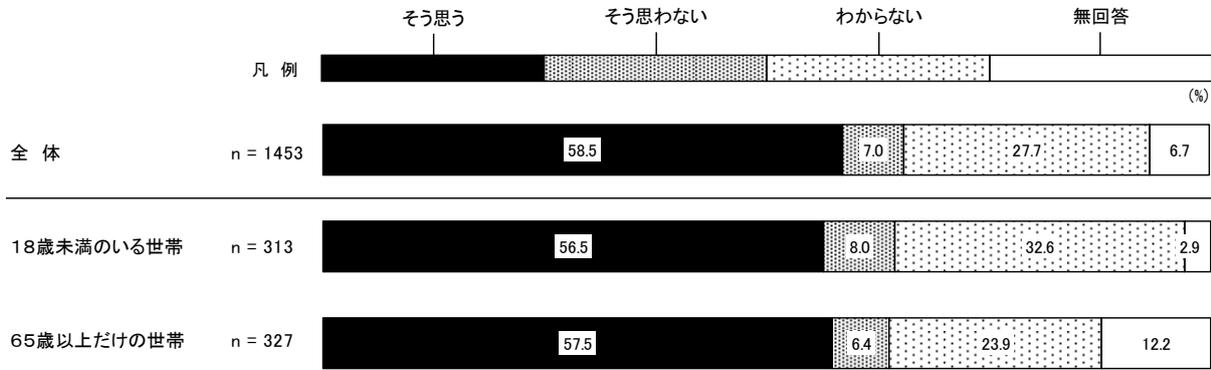
回答者の年齢別にみると、「そう思う」は10～20代が48.3%と半数を下回るが、30代以降は「そう思う」が半数以上を占める。

<図表3-3-2-1 双葉町との“つながり”を保ちたいか（年齢別）>

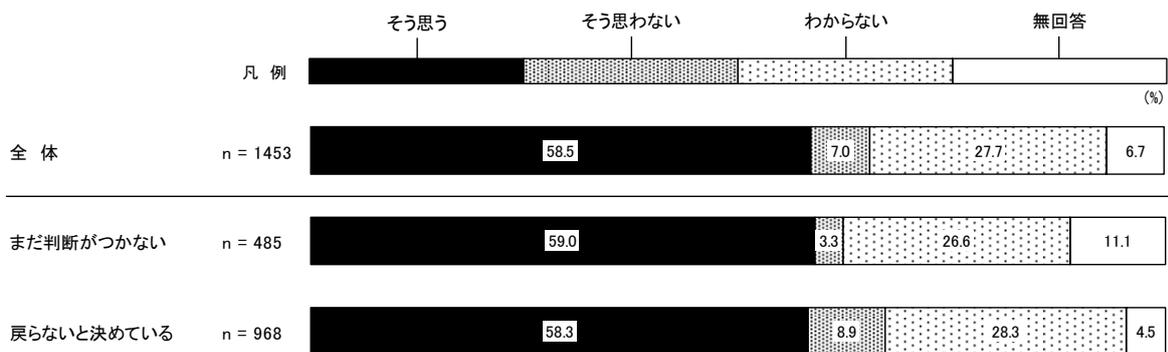


世帯構成別にみると、「そう思う」は全ての世帯構成で半数以上を占める。
 帰還意向別にみると、「そう思う」は全ての項目で半数以上を占める。

<図表3-3-2-2 双葉町との“つながり”を保ちたいか（世帯構成別）>



<図表3-3-2-3 双葉町との“つながり”を保ちたいか（帰還意向別）>



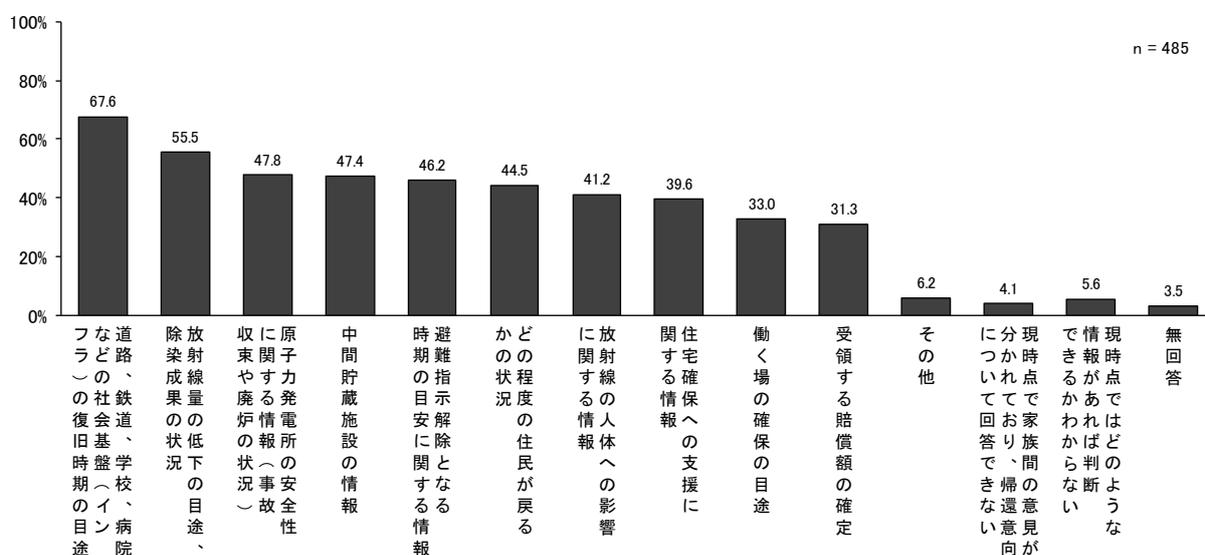
3-3-3 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報

(1) 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報

【双葉町への帰還について、現時点ではまだ判断できない方（問10で「2」と回答した方）にうかがいます。】
 問10-2-1 双葉町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。（〇はいくつでも）

双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が67.6%と最も高く、次いで、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が55.5%、「原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）」が47.8%になっている。

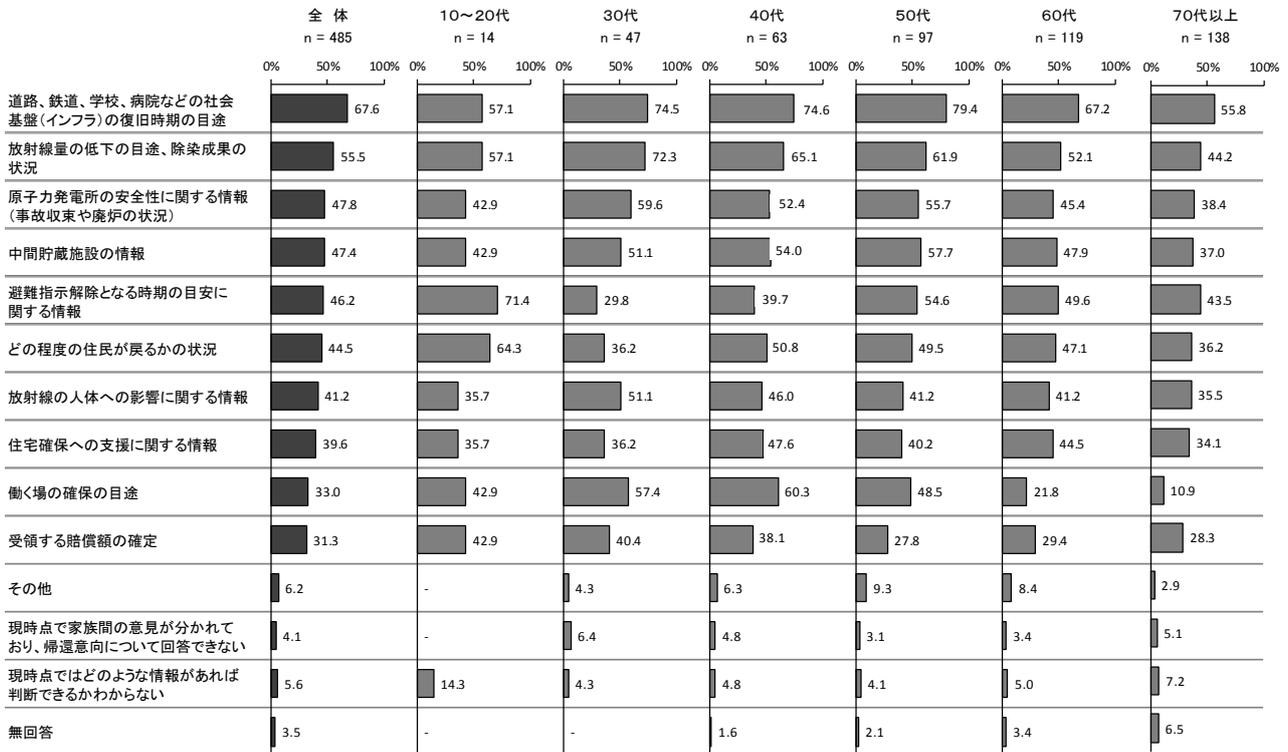
＜図表3-3-3-1 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報＞



III 調査結果

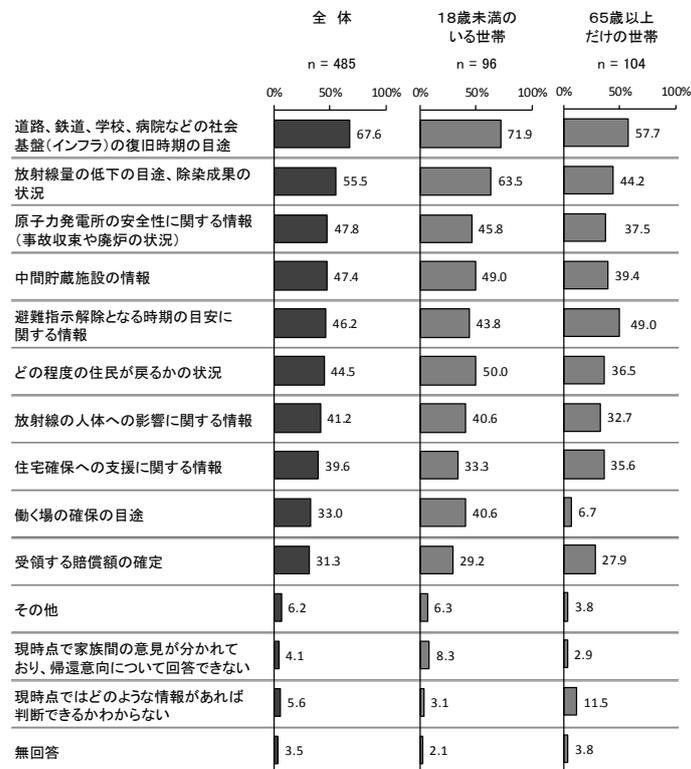
回答者の年齢別にみると、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」は30代以上のいずれの年齢でも最も高くなっている。他に「放射線量の低下の目処、除染成果の状況」は30代(72.3%)、40代(65.1%)、50代(61.9%)、「働く場の確保の目途」は30代(57.4%)、40代(60.3%)、50代(48.5%)となっており、他の年齢と比べ高くなっている。

＜図表3-3-3-2 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報（年齢別）＞



世帯構成別にみると、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」はいずれの世帯構成でも最も高くなっている。

<図表3-3-3-3 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報（世帯構成別）>

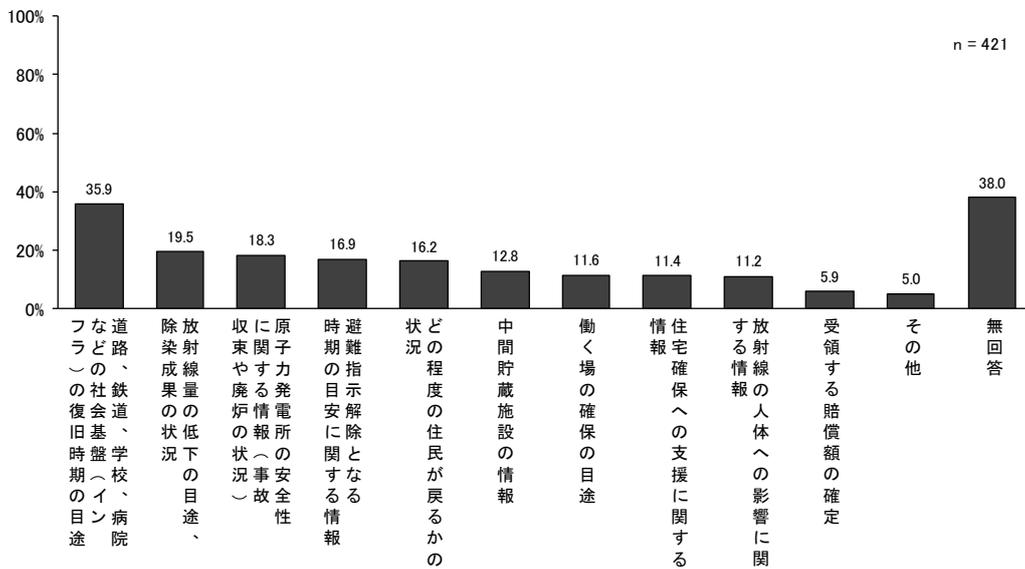


(2) 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの

【双葉町への帰還について、現時点ではまだ判断できない方（問 10で「2」と回答した方）にうかがいます。】
 問 10-2-2 上記「1」から「11」で重視したいことを3つまで選び、その条件を教えてください。

双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報（問 10-2-1）のうち、重視したいものについては、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が 35.9%と最も高く、次いで「放射線量の低下の目処、除染成果の状況」が 19.5%、「原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）」が 18.3%となっている。

＜図表 3-3-3-4 双葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの（3つまで）＞



上位項目の主な意見は、以下のとおり。

〔道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途〕

- ・ インフラを震災前と同じ状態にしてほしい。（30代）
- ・ 子供の学校、生活基盤。（40代）
- ・ インフラが復旧し、安心・安全に暮らせる時期。（50代）
- ・ 若い世代が安心できること。（50代）
- ・ インフラ整備され自宅及び農地等が完全に除染された時。（50代）
- ・ 病院等が近くにあること。（60代）
- ・ 駅が近い、病院が近い、スーパーが近い事。（60代）
- ・ 病院などやインフラの復旧目途。（70代）

〔放射線量の低下の目処、除染成果の状況〕

- 事故前に近い水準までの放射線量の低減。(30代)
- 人体に影響がでない程度の線量になるまで。(30代)
- 基準値以下を維持できる事。(40代)
- 除染後の放射線の低下。(50代)
- 放射線のレベルがどの様に変化していくのか。(60代)
- 田畑・山・水源地の放射線・放射線量許容値以下。(60代)
- 放射線量の低下の目途、除染成果の状況。(70代)

〔原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）〕

- 福島第一原発の廃炉までの現実的かつ具体的な道筋が示される。(30代)
- 廃炉の状況に関する情報は毎週発表するのが条件。(30代)
- 放射線の外部へのもれなどの正確な情報を伝えること。(40代)
- 発電所の安全、事故収束や廃炉の情報。(50代)
- 廃炉の見通しが明確になること。(60代)
- 第1原発の廃炉と地域との影響（現在不明）。(60代)

3-3-4 帰還まで待てる年数

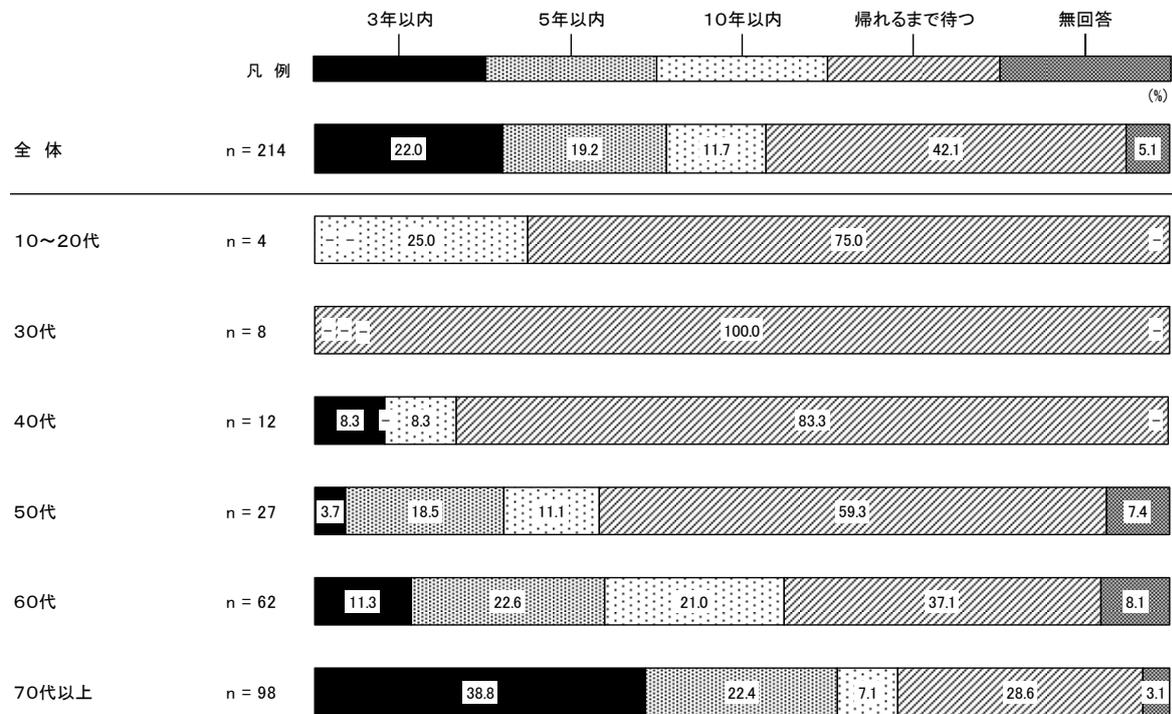
【双葉町への帰還について、現時点で戻りたいと考えている方（問10で「1」と回答した方）にうかがいます。
問10-1-1 何年以内であれば待てますか。（〇はひとつ）

帰還まで待てる年数については、「帰れるまで待つ」が42.1%と最も高く、次いで「3年以内」が22.0%、「5年以内」が19.2%となっている。

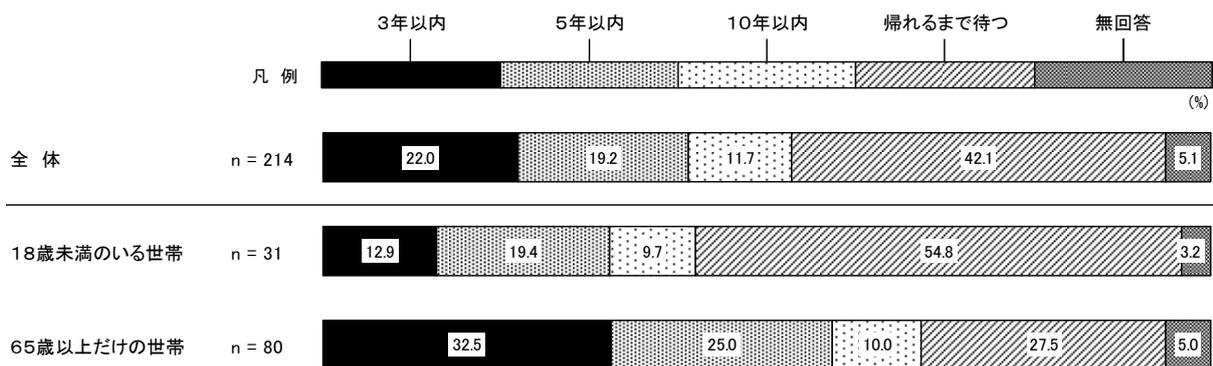
回答者の年齢別にみると、60代では「帰れるまで待つ」が37.1%と最も高いが、70代では「帰れるまで待つ」は28.6%となり、逆に「3年以内」が38.8%と最も高くなる。

世帯構成別にみると、「帰れるまで待つ」が18歳未満のいる世帯では54.8%となっているが、65歳以上だけの世帯では27.5%にとどまる。一方、「3年以内」は65歳以上だけの世帯が32.5%となっており、18歳未満のいる世帯と比べ高くなっている。

<図表3-3-4-1 帰還まで待てる年数（年齢別）>



<図表3-3-4-2 帰還まで待てる年数（世帯構成別）>



3-3-5 双葉町へ戻る場合の家族

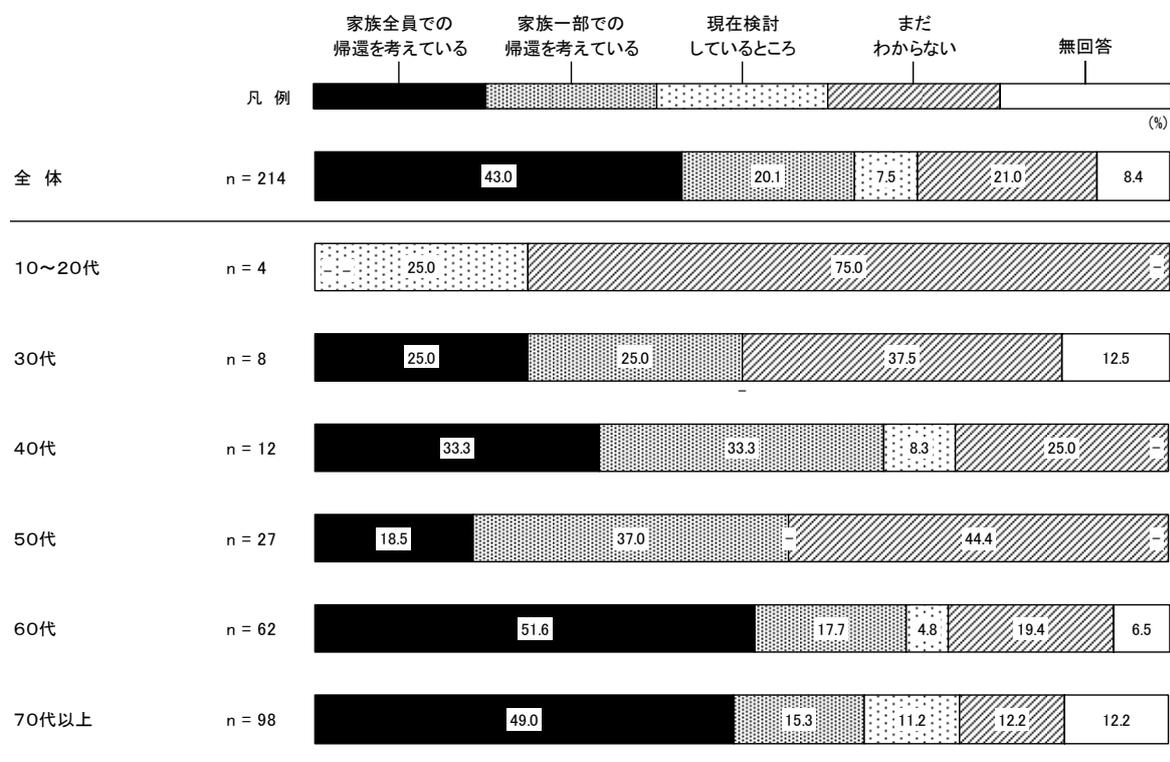
【双葉町への帰還について、現時点で戻りたいと考えている方（問10で「1」と回答した方）にうかがいます。】

問10-1-2 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。（〇はひとつ）

双葉町へ戻る場合の家族については、「家族全員での帰還を考えている」が43.0%と最も高く、次いで「現在検討しているところ」と「まだわからない」が合わせて28.5%、「家族一部での帰還を考えている」が20.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は、60代が51.6%、70代が49.0%と5割前後を占める。

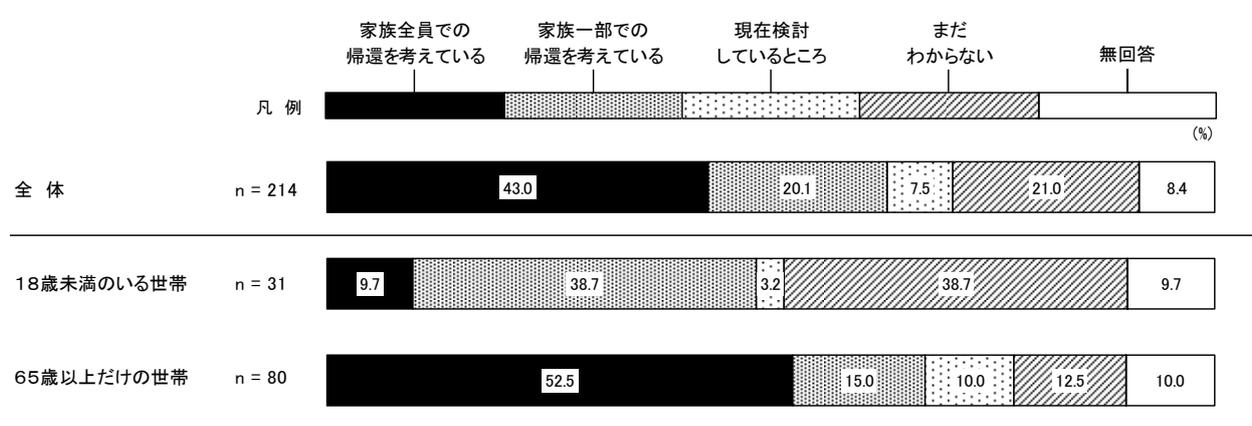
<図表3-3-5-1 双葉町へ戻る場合の家族（年齢別）>



III 調査結果

世帯構成別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は、65歳以上だけの世帯が52.5%と半数を占めるが、18歳未満のいる世帯は9.7%にとどまる。一方、「家族一部での帰還を考えている」は、18歳未満のいる世帯は38.7%となっており、65歳以上だけの世帯構成と比べ高くなっている。

＜図表3-3-5-2 双葉町へ戻る場合の家族（世帯構成別）＞



3-3-6 双葉町へ帰還する場合の住居形態

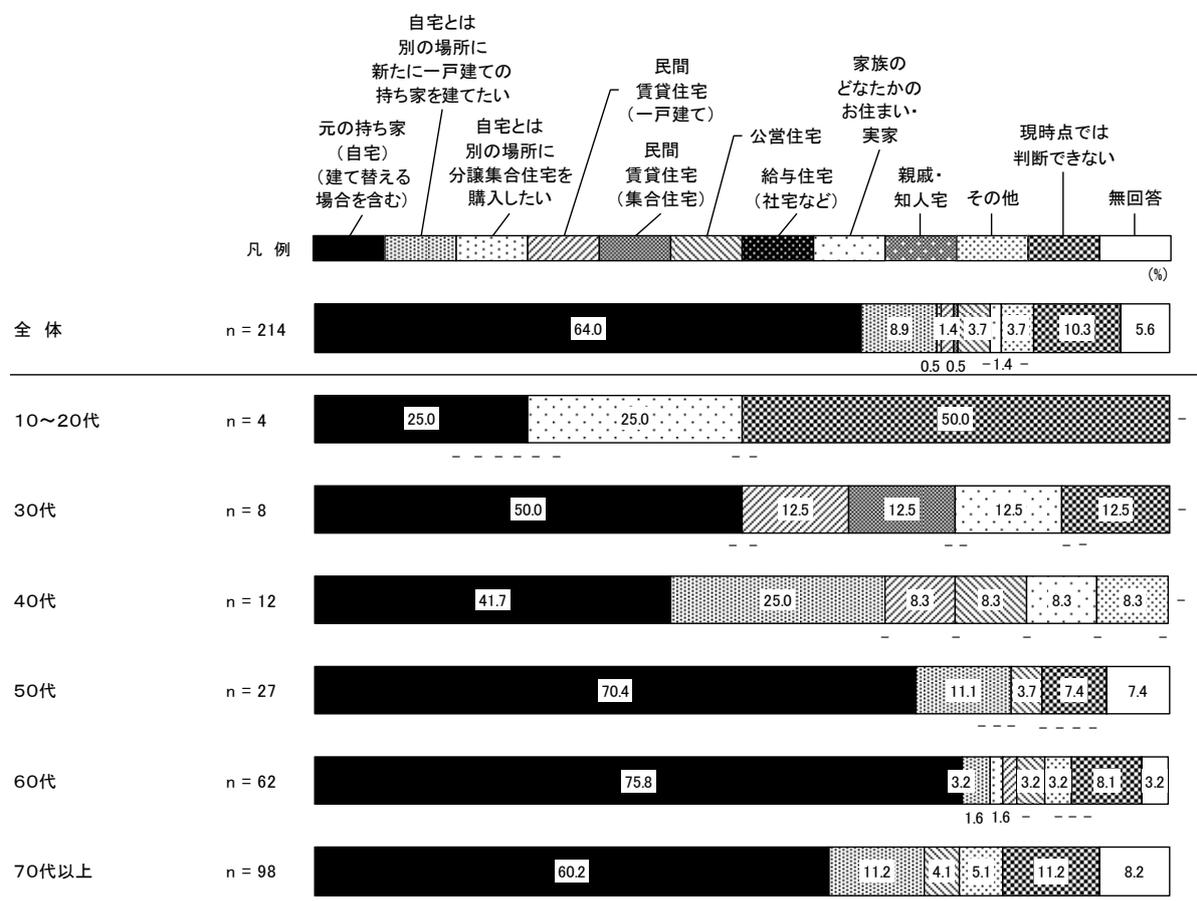
【問 10で「1. 現時点で戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 10-4 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。（〇は1つ）

双葉町へ帰還する場合の住居形態については、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が 64.0%と最も高く、次いで「現時点では判断できない」が 10.3%、「自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい」が 8.9%となっている。

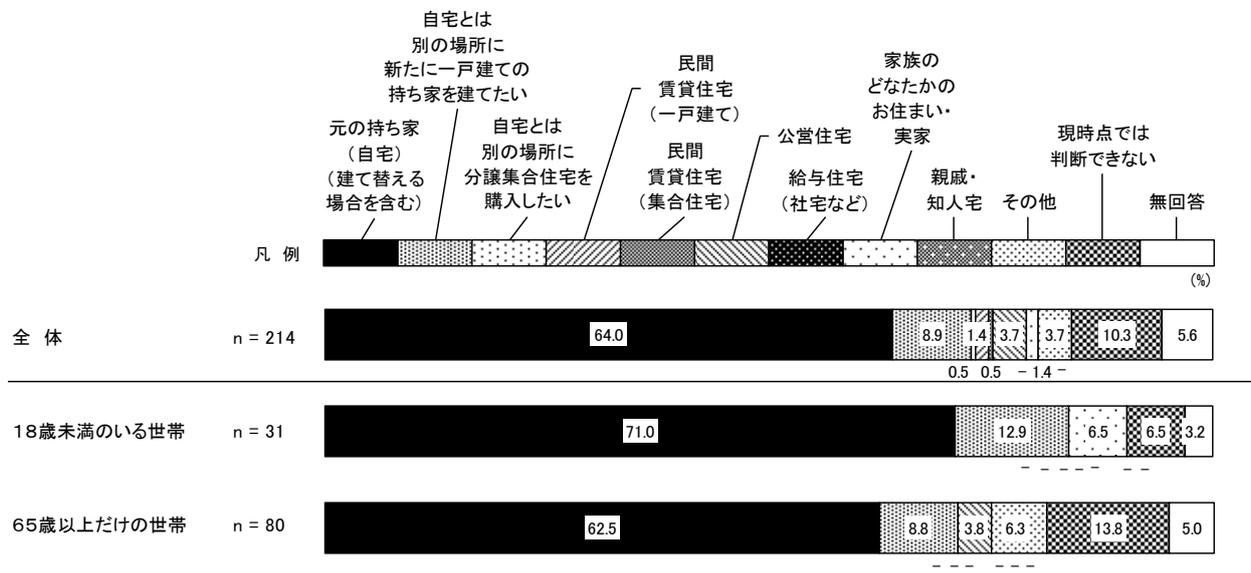
回答者の年齢別にみると、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」は、60代が 75.8%、70代が 60.2%となっている。

<図表3-3-6-1 双葉町へ帰還する場合の住居形態（年齢別）>



世帯構成別にみると、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」は全ての世帯構成で最も高くなっている。

＜図表3-3-6-2 双葉町へ帰還する場合の住居形態（世帯構成別）＞



＜図表3-3-6-3 双葉町へ帰還する場合の住居形態（震災発生当時の行政区別）＞

	n	元の持ち家(自宅) (建て替える場合を含む)	自宅とは別の場所に新たに戸建ての持ち家を建てたい	購入した住宅を別の場所に	民間賃貸住宅(戸建て)	民間賃貸住宅(集合住宅)	公営住宅	給与住宅(社宅など)	家族のどなたかのお住まい・実家	親戚・知人宅	その他	現時点では判断できない	無回答
全体	214	64.0	8.9	0.5	1.4	0.5	3.7	-	1.4	-	3.7	10.3	5.6
新山	25	76.0	-	-	-	4.0	4.0	-	4.0	-	-	4.0	8.0
下条	13	61.5	7.7	-	7.7	-	7.7	-	-	-	-	15.4	-
郡山	18	50.0	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7	-
細谷	4	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	25.0	-
三字	21	42.9	9.5	-	9.5	-	4.8	-	9.5	-	4.8	4.8	14.3
山田	20	70.0	5.0	-	-	-	-	-	-	-	10.0	5.0	10.0
石熊	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
長塚一	29	62.1	3.4	3.4	-	-	10.3	-	-	-	6.9	10.3	3.4
長塚二	15	53.3	6.7	-	-	-	6.7	-	-	-	6.7	13.3	13.3
下長塚	7	71.4	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	14.3	-
羽鳥	16	87.5	6.3	-	-	-	-	-	-	-	-	6.3	-
寺松	7	85.7	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
洪川	8	62.5	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	12.5	12.5
鴻草	10	70.0	10.0	-	-	-	-	-	-	-	10.0	10.0	-
中田	7	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
両竹	4	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
浜野	3	-	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3
その他	3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7	-
わからない場合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

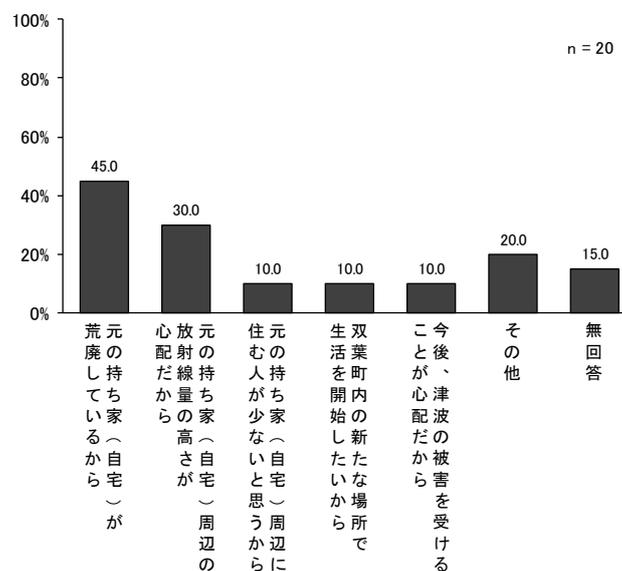
3-3-7 双葉町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

【問 10-4 で「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

問 10-5 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。(〇はいくつでも)

双葉町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「元の持ち家（自宅）が荒廃しているから」が45.0%と最も高く、次いで「元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから」が30.0%となっている。

<図表3-3-7-1 双葉町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由>



<図表3-3-7-2 双葉町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由（震災発生当時の行政区別）>

	n	(%)						
		元の持ち家（自宅）が荒廃しているから	周辺の放射線量の高さが心配だから	元の持ち家（自宅）の周りに住む人が少ないと思うから	元の持ち家（自宅）の周りに住む人が少ないと思うから	開場して生活を始めるから	双葉町内の新たな心配だから	その後、津波の被害を受けることが
全体	20	45.0	30.0	10.0	10.0	10.0	20.0	15.0
新山	-	-	-	-	-	-	-	-
下条	1	100.0	-	-	-	-	-	-
郡山	6	66.7	16.7	16.7	-	16.7	50.0	-
細谷	-	-	-	-	-	-	-	-
三字	2	-	-	-	-	-	50.0	50.0
山田	1	-	100.0	-	-	-	-	-
石熊	-	-	-	-	-	-	-	-
長塚一	2	100.0	-	-	-	50.0	-	-
長塚二	1	-	100.0	-	-	-	-	-
下長塚	1	-	100.0	-	-	-	-	-
羽鳥	1	100.0	-	-	-	-	-	-
寺松	1	-	100.0	-	-	-	-	-
渋川	1	-	-	-	-	-	-	100.0
鴻草	1	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-
中田	-	-	-	-	-	-	-	-
両竹	-	-	-	-	-	-	-	-
浜野	2	-	-	-	50.0	-	-	50.0
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
わからない場合	-	-	-	-	-	-	-	-

3-3-8 双葉町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援

(1) 双葉町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援

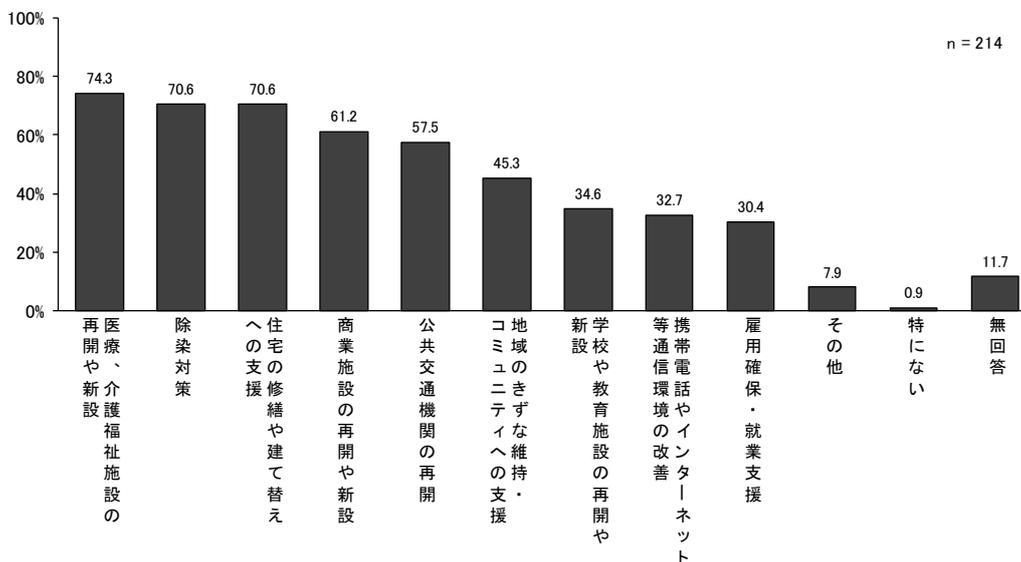
【問 10 で「1. 現時点で戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 10-6 震災時に居住されていた双葉町に戻る場合に、今後の生活においてどのような支援が必要と考えますか。（〇はいくつでも）

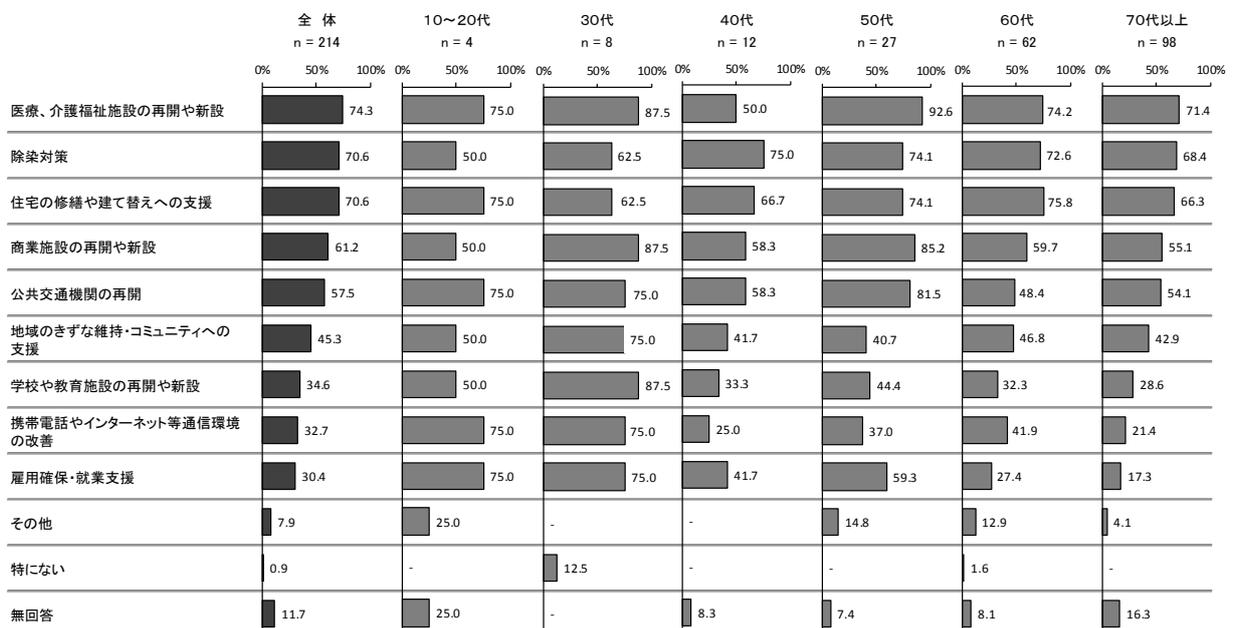
帰還する場合に今後の生活において必要な支援については、「医療、介護福祉施設の再開や新設」が 74.3% と最も高く、次いで「除染対策」、「住宅の修繕や建て替えへの支援」が 70.6% となっている。

回答者の年齢別にみると、60 代以上では、「医療、介護福祉施設の再開や新設」、「除染対策」、「住宅の修繕や建て替えへの支援」がいずれも 6 割以上となっている。

<図表 3-3-8-1 双葉町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援>



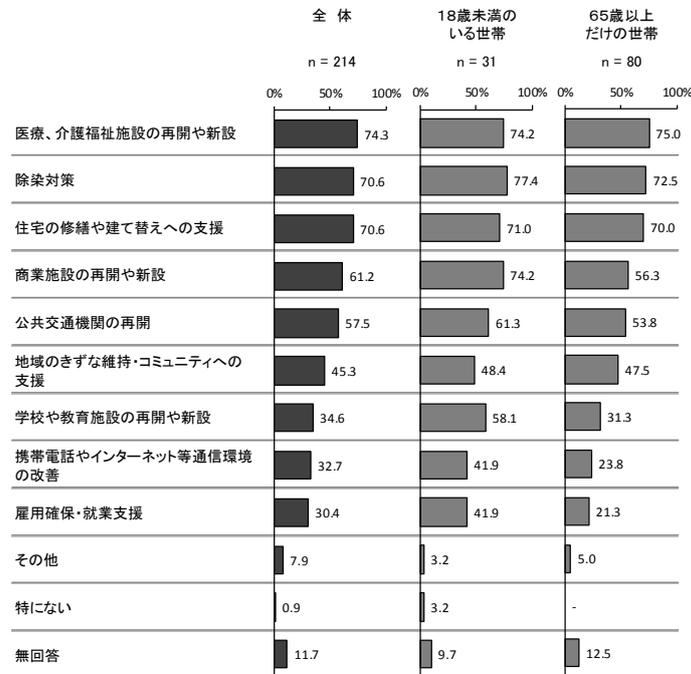
<図表 3-3-8-2 双葉町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（年齢別）>



III 調査結果

世帯構成別にみると、「医療、介護福祉施設の再開や新設」、「除染対策」、「住宅の修繕や建て替えへの支援」はいずれの世帯でも7割前後を占める。18歳未満のいる世帯は、「商業施設の再開や新設」が74.2%、「学校や教育施設の再開や新設」が58.1%で、65歳以上だけの世帯と比べ高くなっている。

<図表3-3-8-3 双葉町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（世帯構成別）>



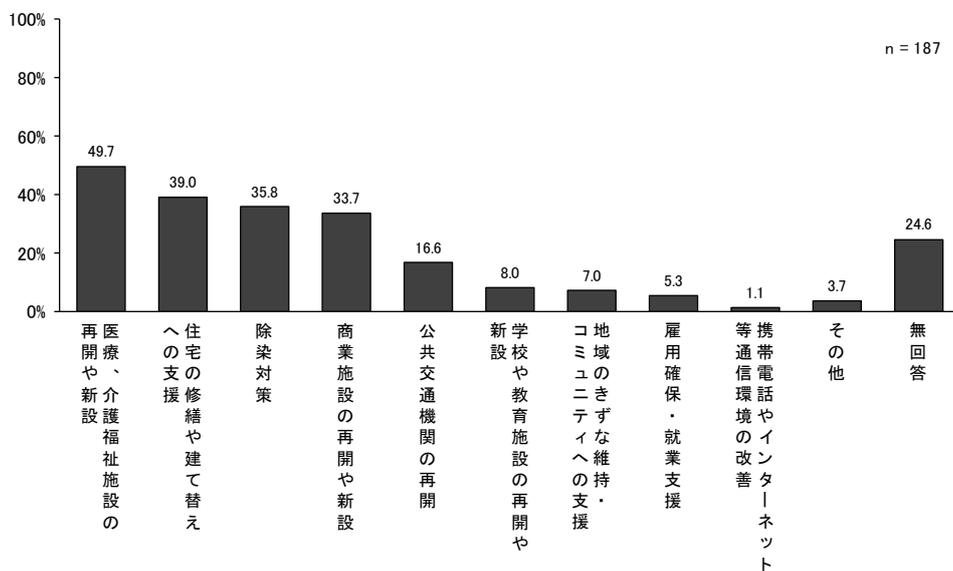
(2) 双葉町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援のうち、重視するもの

【問 10-6 で「1」から「10」と回答した方にうかがいます。】

問 10-7 上記(問 10-6)で選んだ支援のうち、重視したいものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。また、具体的な内容の欄に、支援の具体的な内容について、お書きください。

双葉町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援のうち、重視するものについては、「医療、介護福祉施設の再開や新設」が 49.7%と最も高く、次いで「住宅の修繕や建て替えへの支援」が 39.0%、「除染対策」が 35.8%となっている。

<図表 3-3-8-4 双葉町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援のうち、重視するもの(3つまで)>



上位項目の主な意見は、以下のとおり。

【医療、介護福祉施設の再開や新設】

- 総合病院の再開、福祉施設(デイサービス)の再開。(30代)
- 厚生病院の再開。(40代)
- 国立病院の新設。(40代)
- 病院の再開(全般)。(50代)
- 県立病院の再開。(60代)
- 気軽に相談できる町医者。(60代)
- 病院の再開と介護施設(特別養護老人ホーム)の開設。(60代)
- 医療、介護福祉施設の再開や新設。(70代)
- 公的病院や介護保険施設の再開。

Ⅲ 調査結果

〔住宅の修繕や建て替えへの支援〕

- 持ち家を建てる際の支援（固定資産税の免除等）。（40代）
- 住宅の修繕や建て替えに係わる資金の援助。（50代）
- 不要物の処理。（60代）
- 避難中の老朽化箇所の復旧。（70代）

〔除染対策〕

- 徹底した除染。（30代）
- 人が住めるレベルへ除染をする。（40代）
- 除染作業を早急に行う。（50代）
- 山・川・田畑の除染。（60代）
- 除染をして一日でも早く、双葉町をとりもどしてほしい。（60代）
- 除染対策はこまめにやってもらいたい。（70代）

3-3-9 現時点で戻らないと決めている理由

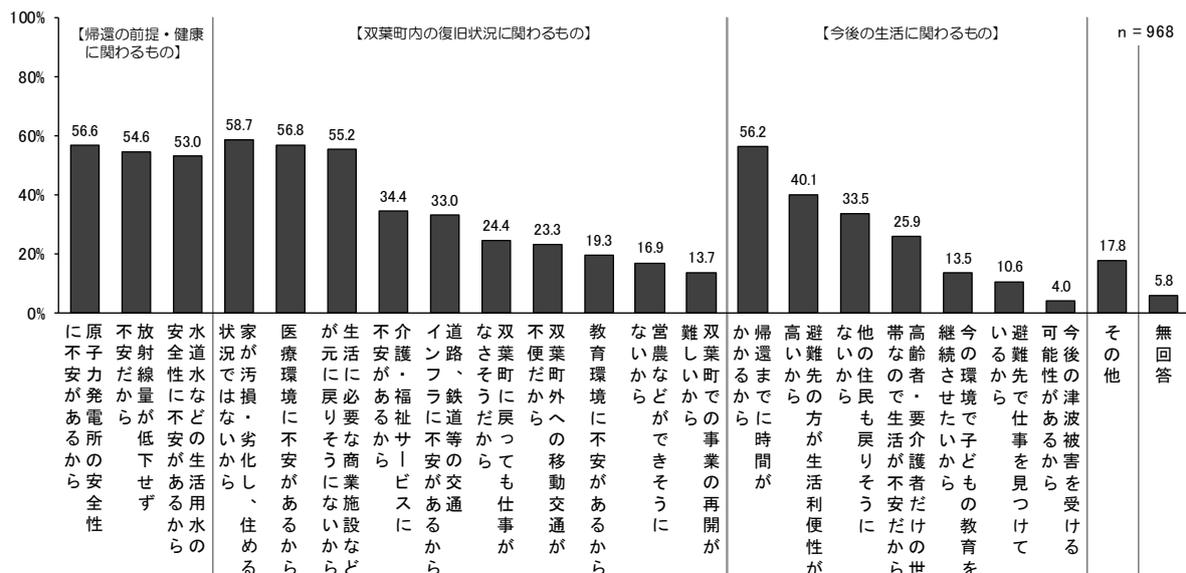
【問 10 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 10-8 現時点で戻らない理由、今後の生活への支援について教えてください。

(1) 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

現時点で戻らないと決めている理由については、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「原子力発電所の安全性に不安があるから」が 56.6%と最も高く、次いで「放射線量が低下せず不安だから」が 54.6%、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が 53.0%となっている。【双葉町内の復旧状況に関わるもの】については、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」が 58.7%と最も高く、次いで「医療環境に不安があるから」が 56.8%、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が 55.2%となっている。【今後の生活に関わるもの】については、「帰還までに時間がかかるから」が 56.2%と最も高く、次いで「避難先の方が生活利便性が高いから」が 40.1%、「他の住民も戻りそうにないから」が 33.5%となっている。

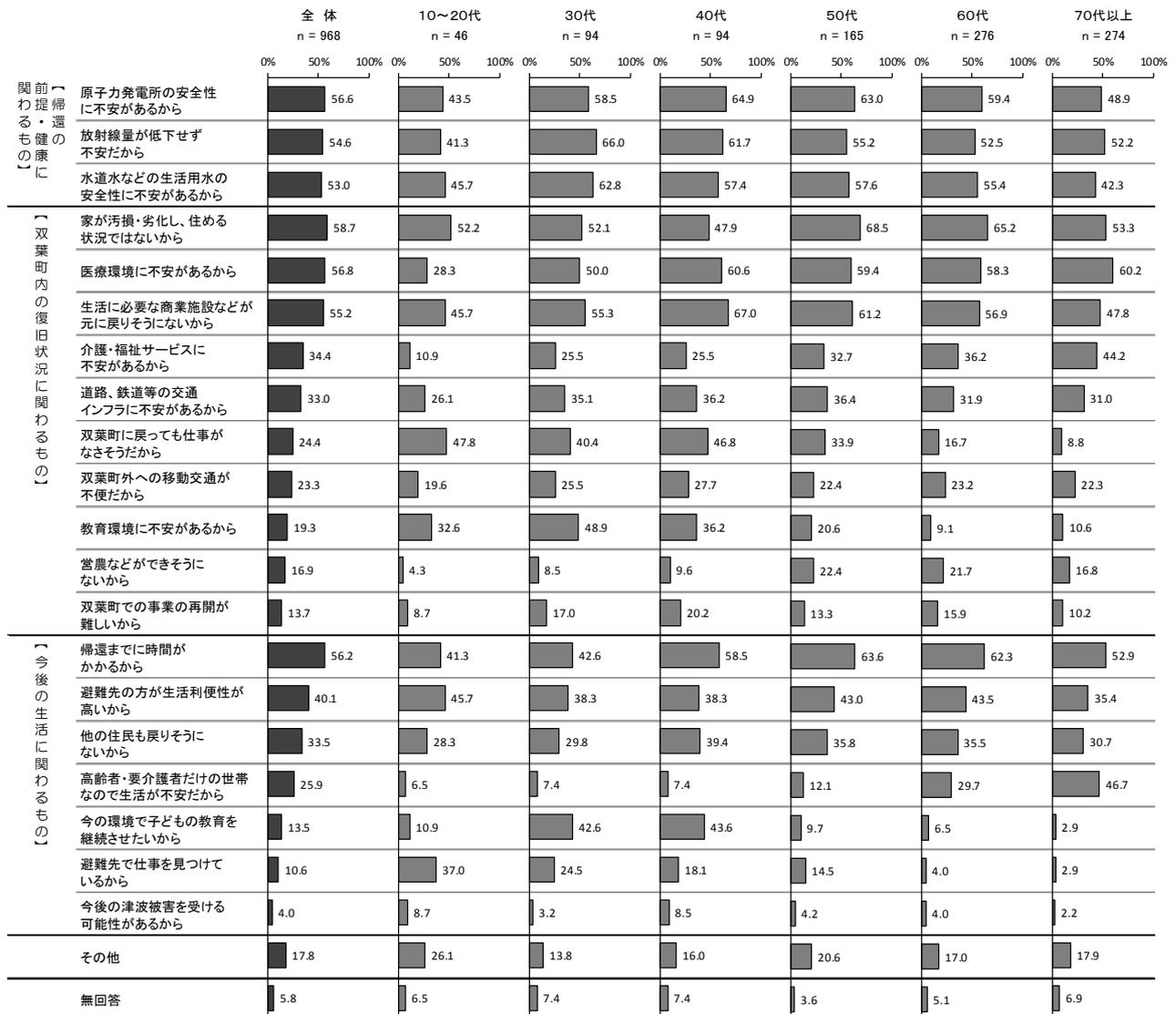
＜図表3-3-9-1 現時点で戻らないと決めている理由＞



III 調査結果

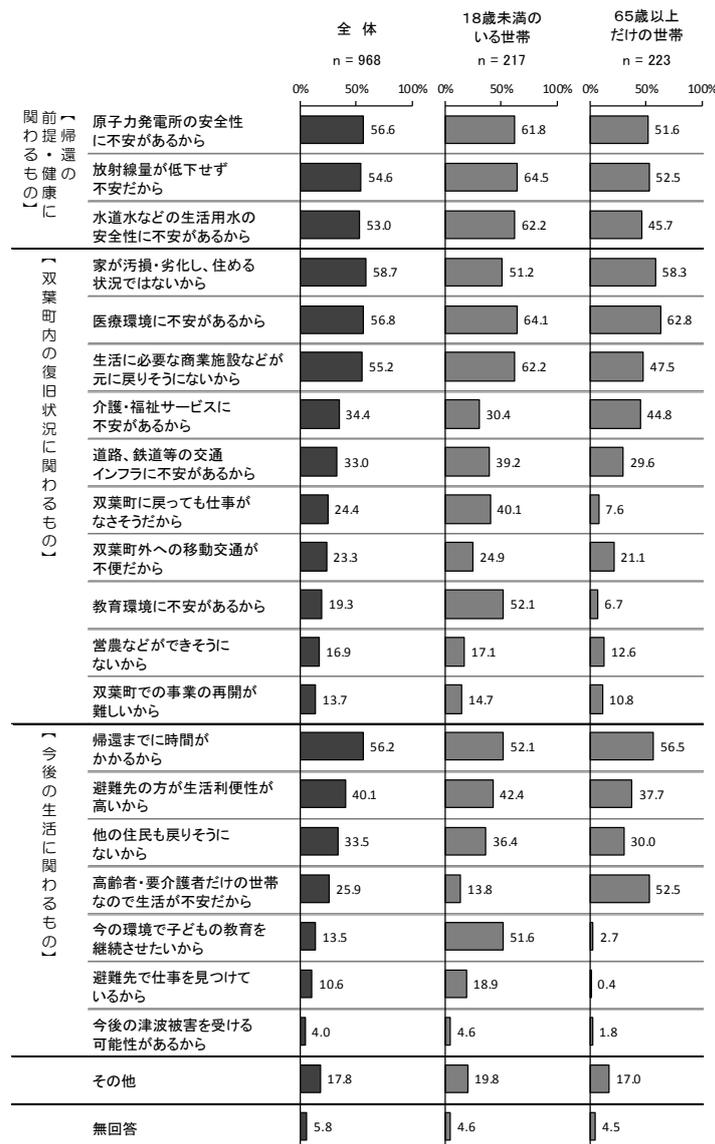
回答者の年齢別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「原子力発電所の安全性に不安があるから」は、40代（64.9%）、50代（63.0%）、「放射線量が低下せず不安だから」は、30代（66.0%）、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」は、30代（62.8%）で他の年齢と比べ高くなっている。【双葉町内の復旧状況に関わるもの】については、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」は、50代（68.5%）、60代（65.2%）で他の年齢と比べ高くなっている。【今後の生活に関わるもの】については、「帰還までに時間がかかるから」は、50代（63.6%）、60代（62.3%）、「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」は、60代（29.7%）、70代（46.7%）、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は、30代（42.6%）、40代（43.6%）、「避難先で仕事を見つけているから」は、10代～20代（37.0%）、30代（24.5%）で他の年齢と比べ高くなっている。

＜図表3-3-9-2 現時点で戻らないと決めている理由（年齢別）＞



世帯構成別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「原子力発電所の安全性に不安があるから」、「放射線量が低下せず不安だから」、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」について、18歳未満のいる世帯はいずれも6割を超えており、65歳以上だけの世帯と比べ高くなっている。【双葉町内の復旧状況に関わるもの】については、18歳未満のいる世帯は「双葉町に戻っても仕事がなさそうだから」が40.1%、「教育環境に不安があるから」が52.1%と、65歳以上だけの世帯と比べ高くなっている。【今後の生活に関わるもの】については、「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」は、65歳以上だけの世帯が52.5%、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は、18歳未満のいる世帯が51.6%となっており、他の世帯構成と比べ高くなっている。

<図表3-3-9-3 現時点で戻らないと決めている理由（世帯構成別）>



3-3-10 帰還しない場合に今後の生活において必要な支援

【問10で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

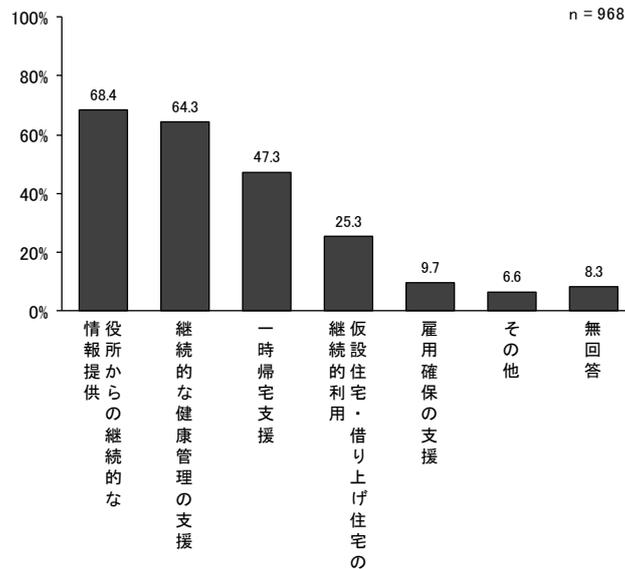
問10-8 現時点で戻らない理由、今後の生活への支援について教えてください。

(2) 震災時に居住されていた双葉町に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

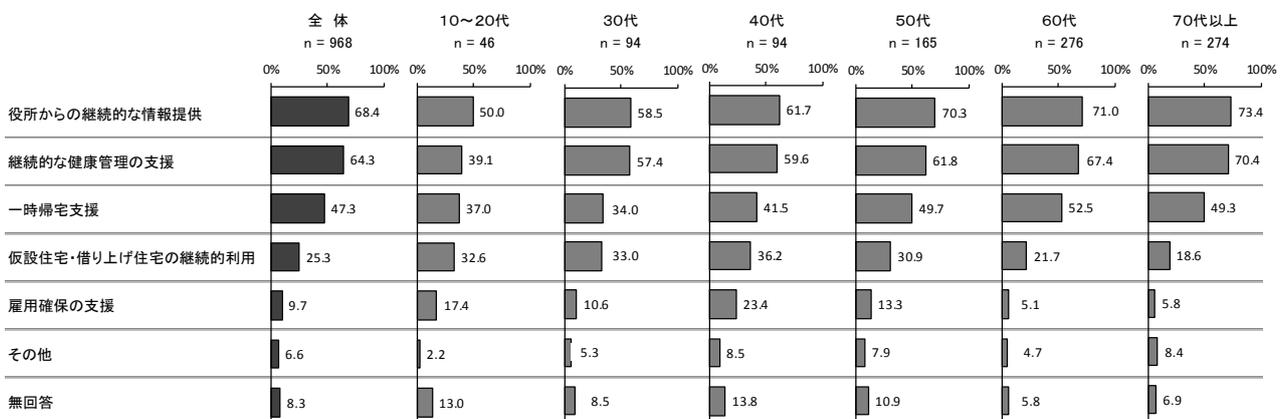
帰還しない場合に今後の生活において必要な支援については、「役所からの継続的な情報提供」が68.4%と最も高く、次いで「継続的な健康管理の支援」が64.3%、「一時帰宅支援」が47.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「役所からの継続的な情報提供」は、全ての回答者の年齢で半数以上を占め、50代以上は7割を超える。一方、「継続的な健康管理の支援」は、30代以上は5割を超えるが、10~20代は4割以下となっている。「雇用確保の支援」は40代で23.4%となっており、他の回答者の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-3-10-1 帰還しない場合に今後の生活において必要な支援>

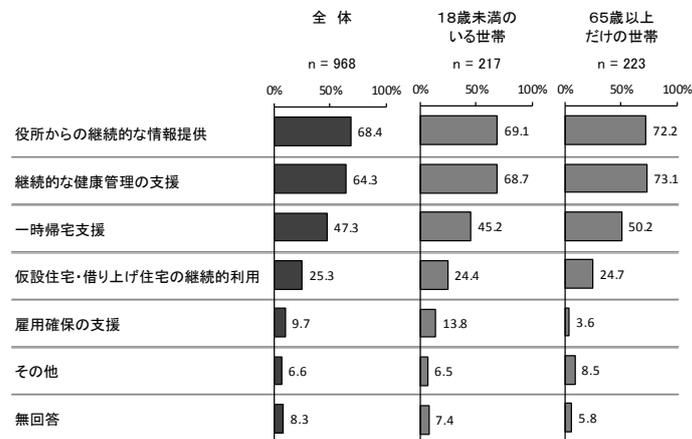


<図表3-3-10-2 帰還しない場合に今後の生活において必要な支援（年齢別）>



世帯構成別にみると、「役所からの継続的な情報提供」は、世帯構成による違いはあまり見られない。「継続的な健康管理の支援」は、18歳未満のいる世帯は68.7%、65歳以上だけの世帯は73.1%となっている。

<図表3-3-10-3 帰還しない場合に今後の生活において必要な支援（世帯構成別）>



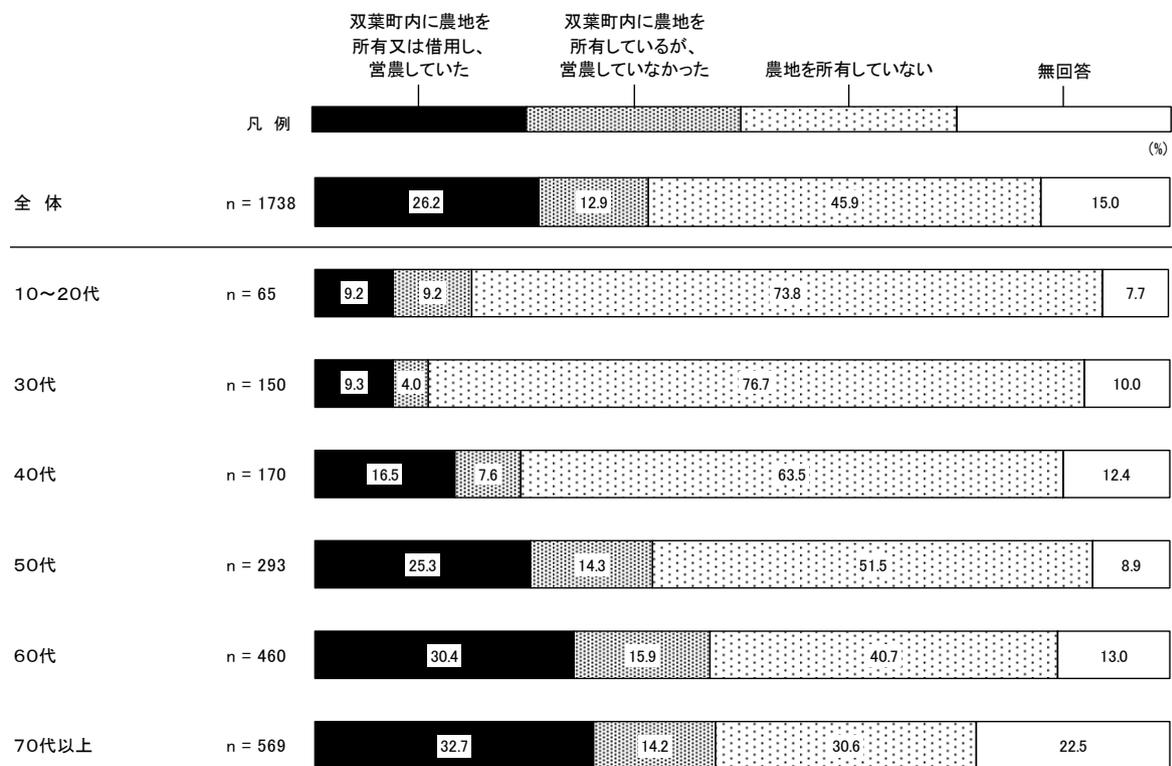
3-3-11 双葉町内の農地の所有および営農状況

問 11 農地の所有状況及び営農について教えてください。(〇は1つ)

双葉町内の農地の所有および営農状況については、「農地を所有していない」が45.9%と最も高く、次いで「双葉町内に農地を所有又は借用し、営農していた」が26.2%、「双葉町内に農地を所有しているが、営農していなかった」が12.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「農地を所有していない」は、10～50代では半数以上を占め、10～20代(73.8%)、30代(76.7%)は7割以上となっている。「双葉町内に農地を所有又は借用し、営農していた」は、回答者の年齢が高くなるにつれ占める割合が高くなり、60代以上は30.4%、70代は32.7%となっている。

<図表3-3-11-1 双葉町内の農地の所有および営農状況(年齢別)>



3-3-12 双葉町の避難指示が解除された場合の営農の再開意向

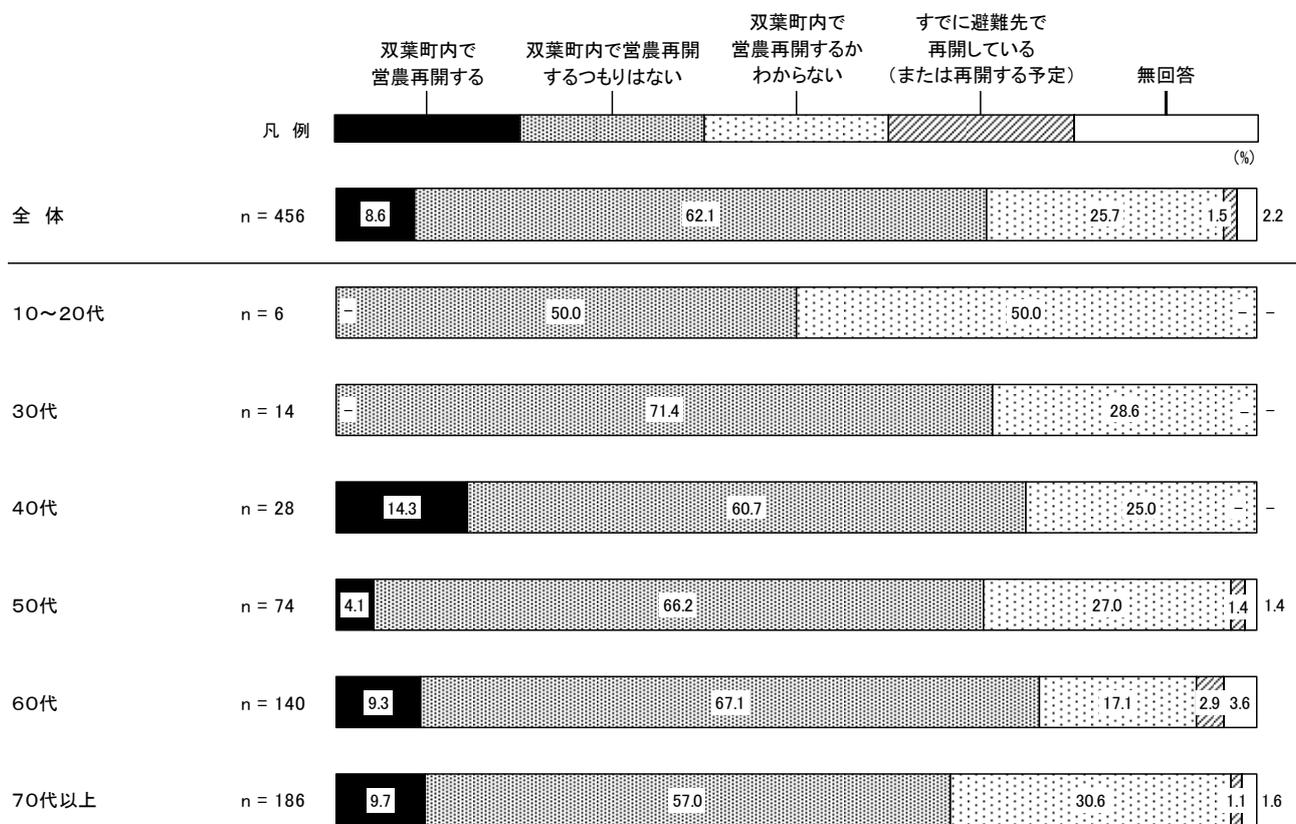
【問 11 で「1. 双葉町内に農地を所有又は借用し、営農していた」と回答した方にうかがいます。】

問 11-1 将来、双葉町の避難指示が解除された場合、営農を再開しますか。(〇は1つ)

双葉町の避難指示が解除された場合の営農の再開意向については、「双葉町内で営農再開するつもりはない」が 62.1%と最も高く、次いで「双葉町内で営農再開するかわからない」が 25.7%、「双葉町内で営農再開する」が 8.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「双葉町内で営農再開する」は 40 代以上で存在する。

<図表 3-3-12-1 双葉町の避難指示が解除された場合の営農の再開意向（年齢別）>



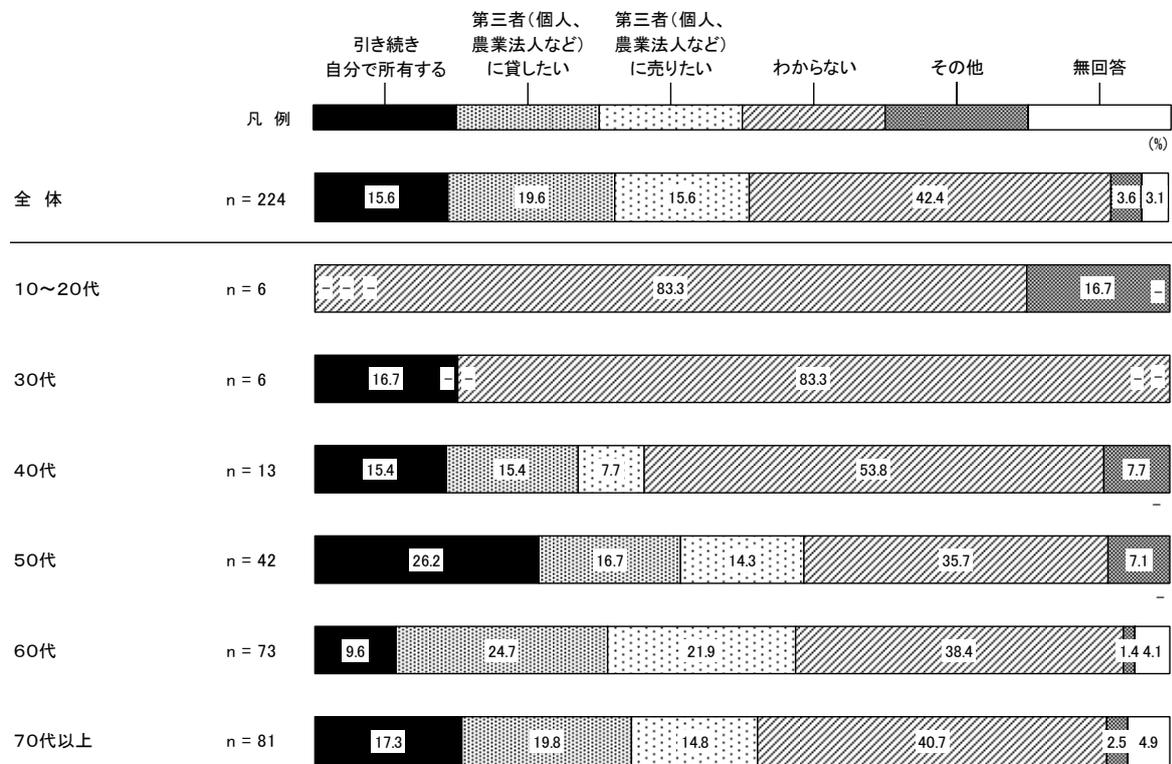
3-3-13 双葉町に所有している農地の権利（所有権）

【問 11 で「2. 双葉町内に農地を所有しているが、営農していなかった」と回答した方にうかがいます。】
 問 11-2 双葉町に所有している農地の権利（所有権）について、どのように考えていますか。（〇は1つ）

双葉町に所有している農地の権利（所有権）については、「わからない」が 42.4%と最も高く、次いで「第三者（個人、農業法人など）に貸したい」が 19.6%、「引き続き自分で所有する」、「第三者（個人、農業法人など）に売りたい」が 15.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「わからない」は、いずれの回答者の年齢で見ても最も高くなっているが、「引き続き自分で所有する」は 50 代で 26.2%と他の回答者の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-3-13-1 双葉町に所有している農地の権利（所有権）（年齢別）>



3-4 意見・要望

問 12 国や自治体への要望、復興に対するあなたのお気持ちや提案などをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちなどについて、906 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることにのあきらめ ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・現在の生活全般の不安について ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について ・将来の生活全般の不安について ・生活（再建）支援について ・その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除染作業の意義について ・除染作業にかかる費用の他への活用について ・除染作業の効果などについて ・除染作業の実施箇所などについて ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュールの明確化について ・中間貯蔵施設について ・その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域への立入りについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・元の住居や土地などの管理・処分について ・元の住居や土地に対する税について ・その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興のスケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・医療施設の復興・充実について ・学校の復興・充実について ・商業の復興・充実について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について ・所有する住まい・土地に対する賠償全般について ・その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の迅速な実施について ・廃炉作業全般について ・その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・現時点では帰還の判断ができない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて ・その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について ・復興公営住宅の建設地・形態等について ・復興公営住宅に係る経済的負担について ・復興公営住宅への入居が可能なかどうかの不安 ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・住宅の購入について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

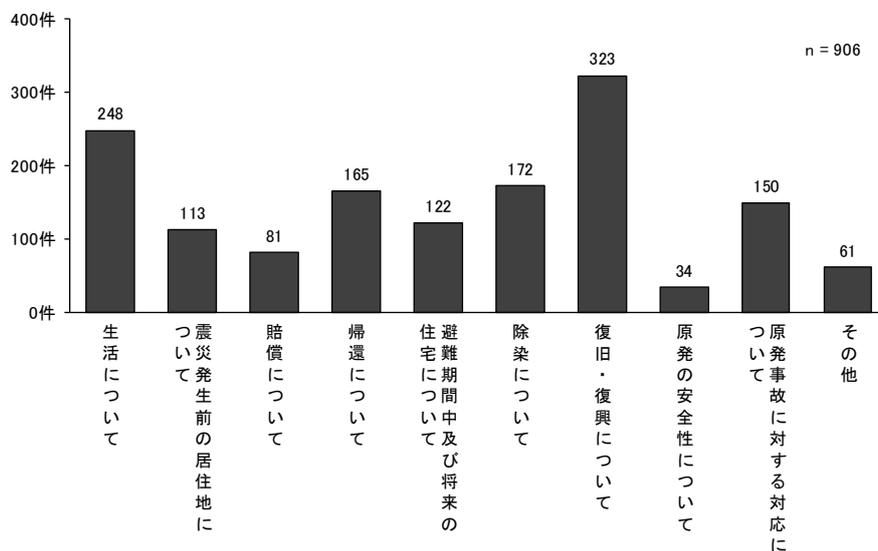
※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

Ⅲ 調査結果

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「復旧・復興について」が323件と最も多く、次いで「生活について」が248件、「除染について」が172件などとなっている。

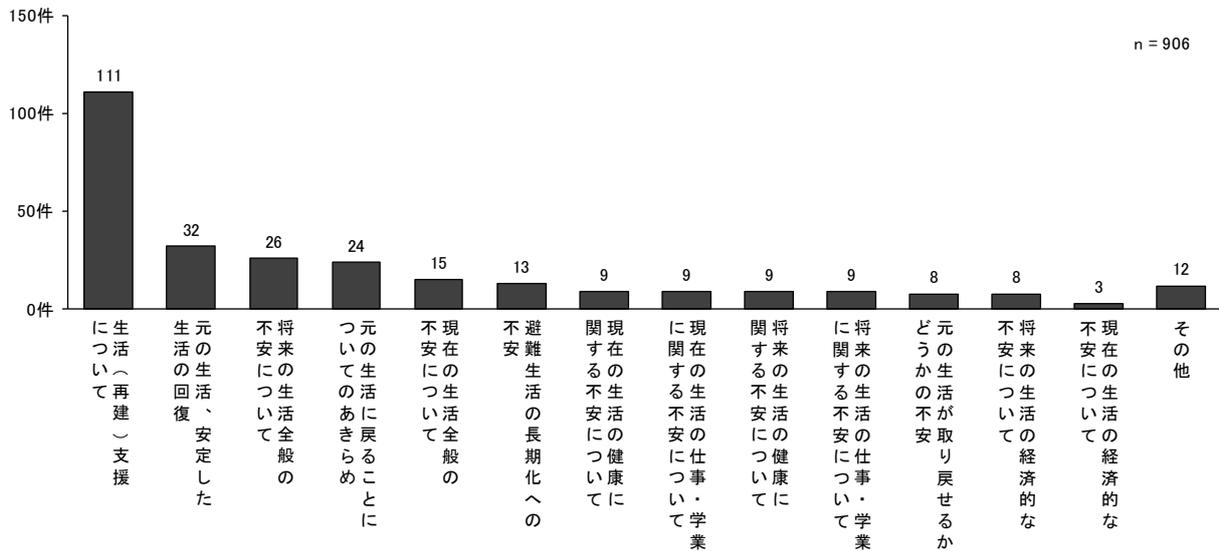
<図表3-4-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「生活（再建）支援について」が111件と最も多く、次いで「元の生活、安定した生活の回復」が32件、「将来の生活全般の不安について」が26件となっている。

<図表3-4-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【生活（再建）支援について】

- 避難先で生活を再建しようとしている町民への支援等を具体的に示してほしい。(40代)
- 双葉町に戻る見通しが明確になった時、職業訓練や資格取得などの支援をして、双葉町内に就職できるようになればと思う。将来、双葉町の働き場所（企業・会社）が、どういう所があるか、離れて住む人々にも知らせたい。放射線の影響がどう出るか、今は明らかでないので、一生かけて保障してほしい。肝炎など、幼い頃の輸血や予防接種などの影響で、年をとってから感染していたということが分かった方を見ると、何が今悪いかは判断できない。だからこそ、原発避難した子ども達の健康を一生かけて守って下さい。(40代)
- 避難したために家族がばらばらに生活している。それぞれは働いて生活しているが、家族に会うために高速道路は必ず使わなければならない、高速道路無料だけは継続してほしい。お金がかかるから家族に会えないということにだけはなりたくない。(50代)

【元の生活、安定した生活の回復】

- もう家族がバラバラになる生活はしたくない。今は、ストレスがたまっており、双葉に帰りたい。これからの事をしっかりと考えていきたい。すべてにおいて改善をしていけば、もしかしたら、今の生活より良くなるのかなと思います。ふるさとをかえしてほしい。福島に1日でも早く戻りたいと思います。(10～20代)
- 原子力発電所の事故がだんだんと風化していくような気がする。やはり、双葉町のようなんびりとした田舎で暮らしたい。今は、仮住まいの身などで、早く自分の家を持ち住み、落ち着きたい。(40代)
- 数年の間、精神的苦痛は計りしれない。家族が離散し生活をしている状況の中、なかなか生活を再建できない。勇気や健設的行動を心掛けているが、十分にささえる力が湧いてこない。人生の“おもしろさ”が感じられなくなっている。少なくとも生活に不安のないことを希望要望したい。(50代)

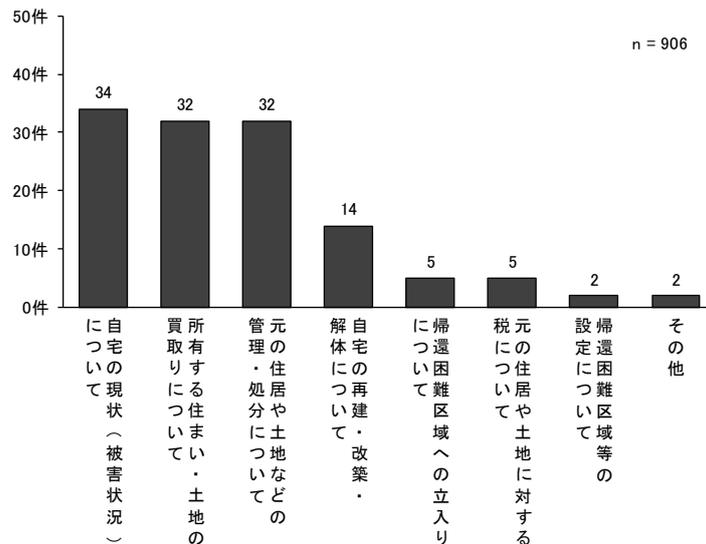
[将来の生活全般の不安について]

- 賠償金の額で家族間に溝が出来たり、避難生活のストレスから健康状態や精神状態に異常が出て来ています。周りとの新しいコミュニティ参加もせず、自宅に隠れる生活で家族が家族を責める事態になっています。どうなるのか本当に不安です。判断の選択肢を早めに提案していただき、この現実から、意味の有る生活と未来を生きていきたいです。このままでは家族崩壊し自分自身も壊れてしまいます。(30代)
- 私の様な孫(小さな子供)の事を思うと、帰りたくても帰れない町民が多いと思います。中間貯蔵施設が始まれば、ますます帰還する町民は少なくなると思います。双葉町を捨てる訳ではありませんが、小さな孫のことを考えれば県外に家を建てて生活もしかたがないかも。(50代)
- 早く避難者というレッテルから離れたい。定着してそこの住民と絆を深めあいたい。定住したら税金その他も住民と同じく収めても良いと思う。それだけの補償は受けていると思う。あまりに金のことがばかりが先行していて住民の目がこわい。(60代)

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「自宅の現状（被害状況）について」が34件と最も多く、次いで「所有する住まい・土地の買取りについて」が32件、「元の住居や土地などの管理・処分について」が32件となっている。

＜図表3-4-3 震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【自宅の現状（被害状況）について】

- ・ 一時立入で戻っても、家の中を見るとネズミに荒らされた状態が増々ひどくなっていて気が滅いる。(40代)
- ・ 双葉の我家をきれいにしたいです。このままだと、家が朽ち果ててしまいます。家財やゴミ等、処分したいです。朽ち果てる前に、せめて、家具やゴミを、処分したいです。独り身では、双葉へ立入るのが精いっぱいです。行政などの手助けの元、なんとかならないでしょうか。電気も使って掃除機をかけたいです。朽ち果てる前に、せめて、長年お世話になった我家をきれいにしてお礼を言いたいです。(50代)
- ・ 母屋は半壊状態で、これは解体しなければならず、私の家の中はメチャクチャ状態。整理・片付け・除染・ゴミ捨て等自分達でやらなければならないのか？植木類は皆伸び放題、剪定したいがそれも出来ず。中間貯蔵施設・町や家の除染・お墓の修理の事を考えると頭が痛くなりそう。(60代)

【所有する住まい・土地の買取りについて】

- ・ 数十年戻れず、営農もままならないので、いっそのこと土地を買って欲しい。そのくらいは国にしてほしいです。(10～20代)
- ・ 不本意ながらも、帰還を断念する人が大半だと思います。所有する不動産を売却できる制度を具体的に早期に進めてほしい。(40代)
- ・ 双葉町には戻って生活する気持がない為、土地（田、畑、宅地）を国等で買い取ってほしい。(60代)

Ⅲ 調査結果

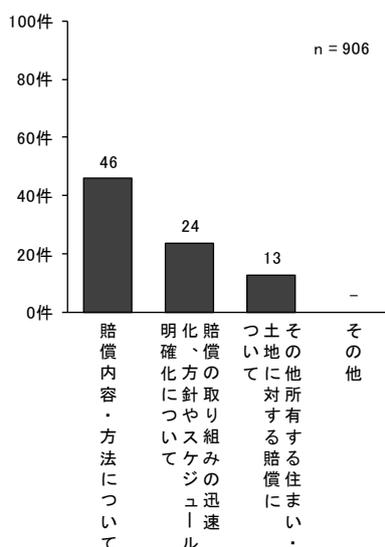
[元の住居や土地などの管理・処分について]

- 中間貯蔵の土地の買いあげ等について、線引きせず希望者に対応するべき。双葉で生活する考えは無いが、誰があのごちゃごちゃになった家や土地の管理をしていくのか。あの日のままの冷蔵庫や瓦礫は、行政で片付ける等の対応をして欲しい。個人では限界があります。(30代)
- 国への不信感はつのるばかりです。双葉町に所有している建物は全壊・半壊に限らず処分してもらえるよう助成を求めます。(40代)
- 戻れない自宅や家具等をどうしたらよいのか。自宅の近くにあるお墓には両親の遺骨があるがどうしたらよいのか？早くなんとかしたいのですが自分ではどうすることも出来ません。自宅(土地)や家具に関しては補償だけでなく購入してほしい。(60代)

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が46件と最も多く、次いで「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について」が24件、「その他所有する住まい・土地に対する賠償について」が13件となっている。

<図表3-4-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【賠償内容・方法について】

- 本当に今でも「双葉にいたときがよかった」と泣いたり、暗くなる日々です。お金だって「賠償金をもらってるでしょ？」とみられがちですが、全然もらえていません。東電からの賠償金は、強く言った人がもらえてるといふ理不尽なことになっていて、うちなんかは何度かけあってもだめでした。これからの生活のお金も補償していただけたらと思います。(30代)
- 福島へ帰りたいが、新しい会社(再就職)となると、年収が格段に下がってしまう。就職情報もみだが、給料低い。東電からの補償(就労不能損害)が、定年まで補償とはならないものか?(40代)
- 個人事業者の事業再建について。原発事故で個人事業者が事業再建に踏み出せない原因として、東京電力の個人事業者に対する一方的な低額賠償がネックになっていると考えます。それは、個人事業者の被害を受けた設備機器等の賠償額を定額賠償で50万円、それ以上の高額設備がある場合は30万円以上の設備機器に対してのみ賠償する方法です。これは、個人事業者のお店の中に、新品の液晶テレビや他の店内設備機器が何台あっても1台30万円以上でないとは賠償しない方法です。初期設備投資が高額になる個人事業者は、50万円の賠償額では、店舗の再建など到底出来ません、店舗を再開したくても諦めています。この様な理不尽で一方的な賠償方法に対して、国や東電には、個人事業者の低額賠償方法の見直しと、安心して個人事業者が事業を再建できる手厚い施策を強く望みます。(60代)

[賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について]

- 現実的に戻ることは不可能と考えているので、そうであれば中間貯蔵施設を双葉郡や他の市町村のために早く建設し、県全体のために役に立ちたい。しかし、そのためにも賠償や土地の扱い（貸すのか売なのか）について早くはっきり明確に提案してほしい。（30代）
- 震災から3年半経ちましたが、もう3年半という気持ちではなく、まだまだ3年半という気持ちが大きいです。特に、双葉町は帰還困難区域に指定されているため、帰りたくても帰れないのが現状です。おそらく一生無理でしょう。そのために、補償問題が一番考えられます。いつまで補償が続くのか、途中で打ち切られるのではないかと、不安の中生活しています。今後の生活、次の世代にも補償は、絶対かかせないので、補償は続けて行って欲しいと強く願います。（60代）

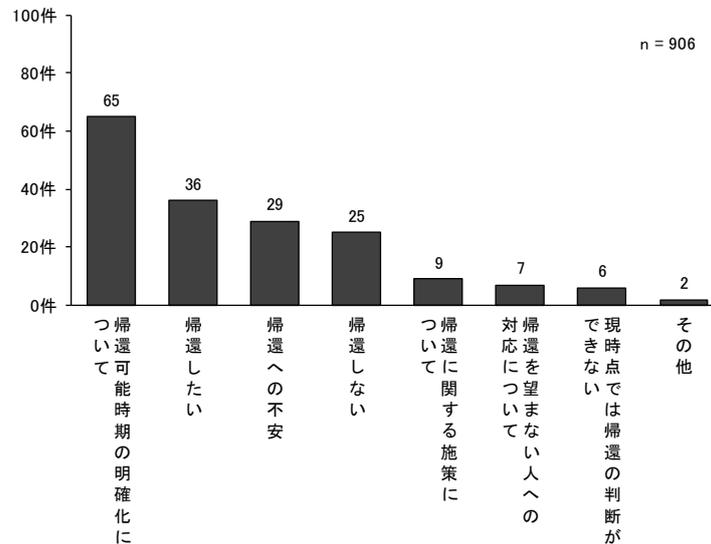
[所有する住まい・土地に対する賠償全般について]

- 双葉町は中間貯蔵施設の候補地になった。町内の建設候補地以外の土地も買い上げてもらいたい。東電補償では、他県に家・農地を確保できない。双葉・大熊町民には、補償額等を特別に増額し、他の土地で生活できるようにしてほしい。（60代）
- 双葉町内に山林を所有しているが、今後も山林を活用したいので、中通り（当地）に代替山林が欲しい。山林の賠償請求はこれからになりますが、示している賠償基準は恐らく低額で代替山林を購入は無理でしょう。この基準の一考を願いたい。（70代）

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還可能時期の明確化について」が65件と最も多く、次いで「帰還したい」が36件、「帰還への不安」が29件となっている。

<図表3-4-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還可能時期の明確化について】

- なるべく早い段階で、帰還できる、できないを判断してほしい。戻れる見込みがないなら、いつまでも引っぱらないでほしい。感情ではなく、冷静な意見を聞かせてほしい。(30代)
- 現状として、自分たちは双葉に戻りたいという気持ちはある。別に放射能も怖くない。だが無理なら無理とはっきり決めて、余計な期待を持たせないでほしい。(40代)
- 国・県・町の方針決定に基づき、今後の生活設計を考える必要があります。早期に方針の提示がなければ、残りの人生に合った、生活設計が考えられず、判断が付きません。(50代)

【帰還したい】

- 本当は早く古里に帰りたいです。もう1度古里で暮らしたいです。でも、汚染物などもまだまだありそうですし、もうネズミなどの被害も受けていて家には住めそうにもないです。ちゃんとした案を出してほしいです。(10~20代)
- 復興には、人が必要と分かっているが、子育て世代の私たちはやはり、放射線が気になって福島での生活をためらってしまう。子どもがある程度大きくなったら、福島へ帰りたい。この気持ちはこれからも変わらないと考えます。(30代)
- 子供の就学等により後数年は、現避難先住居での生活を継続する必要があると考えている。双葉地方の復興が進む事があれば親供々故郷に戻りたい。(40代)

Ⅲ 調査結果

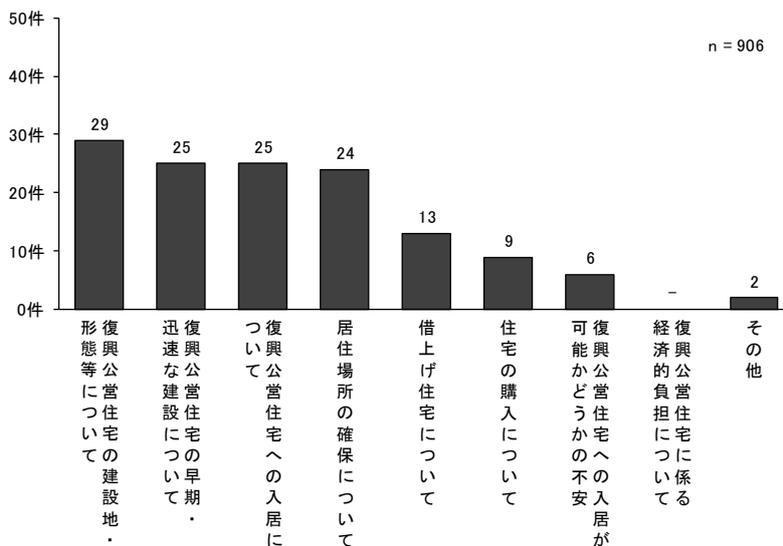
[帰還への不安]

- 私は双葉町に戻ると、当時のことが思い出されて、(地震・津波・原発事故)、心が苦しくなるので時々、訪れるのはいいが、住めないと思う。(10～20代)
- 早く町ををきれいに安全にしてほしい。今後、戻る事も戻らない事も考えると不安になる。せめて、今の避難している所だけでも、若者に戻ってもらえる様にして安心させてほしい。双葉町の住民なので、今後、一緒に住んでいない両親の介護等が不安で、避難先でも介護等、今後、他の住民と同じ様に利用出来る様になればと思っています。(30代)
- 中間貯蔵施設で移転しなければならないが、土地の買上げ、代替地、お墓の移転等、中間貯蔵施設で移転した場合、双葉町民として今後いられるのか？(50代)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「復興公営住宅の建設地・形態等について」が 29 件、次いで「復興公営住宅の早期・迅速な建設について」、「復興公営住宅への入居について」がともに 25 件となっている。

<図表 3-4-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復興公営住宅の建設地・形態等について】

- 世帯構成人数が4名であり、3台の自動車を使用しています。入居を希望する場合には、駐車スペースなどの問題が生じるかと思えます。例えば、戸建てタイプなら、複数台駐車が可能になるなど、詳細な情報が無い中で、判断するのは非常に難しく感じました。(30代)
- 復興住宅の希望地として郡山市としたが、現在犬を飼っているので集合住宅には入居できない！一早くペット可の戸建てを整備してほしい。抽選などと言わず希望地に入居できる様にしてほしい。(40代)
- 復興公営住宅の数が郡山市は少ないので増やして欲しいです。できるだけ、平家や2階建てを希望します。(地震後、高い建物が不安です。)(60代)

【復興公営住宅の早期・迅速な建設について】

- 町・県・国が一体にならないと復興は進まない。被災者自らが復興にもっと関心を持ち、自分達で復興を進めようという気持ちになるようなサポートをしてほしい。早く復興公営住宅、仮の町を作ってほしい。(安心できる場所)(30代)
- 私たちの年齢ぐらいまでは、まだ働けるし自立して生活していけると思いますが、高齢の方は不安でいられると思います。早期に復興住宅を整備して、介護施設など作り入居させて安心してもらいたい。(40代)
- 主人を亡くして仮設で葬儀をするとは思いませんでした。本当に狭いため、人を泊めることも出来ませんでした。早く復興住宅を作っていただきたいです。淋しいので息子と一緒に生活したい。(70代)

Ⅲ 調査結果

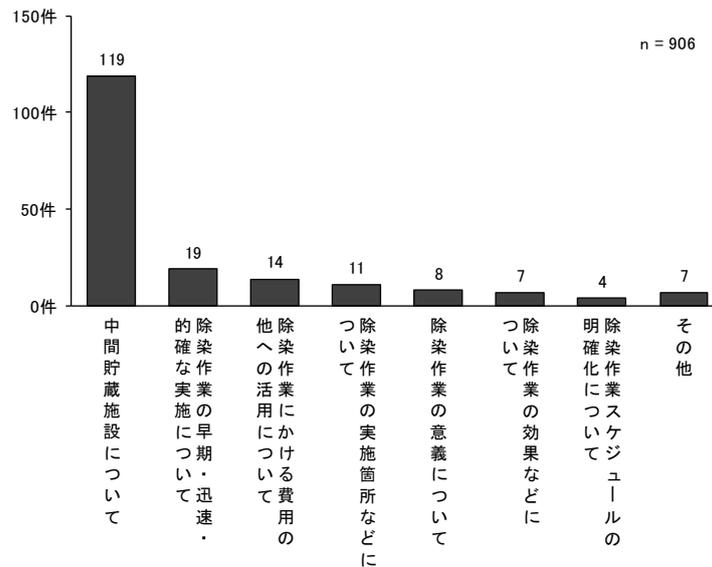
〔復興公営住宅への入居について〕

- 復興住宅も、本当に利用するかを再度アンケートして、本当に必要としている方達は、すぐに入れるようにして欲しい。もう3年半。まだ、何も解決しているとは思いません。(40代)
- 復興住宅を順時建設していますが、一回目の時点で再々募集しているようでは2回目も埋まらないのでは？県外から戻らない方もいるでしょうし、条件がいろいろあって、他の場所に行きたい時も、今いち自由にならないので入居しづらい。(50代)
- 娘達がいる場所から遠くなるので、出来れば泉町本谷の方に、出来る復興公営住宅に入る事を願っています。以前は毎日孫の顔を見ていたので、顔を見る事が出来なくて淋しいです。(70代)

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「中間貯蔵施設について」が 119 件と最も多く、次いで「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が 19 件、「除染作業にかかる費用の他への活用について」が 14 件となっている。

<図表3-4-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【中間貯蔵施設について】

- 戻ることを町全体で諦めて、中間貯蔵施設を町内においた方がいいと思う。そのような施設を他県に願うことは無理だと思う。双葉町民も反対しているのだから、他県の人々の理解を得ることは難しいと考える。土地、アパートなどすべて国や東電に買ってもらってほしい。(10~20代)
- 中間貯蔵施設は反対。中間貯蔵施設が出来れば双葉町に戻る人は、減ると思う。国と県が急いで決めて、町民の声や気持は何も聞いていない。そんな施設は双葉町には必要無い!! (40代)
- 中間貯蔵地施設の建設決定により、全町民帰還への不安は非常に強いと思う。そして将来への不安も。町民ひとりひとりに向き合ってもらいたい。(70代)

【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- 早く除染してほしい、住めるように。(30代)
- 除染、インフラの復旧の取り組みが遅いと思う。街の壊れた家屋などの片付けを早急に行うべき。いつまでもこの様な状態では帰る気にもなれない。公共施設を除染し、一時帰宅の立ち寄り所や町内パトロールの拠点にするなど有効利用したらどうか。(50代)
- 一時も早く放射線を除染し安全・安心して生活出来る様に、そして双葉町全町民が帰町し双葉町の復興し益々の繁栄を祈念致します。(70代)

Ⅲ 調査結果

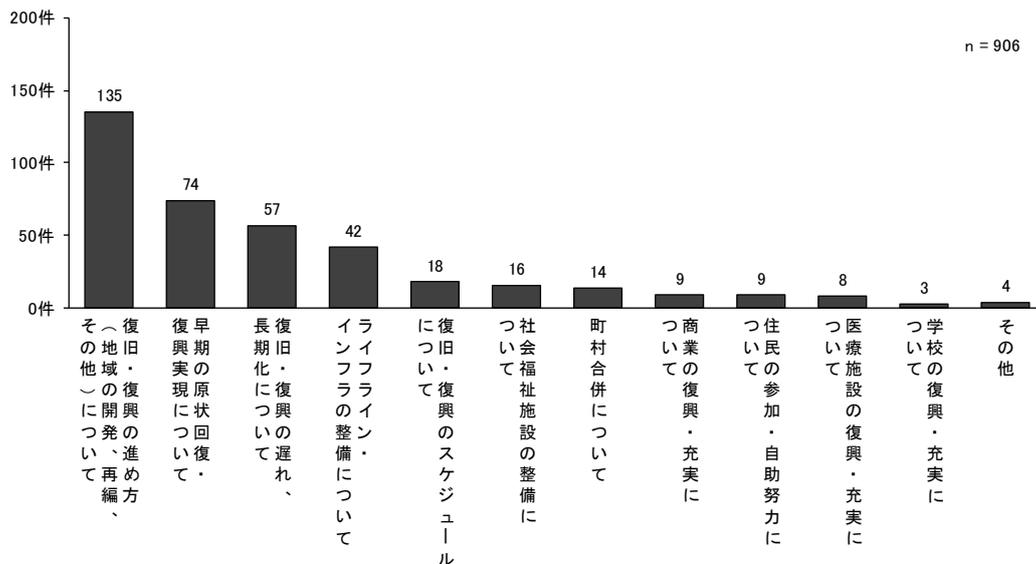
[除染作業にかかる費用の他への活用について]

- 復興の名のもとに行う無駄な除染は、税の有効利用に反するので、誰もが共通に受ける公共インフラの整備を推めて欲しい。
- 双葉町は高額な金を使って除染しても無駄ですよ。比較的線量の低い所は下がってもそれ以上は無理ですね。時間が経過すれば元に戻る。半減期は30年です。金を使うなら生活支援賠償に廻してほしいです。(50代)
- 町の除染にお金を使う事はムダ(山林地が多すぎる)どこかに土地を確保し、町を再興。形だけの町作りは、やめてほしい。(50代)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について」が135件と最も多く、次いで「早期の原状回復・復興実現について」が74件、「復旧・復興の遅れ、長期化について」が57件となっている。

<図表3-4-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について]

- ・ 福島イメージが回復されるよう、テレビなどで、定期的に情報を発信してほしい。福島に人が集まるテーマパークやアウトレットを作って、全国から人が行きたいと思える県づくりをしてほしい。双葉町への要望を伝えられるサイトを作ってほしい。また、20代、30代の町民の情報交換ができる、掲示板サイトがほしい。(10~20代)
- ・ 何をどうしたいのかさっぱりわかりません。もう住めないのだから、日本のどこ探しても無いような、医療センター造るとか、(特区)ほかに無くて双葉にあるもの造って行かないと、若者は集まらないと思います。(30代)
- ・ 国の出先機関や、大手会社の進出等を画策しないと人口を増加出来ないし、日常生活に必要な不可欠な商業・医院等の復活がないと町民は戻らないと思います。(60代)

[早期の原状回復・復興実現について]

- ・ 第一原発が早く収束して、福島県の野菜や魚などが自由になってほしいと思います。(30代)
- ・ 町が分断され、コミュニケーションがこれ以上悪化しないようにしてほしい。全ての町民が幸せになれる様、納得のいく補償の継続を強く求めたい。復興を一番に考え、早く安心して生活出来る様にして下さい。(50代)
- ・ 復興計画が国、自治体の方針等について、もう少し早く決定できないか。自分の年齢等を考慮すると、計画内容も大事だが、それよりも時間を重視してほしい。(70代)

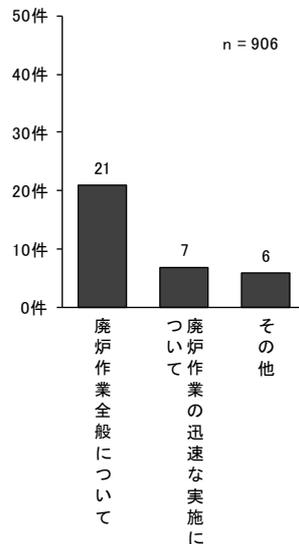
[復旧・復興の遅れ、長期化について]

- 3年経って未だ見通しも立たず、帰れたとしてもそこから復旧、復興しなければいけないというのはとても厳しい。若い人は避難先で生活の基盤をつくってしまうので、復興と言っても震災前以上のことをしないとなかなか帰ってこられないだろうと思う。せめて“帰る場所、帰れる場所”になってほしい。(10～20代)
- 除染や復興・インフラすべてが遅い。高齢者は、諦めの気持ちが多くなり、病気になったり、亡くなったケースが多い様を感じる。(50代)
- 一日も早く帰還の道筋を具体化させて確実に実行していくべきである。そのためには除染の問題、中間貯蔵施設の問題、廃炉の措置の問題が、住民に対して安全で安心であるという保証が見えてこない。国は一刻も早く自治体や住民に対して誠意ある行動を責任を持って示すべきであり、国の方針をはっきりと打ち出して実行してもらいたいものである。そうすれば、自治体もそれにそって道筋が具体化され確実に実行されるものと思う。ふるさとへの帰還を望む者として復興があまりにも遅い。(60代)

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業全般について」が 21 件、「廃炉作業の迅速な実施について」が 7 件となっている。

＜図表 3-4-9 原発の安全性についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【廃炉作業全般について】

- 帰りたいけれど帰れない。原発の廃炉作業が終らない限り帰らない。(30代)
- 廃炉が完全に終わって、双葉町が安全になるかわからないのに帰還したいですか？と聞かれても、じゃあいつから安全なのですか？と聞きたいです。その時自分も生きているのかわからないのにどうすればいいのですか？(40代)
- 事故収束にむけて廃炉作業が行なわれていますが、日々トラブルが起きていて、5年～10年で帰れるのでしょうか？中間貯蔵施設も出来、帰還時期は遠のくと思います。はっきりしてほしいですね。(50代)

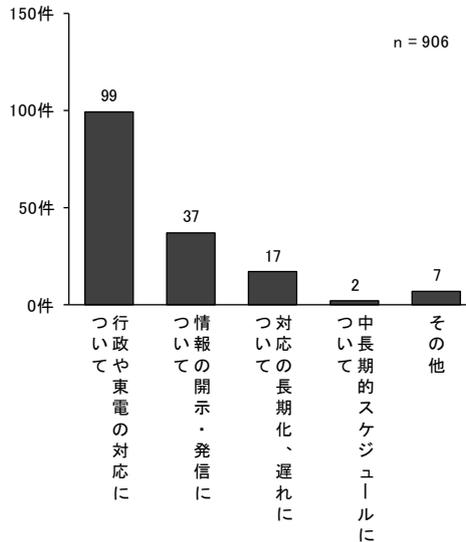
【廃炉作業の迅速な実施について】

- 廃炉作業をしっかりやってほしい。情報を後出しにしてくる東電の体質改善、監視を国にはしっかりやってほしい。国の責任で、福島第一原発の廃炉を一日も早く、正確に安全に作業してほしい。(40代)
- 確実に、1歩1歩廃炉作業を行ってほしい。古郷双葉町の復興、古郷双葉町に戻りたい！(50代)
- 時間経過と共に薄れ去られてしまわないよう、原発被災者への配慮と原子力発電所の廃炉へ向けた確実な実施とチェック態勢の確立、及び情報公開（特に汚染水処理）が必要。(70代)

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が99件と最も多く、次いで「情報の開示・発信について」が37件、「対応の長期化、遅れについて」が17件となっている。

<図表3-4-10 原発事故に対する対応についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- ・ 国はまだ確定してない事を「確定した」と好き放題やっていますし、何かもう、何にも意欲が湧かないですよね。ウソばかりだし。“真面目な奴ほど馬鹿見る”ってこういう事ですかねー。役場の皆さんにはお世話になってます。お疲れ様です。(10~20代)
- ・ 国、政府は私たちに対し誠実でない。人間として、誠実な対応を求める。私は、政府を信用できない。自治体は、双葉町単独とせず郡全体として行動を共に戦うべきである。(30代)
- ・ 東電を許す事はできません。今でも何に対してもとても冷たく感じます。東電は自分達が起こした事故の重大さを理解しているのでしょうか？これでは何ひとつ解決はしません。(40代)

【情報の開示・発信について】

- ・ 放射線についての知識を全国的に広めてほしい。様々な地方に避難した人々の中には差別を受けている人もいるので、対策をお願いしたい。(10~20代)
- ・ 県外で生活していると、県内より震災や東電関係の情報が手に入りにくいと感じています。これから情報の提供を続けて下さい。また、健康診断を引き続き行ってほしいです。(30代)
- ・ うそ、ごまかし等は絶対にしないで欲しい。危険なものは危険とはっきり言って欲しい。不可能な事は不可能とはっきり言って欲しい。将来の予想等どうでも良いから、現時点での情報をリアルタイムで出して欲しい。情報を開示することによって、個人個人がこれからどうするか判断することになると思う。今、国民は国・自治体へ不信感をもっていると思います。(50代)

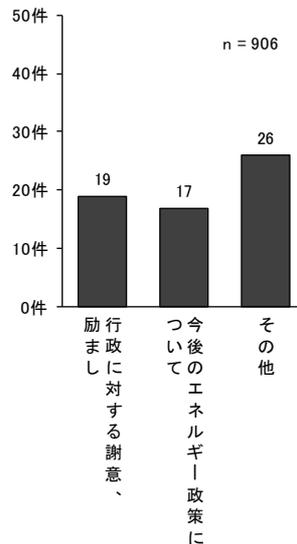
【対応の長期化・遅れについて】

- 双葉町の復興も大切であるが、事故（福島第一原発）の収束、汚染水問題、中間貯蔵施設問題等がまだまだ残っている。なによりも優先なのは、町の将来よりも子供の将来です。（30代）
- 学校や色々な問題に対する方向性を出すのが遅すぎた。もっと早ければ、色々な選択肢が増えていたと思う。原発の安全性や、放射線の問題が大きすぎて10年後、20年後でも子供をかかえて双葉町に帰りますとは、言えない。（40代）
- もやっとした不安な気持ちを引きずっています。政府も自治体も、「我々は、原発を全廃して生きてゆく！」という宣言がなされていないせいです。それがあれば、我々国民は、いえ人類は、1歩1歩でも前向きに生きてゆけるのです！もっと明るくなれるはずです！（60代）

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が 19 件、「今後のエネルギー政策について」が 17 件となっている。

＜図表3-4-11 その他についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政に対する謝意・励まし】

- 先の見えない復興にご尽力いただき、ありがとうございます。復興に関わる皆様の頑張り、東京電力の方々の頑張りにはただただ感謝です。ただ、これからのことを考えますと、双葉町大熊町などが元通りになるとは思えません。線量も心配で片付けにもあまり行けない現状です。国、県の方でその処分などはやっていただけると大変助かります。(30代)
- 将来が見えない中での双葉町存続という大変難しい仕事です。町職員の方々の健康管理をしっかり行い、町民の方々のために頑張りましょう。(50代)
- 原発事故処理に当たられている皆様、大変ご苦労されていると思います。後には、つくばのような、公園的な、研究学園都市のような所になってほしいと思います。それにより苦しかった生活が、ほこれるような場所に何代か先になると思います。(70代)

【今後のエネルギー政策について】

- いまだ帰環できない地域は多いが、双葉郡は気候が良く、メガソーラー（太陽光発電）を設置し、土地の有効活用等をした方が良いと思う。(30代)
- 原発を無くして、太陽熱・地熱などを利用する方が良いと思う。(50代)
- 長年にわたり帰れない場所の農地を太陽光発電の基地にして有効利用したら良いのではないかと考えています。もちろん、土地は売ったり、貸したり地主の希望を取り入れながら長期にわたり地主に地代として収入が入りつつける方法で実行してもらいたいです。(60代)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

双葉町住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

ご回答は、**世帯の代表者の方**をお願いいたします。
 現在世帯が何か所かに分かれて避難されている場合は、**それぞれの場所にお住まいの代表者の方**に、ご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。
 「その他」に○をされた場合は、() 内に具体的な内容もご記入ください。
 の中に具体的な内容の記入をお願いしている間には、具体的な内容（地名、数など）をご記入ください。

➤ 個人情報について

- ・調査票は記名式でお願いしております。（最初のページに「住所」、「氏名」、「連絡先」のご記入をお願いします）。
- ・調査票に記載いただいた個人情報は、双葉町、福島県及び復興庁において適切に管理するとともに、各種施策の検討目的以外には使用致しません。
- ・また、回答はすべて統計的な処理を行い、個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**10月3日（金）まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）。

【お問い合わせ先】

調査の趣旨、記入方法について

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

フリーダイヤル 0120-955-882
 設置期間：9月22日（月）～10月3日（金）
 平日：午前10時～午後5時（土・日・祝を除く）

復興公営住宅について

福島県

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号
 企画調整部避難地域復興局生活拠点課
 Tel：024-521-8618

双葉町に関することについて

双葉町

〒974-8212 福島県いわき市東田町二丁目19番地の4
 いわき事務所 復興推進課
 Tel：0246-84-5203（直通）

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

本調査は、今後の復興公営住宅整備に向けて、住民の皆さまのご意見や要望などをおうかがいすることを目的として実施しております。今後、改めて、復興公営住宅について、詳しくご意向をお聞きする場合がありますので、現在のご住所とご連絡先のご記入をお願いいたします。

なお、当該欄にご記入いただくことによって、復興公営住宅への入居申し込みや入居の確約となるわけではありません。

F1 現在のあなたの住所(番地、アパート名・部屋番号までご記入ください)

F2 あなたの氏名

F3 あなたの連絡先(電話番号)

【すべての方にうかがいます。】

問 1 あなたの現在の年齢(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ~19歳 | 8. 50~54歳 |
| 2. 20~24歳 | 9. 55~59歳 |
| 3. 25~29歳 | 10. 60~64歳 |
| 4. 30~34歳 | 11. 65~69歳 |
| 5. 35~39歳 | 12. 70~74歳 |
| 6. 40~44歳 | 13. 75~79歳 |
| 7. 45~49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にうかがいます。】

問 2 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 7. パート・アルバイト |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 8. 学生 ⇒問3へ |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していない) ⇒問3へ |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している) ⇒問3へ |
| 5. 団体職員 | 11. その他 (具体的に |
| 6. 公務員 |) |

【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 (具体的に |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 |) |

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 3 震災発生当時にお住まいだった行政区を、以下から教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|-------|---------|-------------------------------|
| 1. 新山 | 8. 長塚一 | 15. 中田 |
| 2. 下条 | 9. 長塚二 | 16. 両竹 |
| 3. 郡山 | 10. 下長塚 | 17. 浜野 |
| 4. 細谷 | 11. 羽鳥 | 18. その他 |
| 5. 三字 | 12. 寺松 | 19. (わからない場合は住所
を記載してください) |
| 6. 山田 | 13. 渋川 | [] |
| 7. 石熊 | 14. 鴻草 | [] |

【すべての方にうかがいます。】

問 4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 8. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 9. その他 (具体的に |
| 5. 公営住宅 |) |

避難状況について教えてください。

【すべての方にかがいます。】

問 5 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(○は1つ)

【福島県内】

【 浜 通 り 】

1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 広野町
5. 楡葉町
6. 川内村
7. 新地町

【 中 通 り 】

8. 福島市
9. 郡山市
10. 白河市
11. 須賀川市
12. 二本松市
13. 田村市
14. 伊達市
15. 本宮市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 大玉村
19. 西郷村
20. 三春町

【 会 津 】

21. 会津若松市
22. 喜多方市
23. 会津美里町

【 そ の 他 】

24. 上記 1～23 以外の福島県内の市町村
→具体的にご記入ください

(市・町・村)

【福島県外】

→具体的にご記入ください

25.

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

【すべての方にかがいます。】

問 6 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

(1) 現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

(2) 震災発生ときに、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

【すべての方にうかがいます。】

問 7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1. 応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償) | 6. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 応急仮設住宅(プレハブ型。無償) | 7. 親戚・知人宅 |
| 3. 公営住宅(1.は除く。有償) | 8. 持ち家(ご本人またはご家族所有) |
| 4. 民間賃貸(有償) | 9. その他 (具体的に |
| 5. 給与住宅(社宅など) |) |

【すべての方にうかがいます。】

問 8 避難期間中の住宅や居住環境や、生活において困っていること、改善を求めること等があればお書きください。(医療、教育、介護・福祉、就労、コミュニティなど)

復興公営住宅など今後の避難期間中の居留意向についてお聞かせください。

同封資料「福島県における原発避難者向け復興公営住宅について」をご覧くださいからお答えください。

【すべての方にうかがいます。】

問 9 現在、福島県は別紙に記載の通り、復興公営住宅の整備を進めています。あなたのご家族は、復興公営住宅への入居を希望しますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------------------|---|----------|
| 1. 既に当選または入居が決定している | } | ⇒問 9-1 へ |
| 2. 入居の申し込み中である | | |
| 3. 今後、入居の申し込みをしたい | | |
| 4. 現時点では判断できない | } | ⇒問 9-4 へ |
| 5. 入居を希望しない | | |

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居の申し込みをしたい方（問9で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問 9-1 入居を希望する、または申し込みを行っている復興公営住宅の地域、入居する際の家族構成についてお聞かせください。

※家族が多い等の理由により、分散して入居される方(希望を含む)は、下表の<1世帯目>、<2世帯目>の列にそれぞれお答えください。

※分散入居がない(希望しない)場合は、下表の<2世帯目>の列では、「13. 分散して入居しない」を選択してください。

(1)自治体名を教えてください。

	自治体名	<1世帯目> (○は1つ)	<2世帯目> (○は1つ)
現在受入の計画あり (双葉町から避難されている方が入居可能な復興公営住宅を整備中又は検討中)	1. 福島市	1	1
	2. 会津若松市	2	2
	3. 郡山市	3	3
	4. いわき市	4	4
	5. 二本松市	5	5
	6. 南相馬市	6	6
	7. 白河市	7	7
	8. 三春町	8	8
	9. 広野町	9	9
現在受入の計画なし	10. 川内村	10	10
	11. 檜葉町	11	11
	12. その他の市町村	12()	12()
	13. 分散して入居しない		13

※12. を選択した場合は、()内に具体的にご希望の市町村名を記入してください。

(2)入居する際の家族構成をご記入ください。(人数で回答)

※現在ご一緒にお住まいの家族について、ご記入ください。

	<1世帯目>	<2世帯目>
ア)未就学児(小学校入学前)	人	人
イ)小学生	人	人
ウ)中学生	人	人
エ)15歳以上18歳未満(中学生を除く)	人	人
オ)18歳以上65歳未満	人	人
カ)65歳以上	人	人

IV 参考資料

【入居の申し込み中である方、今後、入居の申し込みをしたい方（問9で「2」、「3」と回答した方）で、問9-1（1）＜1世帯目＞あるいは＜2世帯目＞で「4. いわき市」と回答した方】

※「2. 入居の申し込み中である」方は、現在申し込み中の応募に当選せず、再度申し込みを行う場合を想定してお答えください。

(3)いわき市勿来酒井地区を希望しますか。

	1. 希望する	2. 希望しない	3. 判断できない
＜1世帯目＞（○は1つ）	1	2	3
＜2世帯目＞（○は1つ）	1	2	3

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居の申し込みをしたい方（問9で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問9-2 復興公営住宅に入居する場合に、サービスとして必要だと思うものは何ですか。（○は3つまで）

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1. 避難住民同士の交流会等の開催 | 5. 子どもの学習支援 |
| 2. 地元住民との交流会等の開催 | 6. 健康相談員の設置 |
| 3. 高齢者向けの見守り(巡回等) | 7. その他（具体的に |
| 4. コミュニティバスなどの交通支援 | ） |

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居の申し込みをしたい方（問9で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問9-3 現在、ペットを飼っていますか。（○はいくつでも）

- | | |
|-------------------------|---|
| 1. 室内で犬を飼っている |) |
| 2. 室外で犬を飼っている | |
| 3. 猫を飼っている | |
| 4. 犬、猫以外のペットを飼っている(具体的に | |
| 5. ペットは飼っていない | |

 問10へお進みください

【問9で「4. 現時点では判断できない」「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】「4. 現時点では判断できない」と回答した方は、入居しないとすればという仮定でお答えください。

問9-4 あなたは今後の住居をどのようにお考えですか。（○は1つまで）

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1. 今の住居で継続して暮らしたい | ⇒問9-5へ |
| 2. 現在居住している住居から引っ越したい | ⇒問9-6へ |
| 3. 現時点ではわからない、判断できない | ⇒問10へ |

【問9-4で「1. 今の住居で継続して暮らしたい」と回答した方にうかがいます。】

問9-5 今の住居で継続して暮らしたい理由は何ですか。（○はいくつでも）

- | | |
|-----------------------|-----------------------------------|
| 1. 今のコミュニティになじんでいるから | 8. 自分又は家族の持ち家だから(避難後に自宅を購入したから) |
| 2. 立地が気に入っているから | 9. 今の住宅の家賃が無償だから(家賃が賠償対象になっているから) |
| 3. 間取り等今の住宅が気に入っているから | 10. 引っ越しを繰り返すのがいやだから |
| 4. 現在の職場が近くて便利だから | 11. その他（具体的に |
| 5. 買い物等の日常生活に便利だから | ） |
| 6. 防犯上安心だから | |
| 7. 子どもを転校させたくないから | |

 問10へお進みください

【問 9-4 で「2. 現在居住している住居から引っ越したい」と回答した方にうかがいます。】

問 9-6 転居について教えてください。

(1) 避難期間中に、転居を希望される自治体を教えてください。(○は1つ)

【 福 島 県 内 】	
【 浜 通 り 】	※ いわき市については地区名を教えてください。(○は1つ)
1. いわき市 →	a. 平 b. 小名浜 c. 勿来 d. 常磐 e. 内郷
2. 相馬市	f. 四倉 g. 遠野 h. 小川 i. 好間 j. 三和
3. 南相馬市	k. 田人 l. 川前 m. 久ノ浜・大久
4. 広野町	
5. 檜葉町	
6. 川内村	
7. 新地町	
【 中 通 り 】	【 会 津 】
8. 福島市	21. 会津若松市
9. 郡山市	22. 喜多方市
10. 白河市	23. 会津美里町
11. 須賀川市	
12. 二本松市	
13. 田村市	【 そ の 他 】
14. 伊達市	24. 上記 1～23 以外の福島県内の市町村
15. 本宮市	(具体的にご記入ください。)
16. 桑折町	→ <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/> (市・町・村)
17. 川俣町	
18. 大玉村	
19. 西郷村	
20. 三春町	

【 福 島 県 外 】	
25. (具体的にご記入ください。)	
→ <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/> (都・道・府・県)	→ <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/> (市・町・村・区)

【 未 定 】	
26. 決めかねている	

(2) 現在の居住地から他の避難先への移動を希望する場合、希望する住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建)	6. 給与住宅(社宅など)
2. 持ち家(マンションなど)	7. 家族のどなたかのお住まい・実家
3. 民間賃貸住宅(一戸建)	8. 親戚・知人宅
4. 民間賃貸住宅(アパート・マンションなど)	9. その他
5. 公営住宅(原発避難者向けの復興公営住宅を除く通常の都道府県営住宅や市町村営住宅)	(具体的に)

ここからの設問は、同封資料の「町への復興に

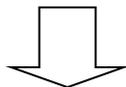
将来に関するご意向に

【すべての方にうかがいます。】

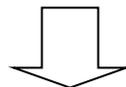
問 10 将来、双葉町の避難指示が解除された後の双葉町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。

1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)

2. まだ判断がつかない



「1.」を選んだ方のみ、
こちらへお進みください

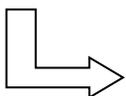


問 10-1-1 何年以内であれば待てますか。(○はひとつ)

1. 3年以内
2. 5年以内
3. 10年以内
4. 帰れるまで待つ

問 10-1-2 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。
(○はひとつ)

1. 家族全員での帰還を考えている
2. 家族一部での帰還を考えている
3. 現在検討しているところ
4. まだわからない



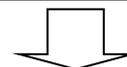
問 10-4 へ

問 10-2-1 双葉町へ戻るこ

1. 避難指示解除となる時
2. 道路、鉄道、学校、病院
3. どの程度の住民が戻る
4. 放射線量の低下の目途、
5. 中間貯蔵施設の情報
6. 原子力発電所の安全性
7. 放射線の人体への影響
8. 働く場の確保の目途
9. 受領する賠償額の確定
10. 住宅確保への支援に関
11. その他(具体的に
12. 現時点で家族間の意見
13. 現時点ではどのような情

問 10-2-2 上記「1」から「11」

選択肢番号	



問 10-3 双葉

1. そう思う
2. そう思わない
3. わからない

係る取組」をよくお読みになってからお答えください。

ついてお聞かせください。

「1」から「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。(〇は1つ)

3. 戻らないと決めている

「2.」を選んだ方のみ、
こちらへお進みください

とを判断するために必要なことを教えてください。(〇はいくつでも)

期の目安に関する情報
などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途
かの状況
除染成果の状況

に関する情報(事故収束や廃炉の状況)
に関する情報

する情報

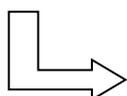
が分かれており、帰還意向について回答できない
報があれば判断できるかわからない

で重視したいことを3つまで選び、その条件を教えてください。

具体的な条件・内容

「3.」を選んだ方は、
こちらへお進みください

町との“つながり”を保ちたいと思いますか。(〇は1つ)



問 10 で「2.現時点でまだ判断がつかない」を選んだ方は問 11 へ
問 10 で「3.現時点で戻らないと決めている」を選んだ方問 10-8 へ

【問 10 で「1. 現時点で戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 10-4 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------------------------|---|-----------|
| 1. 元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む) | } | ⇒問 10-6 へ |
| 2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい | | ⇒問 10-5 へ |
| 3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい | } | ⇒問 10-6 へ |
| 4. 民間賃貸住宅(一戸建て) | | |
| 5. 民間賃貸住宅(集合住宅) | } | ⇒問 10-6 へ |
| 6. 公営住宅 | | |
| 7. 給与住宅(社宅など) | } | ⇒問 10-6 へ |
| 8. 家族のどなたかのお住まい・実家 | | |
| 9. 親戚・知人宅 | } | ⇒問 10-6 へ |
| 10. その他 (具体的に | | |
| 11. 現時点では判断できない |) | |

【問 10-4 で「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

問 10-5 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| 1. 元の持ち家(自宅)周辺の放射線量の高さが心配だから | 5. 元の持ち家(自宅)が荒廃しているから |
| 2. 元の持ち家(自宅)周辺に住む人が少ないと思うから | 6. その他 (具体的に |
| 3. 双葉町内の新たな場所で生活を開始したいから |) |
| 4. 今後、津波の被害を受けることが心配だから | |

【問 10 で「1. 現時点で戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 10-6 震災時に居住されていた双葉町に戻る場合に、今後の生活においてどのような支援が必要と考えますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|---|
| 1. 除染対策 |) |
| 2. 住宅の修繕や建て替えへの支援 | |
| 3. 商業施設の再開や新設 | |
| 4. 医療、介護福祉施設の再開や新設 | |
| 5. 学校や教育施設の再開や新設 | |
| 6. 公共交通機関の再開 | |
| 7. 雇用確保・就業支援 | |
| 8. 携帯電話やインターネット等通信環境の改善 | |
| 9. 地域のきずな維持・コミュニティへの支援 | |
| 10. その他 (| |
| 11. 特にない ⇒問 11 へ | |

【問 10-6 で「1」から「10」と回答した方にうかがいます。】

問 10-7 上記(問 10-6)で選んだ支援のうち、重視したいものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。また、具体的な内容の欄に、支援の具体的な内容について、お書きください。

選択肢番号	具体的な内容
(例) 4	〇〇病院の再開

 問 11 へお進みください

【問 10 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 10-8 現時点で戻らない理由、今後の生活への支援について教えてください。

(1) 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

【帰還の前提・健康に関わるもの】	【今後の生活に関わるもの】
1. 放射線量が低下せず不安だから	14. 高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから
2. 原子力発電所の安全性に不安があるから	15. 他の住民も戻りそうにないから
3. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから	16. 今後の津波被害を受ける可能性があるから
【双葉町内の復旧状況に関わるもの】	17. 帰還までに時間がかかるから
4. 双葉町に戻っても仕事がなさそうだから	18. 避難先で仕事を見つけているから
5. 双葉町での事業の再開が難しいから	19. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
6. 営農などができそうにないから	20. 避難先の方が生活利便性が高いから
7. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから	21. その他
8. 双葉町外への移動交通が不便だから	（具体的に）
9. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから	
10. 医療環境に不安があるから	
11. 介護・福祉サービスに不安があるから	
12. 教育環境に不安があるから	
13. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから	

(2) 震災時に居住されていた双葉町に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。

(〇はいくつでも)

1. 継続的な健康管理の支援	
2. 雇用確保の支援	
3. 仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用	
4. 役所からの継続的な情報提供	
5. 一時帰宅支援	
6. その他(具体的に))

【すべての方にうかがいます。】

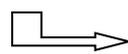
問 11 農地の所有状況及び営農について教えてください。(〇は1つ)

1. 双葉町内に農地を所有又は借用し、営農していた	⇒問 11-1 へ
2. 双葉町内に農地を所有しているが、営農していなかった	⇒問 11-2 へ
3. 農地を所有していない	⇒問 12 へ

【問 11 で「1. 双葉町内に農地を所有又は借用し、営農していた」と回答した方にうかがいます。】

問 11-1 将来、双葉町の避難指示が解除された場合、営農を再開しますか。(〇は1つ)

1. 双葉町内で営農再開する)
2. 双葉町内で営農再開するつもりはない （理由を具体的に）	
3. 双葉町内で営農再開するかわからない	
4. すでに避難先で再開している(または再開する予定)	

 問 12 へお進みください

IV 参考資料

【問 11 で「2. 双葉町内に農地を所有しているが、営農していなかった」と回答した方にうかがいます。】

問 11-2 双葉町に所有している農地の権利(所有権)について、どのように考えていますか。(○は1つ)

1. 引き続き自分で所有する
2. 第三者(個人、農業法人など)に貸したい
3. 第三者(個人、農業法人など)に売りたい
4. わからない
5. その他

【具体的に

【すべての方にうかがいます。】

問 12 国や自治体への要望、復興に対するあなたのお気持ちや提案などをご自由にお書きください。

以上でご回答いただく内容は終わりです。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送封筒にご記入済み調査票を入れて、
10月3日(金)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**双葉町 住民意向調査
報告書**

平成27年3月

復興庁 福島県 双葉町

調査機関:株式会社サーベイリサーチセンター

